



API リファレンス

AWS Lambda



API バージョン 2015-03-31

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AWS Lambda: API リファレンス

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、お客様に混乱を招く可能性がある態様、または Amazon の信用を傷つけたり、失わせたりする態様において、Amazon のものではない製品またはサービスに関連して使用してはなりません。Amazon が所有していない他のすべての商標は、それぞれの所有者の所有物であり、Amazon と提携、接続、または後援されている場合とされていない場合があります。

Table of Contents

ようこそ	1
SDK を使用する場合の証明書のエラー	1
アクション	3
AddLayerVersionPermission	6
リクエストの構文	6
URI リクエストパラメータ	6
リクエストボディ	7
レスポンスの構文	8
レスポンス要素	8
エラー	9
以下の資料も参照してください。	10
AddPermission	11
リクエストの構文	11
URI リクエストパラメータ	11
リクエストボディ	12
レスポンスの構文	15
レスポンス要素	15
エラー	15
以下の資料も参照してください。	16
CreateAlias	18
リクエストの構文	18
URI リクエストパラメータ	18
リクエストボディ	19
レスポンスの構文	20
レスポンス要素	20
エラー	21
以下の資料も参照してください。	22
CreateCodeSigningConfig	24
リクエストの構文	24
URI リクエストパラメータ	24
リクエストボディ	24
レスポンスの構文	25
レスポンス要素	25
エラー	26

以下の資料も参照してください。	26
CreateEventSourceMapping	27
リクエストの構文	28
URI リクエストパラメータ	29
リクエストボディ	29
レスポンスの構文	36
レスポンス要素	37
エラー	43
以下の資料も参照してください。	44
CreateFunction	45
リクエストの構文	46
URI リクエストパラメータ	47
リクエストボディ	48
レスポンスの構文	54
レスポンス要素	56
エラー	62
以下の資料も参照してください。	64
CreateFunctionUrlConfig	65
リクエストの構文	65
URI リクエストパラメータ	65
リクエストボディ	66
レスポンスの構文	67
レスポンス要素	67
エラー	69
以下の資料も参照してください。	69
DeleteAlias	71
リクエストの構文	71
URI リクエストパラメータ	71
リクエストボディ	72
レスポンスの構文	72
レスポンス要素	72
エラー	72
以下の資料も参照してください。	73
DeleteCodeSigningConfig	74
リクエストの構文	74
URI リクエストパラメータ	74

リクエストボディ	74
レスポンスの構文	74
レスポンス要素	74
エラー	74
以下の資料も参照してください。	75
DeleteEventSourceMapping	76
リクエストの構文	76
URI リクエストパラメータ	76
リクエストボディ	76
レスポンスの構文	76
レスポンス要素	78
エラー	83
以下の資料も参照してください。	84
DeleteFunction	86
リクエストの構文	86
URI リクエストパラメータ	86
リクエストボディ	87
レスポンスの構文	87
レスポンス要素	87
エラー	87
以下の資料も参照してください。	88
DeleteFunctionCodeSigningConfig	89
リクエストの構文	89
URI リクエストパラメータ	89
リクエストボディ	89
レスポンスの構文	89
レスポンス要素	90
エラー	90
以下の資料も参照してください。	91
DeleteFunctionConcurrency	92
リクエストの構文	92
URI リクエストパラメータ	92
リクエストボディ	92
レスポンスの構文	92
レスポンス要素	93
エラー	93

以下の資料も参照してください。	93
DeleteFunctionEventInvokeConfig	95
リクエストの構文	95
URI リクエストパラメータ	95
リクエストボディ	96
レスポンスの構文	96
レスポンス要素	96
エラー	96
以下の資料も参照してください。	97
DeleteFunctionUrlConfig	98
リクエストの構文	98
URI リクエストパラメータ	98
リクエストボディ	99
レスポンスの構文	99
レスポンス要素	99
エラー	99
以下の資料も参照してください。	100
DeleteLayerVersion	101
リクエストの構文	101
URI リクエストパラメータ	101
リクエストボディ	101
レスポンスの構文	101
レスポンス要素	102
エラー	102
以下の資料も参照してください。	102
DeleteProvisionedConcurrencyConfig	103
リクエストの構文	103
URI リクエストパラメータ	103
リクエストボディ	104
レスポンスの構文	104
レスポンス要素	104
エラー	104
以下の資料も参照してください。	105
GetAccountSettings	106
リクエストの構文	106
URI リクエストパラメータ	106

リクエストボディ	106
レスポンスの構文	106
レスポンス要素	106
エラー	107
以下の資料も参照してください。	107
GetAlias	109
リクエストの構文	109
URI リクエストパラメータ	109
リクエストボディ	110
レスポンスの構文	110
レスポンス要素	110
エラー	111
以下の資料も参照してください。	112
GetCodeSigningConfig	113
リクエストの構文	113
URI リクエストパラメータ	113
リクエストボディ	113
レスポンスの構文	113
レスポンス要素	114
エラー	114
以下の資料も参照してください。	114
GetEventSourceMapping	116
リクエストの構文	116
URI リクエストパラメータ	116
リクエストボディ	116
レスポンスの構文	116
レスポンス要素	118
エラー	123
以下の資料も参照してください。	124
GetFunction	125
リクエストの構文	125
URI リクエストパラメータ	125
リクエストボディ	126
レスポンスの構文	126
レスポンス要素	128
エラー	129

以下の資料も参照してください。	130
GetFunctionCodeSigningConfig	131
リクエストの構文	131
URI リクエストパラメータ	131
リクエストボディ	131
レスポンスの構文	131
レスポンス要素	132
エラー	133
以下の資料も参照してください。	133
GetFunctionConcurrency	135
リクエストの構文	135
URI リクエストパラメータ	135
リクエストボディ	135
レスポンスの構文	135
レスポンス要素	136
エラー	136
以下の資料も参照してください。	137
GetFunctionConfiguration	138
リクエストの構文	138
URI リクエストパラメータ	138
リクエストボディ	139
レスポンスの構文	139
レスポンス要素	141
エラー	148
以下の資料も参照してください。	148
GetFunctionEventInvokeConfig	150
リクエストの構文	150
URI リクエストパラメータ	150
リクエストボディ	151
レスポンスの構文	151
レスポンス要素	151
エラー	152
以下の資料も参照してください。	153
GetFunctionUrlConfig	154
リクエストの構文	154
URI リクエストパラメータ	154

リクエストボディ	155
レスポンスの構文	155
レスポンス要素	155
エラー	157
以下の資料も参照してください。	157
GetLayerVersion	159
リクエストの構文	159
URI リクエストパラメータ	159
リクエストボディ	159
レスポンスの構文	159
レスポンス要素	160
エラー	162
以下の資料も参照してください。	163
GetLayerVersionByArn	164
リクエストの構文	164
URI リクエストパラメータ	164
リクエストボディ	164
レスポンスの構文	164
レスポンス要素	165
エラー	167
以下の資料も参照してください。	167
GetLayerVersionPolicy	169
リクエストの構文	169
URI リクエストパラメータ	169
リクエストボディ	169
レスポンスの構文	169
レスポンス要素	170
エラー	170
以下の資料も参照してください。	171
GetPolicy	172
リクエストの構文	172
URI リクエストパラメータ	172
リクエストボディ	173
レスポンスの構文	173
レスポンス要素	173
エラー	173

以下の資料も参照してください。	174
GetProvisionedConcurrencyConfig	175
リクエストの構文	175
URI リクエストパラメータ	175
リクエストボディ	176
レスポンスの構文	176
レスポンス要素	176
エラー	177
以下の資料も参照してください。	178
GetRuntimeManagementConfig	179
リクエストの構文	179
URI リクエストパラメータ	179
リクエストボディ	180
レスポンスの構文	180
レスポンス要素	180
エラー	181
以下の資料も参照してください。	181
Invoke	183
リクエストの構文	183
URI リクエストパラメータ	184
リクエストボディ	185
レスポンスの構文	185
レスポンス要素	186
エラー	186
以下の資料も参照してください。	191
InvokeAsync	192
リクエストの構文	192
URI リクエストパラメータ	192
リクエストボディ	193
レスポンスの構文	193
レスポンス要素	193
エラー	193
以下の資料も参照してください。	194
InvokeWithResponseStream	195
リクエストの構文	195
URI リクエストパラメータ	195

リクエストボディ	196
レスポンスの構文	197
レスポンス要素	197
エラー	198
以下の資料も参照してください。	202
ListAliases	204
リクエストの構文	204
URI リクエストパラメータ	204
リクエストボディ	205
レスポンスの構文	205
レスポンス要素	205
エラー	206
以下の資料も参照してください。	206
ListCodeSigningConfigs	208
リクエストの構文	208
URI リクエストパラメータ	208
リクエストボディ	208
レスポンスの構文	208
レスポンス要素	209
エラー	209
以下の資料も参照してください。	210
ListEventSourceMappings	211
リクエストの構文	211
URI リクエストパラメータ	211
リクエストボディ	212
レスポンスの構文	212
レスポンス要素	214
エラー	214
以下の資料も参照してください。	215
ListFunctionEventInvokeConfigs	216
リクエストの構文	216
URI リクエストパラメータ	216
リクエストボディ	217
レスポンスの構文	217
レスポンス要素	217
エラー	218

以下の資料も参照してください。	218
ListFunctions	220
リクエストの構文	220
URI リクエストパラメータ	220
リクエストボディ	221
レスポンスの構文	221
レスポンス要素	223
エラー	224
以下の資料も参照してください。	224
ListFunctionsByCodeSigningConfig	226
リクエストの構文	226
URI リクエストパラメータ	226
リクエストボディ	226
レスポンスの構文	226
レスポンス要素	227
エラー	227
以下の資料も参照してください。	228
ListFunctionUrlConfigs	229
リクエストの構文	229
URI リクエストパラメータ	229
リクエストボディ	230
レスポンスの構文	230
レスポンス要素	230
エラー	231
以下の資料も参照してください。	231
ListLayers	233
リクエストの構文	233
URI リクエストパラメータ	233
リクエストボディ	234
レスポンスの構文	234
レスポンス要素	234
エラー	235
以下の資料も参照してください。	235
ListLayerVersions	237
リクエストの構文	237
URI リクエストパラメータ	237

リクエストボディ	238
レスポンスの構文	238
レスポンス要素	239
エラー	239
以下の資料も参照してください。	240
ListProvisionedConcurrencyConfigs	241
リクエストの構文	241
URI リクエストパラメータ	241
リクエストボディ	242
レスポンスの構文	242
レスポンス要素	242
エラー	243
以下の資料も参照してください。	243
ListTags	245
リクエストの構文	245
URI リクエストパラメータ	245
リクエストボディ	245
レスポンスの構文	245
レスポンス要素	245
エラー	246
以下の資料も参照してください。	246
ListVersionsByFunction	248
リクエストの構文	248
URI リクエストパラメータ	248
リクエストボディ	249
レスポンスの構文	249
レスポンス要素	251
エラー	252
以下の資料も参照してください。	252
PublishLayerVersion	254
リクエストの構文	254
URI リクエストパラメータ	254
リクエストボディ	255
レスポンスの構文	256
レスポンス要素	257
エラー	259

以下の資料も参照してください。	259
PublishVersion	261
リクエストの構文	261
URI リクエストパラメータ	261
リクエストボディ	262
レスポンスの構文	262
レスポンス要素	265
エラー	271
以下の資料も参照してください。	272
PutFunctionCodeSigningConfig	274
リクエストの構文	274
URI リクエストパラメータ	274
リクエストボディ	274
レスポンスの構文	275
レスポンス要素	275
エラー	276
以下の資料も参照してください。	277
PutFunctionConcurrency	278
リクエストの構文	278
URI リクエストパラメータ	278
リクエストボディ	279
レスポンスの構文	279
レスポンス要素	279
エラー	280
以下の資料も参照してください。	280
PutFunctionEventInvokeConfig	282
リクエストの構文	282
URI リクエストパラメータ	282
リクエストボディ	283
レスポンスの構文	284
レスポンス要素	285
エラー	286
以下の資料も参照してください。	286
PutProvisionedConcurrencyConfig	288
リクエストの構文	288
URI リクエストパラメータ	288

リクエストボディ	289
レスポンスの構文	289
レスポンス要素	289
エラー	291
以下の資料も参照してください。	291
PutRuntimeManagementConfig	293
リクエストの構文	293
URI リクエストパラメータ	293
リクエストボディ	294
レスポンスの構文	295
レスポンス要素	295
エラー	296
以下の資料も参照してください。	297
RemoveLayerVersionPermission	298
リクエストの構文	298
URI リクエストパラメータ	298
リクエストボディ	299
レスポンスの構文	299
レスポンス要素	299
エラー	299
以下の資料も参照してください。	300
RemovePermission	301
リクエストの構文	301
URI リクエストパラメータ	301
リクエストボディ	302
レスポンスの構文	302
レスポンス要素	302
エラー	302
以下の資料も参照してください。	303
TagResource	304
リクエストの構文	304
URI リクエストパラメータ	304
リクエストボディ	304
レスポンスの構文	305
レスポンス要素	305
エラー	305

以下の資料も参照してください。	306
UntagResource	307
リクエストの構文	307
URI リクエストパラメータ	307
リクエストボディ	307
レスポンスの構文	307
レスポンス要素	307
エラー	308
以下の資料も参照してください。	308
UpdateAlias	310
リクエストの構文	310
URI リクエストパラメータ	310
リクエストボディ	311
レスポンスの構文	312
レスポンス要素	312
エラー	313
以下の資料も参照してください。	314
UpdateCodeSigningConfig	316
リクエストの構文	316
URI リクエストパラメータ	316
リクエストボディ	316
レスポンスの構文	317
レスポンス要素	318
エラー	318
以下の資料も参照してください。	318
UpdateEventSourceMapping	320
リクエストの構文	321
URI リクエストパラメータ	322
リクエストボディ	322
レスポンスの構文	327
レスポンス要素	328
エラー	334
以下の資料も参照してください。	335
UpdateFunctionCode	336
リクエストの構文	336
URI リクエストパラメータ	337

リクエストボディ	337
レスポンスの構文	339
レスポンス要素	342
エラー	348
以下の資料も参照してください。	350
UpdateFunctionConfiguration	351
リクエストの構文	351
URI リクエストパラメータ	352
リクエストボディ	353
レスポンスの構文	357
レスポンス要素	360
エラー	366
以下の資料も参照してください。	367
UpdateFunctionEventInvokeConfig	369
リクエストの構文	369
URI リクエストパラメータ	369
リクエストボディ	370
レスポンスの構文	371
レスポンス要素	371
エラー	372
以下の資料も参照してください。	373
UpdateFunctionUrlConfig	375
リクエストの構文	375
URI リクエストパラメータ	375
リクエストボディ	376
レスポンスの構文	377
レスポンス要素	377
エラー	379
以下の資料も参照してください。	380
データ型	381
AccountLimit	384
目次	384
以下の資料も参照してください。	385
AccountUsage	386
目次	386
以下の資料も参照してください。	386

AliasConfiguration	387
目次	387
以下の資料も参照してください。	388
AliasRoutingConfiguration	389
目次	389
以下の資料も参照してください。	389
AllowedPublishers	390
目次	390
以下の資料も参照してください。	390
AmazonManagedKafkaEventSourceConfig	391
目次	391
以下の資料も参照してください。	391
CodeSigningConfig	392
目次	392
以下の資料も参照してください。	393
CodeSigningPolicies	394
目次	394
以下の資料も参照してください。	394
Concurrency	395
目次	395
以下の資料も参照してください。	395
Cors	396
目次	396
以下の資料も参照してください。	398
DeadLetterConfig	399
目次	399
以下の資料も参照してください。	399
DestinationConfig	400
目次	400
以下の資料も参照してください。	400
DocumentDBEventSourceConfig	401
目次	401
以下の資料も参照してください。	402
Environment	403
目次	403
以下の資料も参照してください。	403

EnvironmentError	404
目次	404
以下の資料も参照してください。	404
EnvironmentResponse	405
目次	405
以下の資料も参照してください。	405
EphemeralStorage	406
目次	406
以下の資料も参照してください。	406
EventSourceMappingConfiguration	407
目次	407
以下の資料も参照してください。	413
FileSystemConfig	415
目次	415
以下の資料も参照してください。	415
Filter	417
目次	417
以下の資料も参照してください。	417
FilterCriteria	418
内容	418
以下の資料も参照してください。	418
FunctionCode	419
目次	419
以下の資料も参照してください。	420
FunctionCodeLocation	421
目次	421
以下の資料も参照してください。	421
FunctionConfiguration	423
目次	423
以下の資料も参照してください。	431
FunctionEventInvokeConfig	432
目次	432
以下の資料も参照してください。	433
FunctionUrlConfig	434
目次	434
以下の資料も参照してください。	435

ImageConfig	437
目次	437
以下の資料も参照してください。	437
ImageConfigError	439
目次	439
以下の資料も参照してください。	439
ImageConfigResponse	440
目次	440
以下の資料も参照してください。	440
InvokeResponseStreamUpdate	441
目次	441
以下の資料も参照してください。	441
InvokeWithResponseStreamCompleteEvent	442
目次	442
以下の資料も参照してください。	442
InvokeWithResponseStreamResponseEvent	443
目次	443
以下の資料も参照してください。	443
Layer	444
目次	444
以下の資料も参照してください。	445
LayersListItem	446
目次	446
以下の資料も参照してください。	446
LayerVersionContentInput	448
目次	448
以下の資料も参照してください。	449
LayerVersionContentOutput	450
目次	450
以下の資料も参照してください。	451
LayerVersionsListItem	452
目次	452
以下の資料も参照してください。	454
LoggingConfig	455
目次	455
以下の資料も参照してください。	456

OnFailure	457
目次	457
以下の資料も参照してください。	457
OnSuccess	458
目次	458
以下の資料も参照してください。	458
ProvisionedConcurrencyConfigListItem	459
目次	459
以下の資料も参照してください。	460
RuntimeVersionConfig	461
内容	461
以下の資料も参照してください。	461
RuntimeVersionError	462
目次	462
以下の資料も参照してください。	462
ScalingConfig	463
目次	463
以下の資料も参照してください。	463
SelfManagedEventSource	464
目次	464
以下の資料も参照してください。	464
SelfManagedKafkaEventSourceConfig	465
目次	465
以下の資料も参照してください。	465
SnapStart	466
目次	466
以下の資料も参照してください。	466
SnapStartResponse	467
目次	467
以下の資料も参照してください。	467
SourceAccessConfiguration	468
目次	468
以下の資料も参照してください。	469
TracingConfig	470
目次	470
以下の資料も参照してください。	470

TracingConfigResponse	471
目次	471
以下の資料も参照してください。	471
VpcConfig	472
目次	472
以下の資料も参照してください。	472
VpcConfigResponse	474
目次	474
以下の資料も参照してください。	475
共通パラメータ	476
共通エラー	479

ようこそ

このセクションには、AWS Lambda API リファレンスドキュメントが含まれています。アプリケーションから直接 API にリクエストを行う代わりに、AWS Software Development Kit (SDK) のいずれかをプログラミング言語に使用することをお勧めします。AWS SDK は、リクエスト認証、シリアル化、接続管理を実行します。AWS SDK を使用しない場合は、署名を指定してリクエストを認証する必要があります。AWS Lambda は署名バージョン 4 をサポートしています。詳細については、「Amazon Web Services 全般のリファレンス」の「[署名バージョン 4 の署名プロセス](#)」を参照してください。

SDK を使用する場合の証明書のエラー

AWS SDK では、使用するコンピュータの CA 証明書が使用されるため、AWS サーバー上の証明書が変更されると、SDK を使用する際に接続エラーが発生する可能性があります。このようなエラーは、コンピュータ上の CA 証明書とオペレーティングシステムを最新の状態にしておくことで回避できます。ユーザーが自分のコンピュータを管理していない企業環境でこの問題が発生した場合は、必要に応じて管理者から支援を得て更新プロセスを行う必要があります。以下のリストは、オペレーティングシステムと Java の最小バージョンを示しています。

- 2005 年 1 月以降の更新プログラムがインストールされた Microsoft Windows バージョンでは、必要な CA が信頼リストに 1 つ以上含まれています。
- Mac OS X 10.4 with Java for Mac OS X 10.4 Release 5 (2007 年 2 月)、Mac OS X 10.5 (2007 年 10 月)、および以降のバージョンでは、必要な CA が信頼リストに 1 つ以上含まれています。
- Red Hat Enterprise Linux 5 (2007 年 3 月)、6、7、および CentOS 5、6、および 7 では、必要な CA がデフォルトの CA 信頼リストに 1 つ以上含まれています。
- Java 1.4.2_12 (2006 年 5 月)、5 Update 2 (2005 年 3 月)、および以降のすべてのバージョン (Java 6 (2006 年 12 月)、7、8 を含む) では、必要な CA がデフォルトの CA 信頼リストに 1 つ以上含まれています。

AWS Lambda 管理コンソールまたは AWS Lambda API エンドポイントにアクセスする場合、ブラウザを介するかプログラムで、クライアントマシンが以下のいずれかの CA をサポートすることを確認する必要があります。

- Amazon Root CA 1
- Starfield Services Root Certificate Authority - G2

- Starfield Class 2 Certification Authority

最初の 2 つの機関からのルート証明書は [Amazon Trust Services](#) から入手できますが、もっと簡単なソリューションは、コンピュータを最新の状態にしておくことです。ACM から提供される証明書の詳細については、「[AWS Certificate Manager に関するよくある質問](#)」を参照してください。

アクション

以下のアクションがサポートされています:

- [AddLayerVersionPermission](#)
- [AddPermission](#)
- [CreateAlias](#)
- [CreateCodeSigningConfig](#)
- [CreateEventSourceMapping](#)
- [CreateFunction](#)
- [CreateFunctionUrlConfig](#)
- [DeleteAlias](#)
- [DeleteCodeSigningConfig](#)
- [DeleteEventSourceMapping](#)
- [DeleteFunction](#)
- [DeleteFunctionCodeSigningConfig](#)
- [DeleteFunctionConcurrency](#)
- [DeleteFunctionEventInvokeConfig](#)
- [DeleteFunctionUrlConfig](#)
- [DeleteLayerVersion](#)
- [DeleteProvisionedConcurrencyConfig](#)
- [GetAccountSettings](#)
- [GetAlias](#)
- [GetCodeSigningConfig](#)
- [GetEventSourceMapping](#)
- [GetFunction](#)
- [GetFunctionCodeSigningConfig](#)
- [GetFunctionConcurrency](#)
- [GetFunctionConfiguration](#)
- [GetFunctionEventInvokeConfig](#)
- [GetFunctionUrlConfig](#)

- [GetLayerVersion](#)
- [GetLayerVersionByArn](#)
- [GetLayerVersionPolicy](#)
- [GetPolicy](#)
- [GetProvisionedConcurrencyConfig](#)
- [GetRuntimeManagementConfig](#)
- [Invoke](#)
- [InvokeAsync](#)
- [InvokeWithResponseStream](#)
- [ListAliases](#)
- [ListCodeSigningConfigs](#)
- [ListEventSourceMappings](#)
- [ListFunctionEventInvokeConfigs](#)
- [ListFunctions](#)
- [ListFunctionsByCodeSigningConfig](#)
- [ListFunctionUrlConfigs](#)
- [ListLayers](#)
- [ListLayerVersions](#)
- [ListProvisionedConcurrencyConfigs](#)
- [ListTags](#)
- [ListVersionsByFunction](#)
- [PublishLayerVersion](#)
- [PublishVersion](#)
- [PutFunctionCodeSigningConfig](#)
- [PutFunctionConcurrency](#)
- [PutFunctionEventInvokeConfig](#)
- [PutProvisionedConcurrencyConfig](#)
- [PutRuntimeManagementConfig](#)
- [RemoveLayerVersionPermission](#)
- [RemovePermission](#)

- [TagResource](#)
- [UntagResource](#)
- [UpdateAlias](#)
- [UpdateCodeSigningConfig](#)
- [UpdateEventSourceMapping](#)
- [UpdateFunctionCode](#)
- [UpdateFunctionConfiguration](#)
- [UpdateFunctionEventInvokeConfig](#)
- [UpdateFunctionUrlConfig](#)

AddLayerVersionPermission

[AWS Lambda レイヤー](#) のバージョンのリソースベースポリシーに許可を追加します。レイヤーの使用に関するアクセス許可を他のアカウントに付与するには、このアクションを使用します。アクセス許可は、組織内の 1 つのアカウント、すべてのアカウント、またはすべての AWS アカウントに付与することができます。

許可を取り消すには、追加時に指定したステートメント ID で [RemoveLayerVersionPermission](#) を呼び出します。

リクエストの構文

```
POST /2018-10-31/layers/LayerName/versions/VersionNumber/policy?RevisionId=RevisionId
HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "ActionOrganizationIdPrincipalStatementId
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[LayerName](#)

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_+)|[a-zA-Z0-9-_+]

必須: はい

[RevisionId](#)

リビジョン ID が指定した ID と一致する場合にのみ、ポリシーを更新します。このオプションを使用して、最終読み取りから変更されたポリシーを変更しないようにします。

VersionNumber

バージョン番号。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Action

レイヤーへのアクセスを許可する API アクション。例えば、lambda:GetLayerVersion です。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 22 です。

Pattern: lambda:GetLayerVersion

必須: はい

OrganizationId

プリンシパルを * に設定して、指定された組織のすべてのアカウントにアクセス許可を付与します。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 34 です。

Pattern: o-[a-zA-Z0-9]{10,32}

必須: いいえ

Principal

組織内のすべてのアカウント、またはすべての AWS アカウント (organizationId が指定されていない場合) にレイヤーの使用のためのアクセス許可を付与するためのアカウント ID、または *。後者の場合、本当にすべての AWS アカウントにこのレイヤー使用のためのアクセス許可を付与するかどうかを確認してください。

型: 文字列

Pattern: \d{12} | * | arn:(aws[a-zA-Z-]*):iam::\d{12}:root

必須: はい

StatementId

同じレイヤーバージョンの他のポリシーと区別する識別子。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 100 です。

Pattern: ([a-zA-Z0-9-_]+)

必須: はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
  "RevisionId": "string",
  "Statement": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

RevisionId

ポリシーの現在のリビジョンにおける一意の識別子。

型: 文字列

Statement

アクセス許可ステートメント。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PolicyLengthExceededException

リソースのアクセス許可ポリシーが大きすぎます。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。GetFunction または GetAlias API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

AddPermission

関数を使用するための許可を、AWS のサービス、AWS アカウント、または AWS 組織に付与します。関数レベルでポリシーを適用したり、1 つのバージョンまたはエイリアスへのアクセスを制限する修飾子を指定したりすることができます。修飾子を使用する場合は、バージョンの完全な Amazon リソースネーム (ARN) またはエイリアスを使用して関数を呼び出す必要があります。注: Lambda では、バージョン \$LATEST へのポリシーの追加をサポートしていません。

別のアカウントにアクセス許可を付与するには、アカウント ID を `Principal` として指定します。AWS Organizations で定義されている組織にアクセス許可を付与するには、組織 ID を `PrincipalOrgID` として指定します。AWS のサービスの場合、プリンシパルはサービスが定義するドメインスタイルの識別子で、`s3.amazonaws.com` や `sns.amazonaws.com` などになります。AWS のサービスの場合、関連付けられたリソースの ARN を `SourceArn` として指定することもできます。ソースを指定せずにアクセス許可をサービスプリンシパルに付与した場合は、他のアカウントが Lambda 関数を呼び出すようにそのアカウントのリソースを設定する可能性があります。

この操作は、関数のリソースベースの許可ポリシーにステートメントを追加します。詳細については、「[Lambda でのリソースベースのポリシーの使用](#)」を参照してください。

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/functions/FunctionName/policy?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "Action": "string",
  "EventSourceToken": "string",
  "FunctionUrlAuthType": "string",
  "Principal": "string",
  "PrincipalOrgID": "string",
  "RevisionId": "string",
  "SourceAccount": "string",
  "SourceArn": "string",
  "StatementId": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョンまたはエイリアスを指定して、関数の公開済みバージョンにアクセス許可を追加します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$-_]+)`

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Action

プリンシパルが関数で使用できるアクション。例えば、`lambda:InvokeFunction`、`lambda:GetFunction` などです。

型: 文字列

Pattern: `(lambda:[*]|lambda:[a-zA-Z]+|[*])`

必須: はい

EventSourceToken

Alexa Smart Home 関数の場合は、呼び出し元が提供する必要があるトークンです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

パターン: [a-zA-Z0-9._\-\-]+

必須: いいえ

FunctionUrlAuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、AWS_IAM に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に NONE を設定します。詳細については、「[Security and auth model for Lambda function URLs](#)」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: NONE | AWS_IAM

必須: いいえ

Principal

関数を呼び出す AWS のサービスまたは AWS アカウントです。サービスを指定する場合は、SourceArn または SourceAccount を使用して、そのサービスを使用して関数を呼び出すことができるユーザーを制限します。

型: 文字列

Pattern: [^\s]+

必須: はい

PrincipalOrgID

AWS Organizations での組織の識別子。これを使用して、この組織の下にあるすべての AWS アカウントに許可を付与します。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 12 です。最大長は 34 です。

パターン: ^o-[a-zA-Z0-9]{10,32}\$

必須: いいえ

RevisionId

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、ポリシーを更新します。このオプションを使用して、最終読み取りから変更されたポリシーを変更しないようにします。

型: 文字列

必須: いいえ

SourceAccount

AWS のサービスの場合は、リソースを所有する AWS アカウントの ID です。これを SourceArn とともに使用して、指定されたアカウントがリソースを所有することを確実にします。Amazon S3 バケットは、その所有者によって削除され、別のアカウントによって再作成される可能性があります。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 12 です。

Pattern: \d{12}

必須: いいえ

SourceArn

AWS のサービスの場合は、関数を呼び出す AWS リソースの ARN です。たとえば、Amazon S3 バケットまたは Amazon SNS トピックです。

Lambda は、StringLike 演算子を使用して比較を設定することに注意してください。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-zA-Z]{2}(-gov)?-[a-zA-Z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

必須: いいえ

StatementId

ステートメントを同じポリシー内の他のステートメントと区別するステートメント識別子。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 100 です。

Pattern: ([a-zA-Z0-9-_]+)

必須 : はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
  "Statement": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Statement

関数ポリシーに追加されるアクセス許可ステートメント。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PolicyLengthExceededException

リソースのアクセス許可ポリシーが大きすぎます。 詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。 GetFunction または GetAlias API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるしました。 詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

CreateAlias

Lambda 関数バージョンの [エイリアス](#) を作成します。エイリアスを使用して、別のバージョンを呼び出すために更新できる関数識別子をクライアントに提供します。

エイリアスをマッピングして、2 つのバージョン間で呼び出しリクエストを分割することもできます。RoutingConfig パラメータを使用して、2 番目のバージョンとそのバージョンが受信する呼び出しリクエストの割合を指定します。

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/functions/FunctionName/aliases HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "Description": "string",
  "FunctionVersion": "string",
  "Name": "string",
  "RoutingConfig": {
    "AdditionalVersionWeights": {
      "string" : number
    }
  }
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[FunctionName](#)

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - MyFunction。
- 関数 ARN - arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- 一部の ARN - 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?:(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Description

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

FunctionVersion

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

Pattern: (\\$\\$LATEST|[0-9]+)

必須: はい

Name

エイリアスの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: (?!^[\0-\9]+\\$)([a-zA-Z0-9-_]+)

必須: はい

RoutingConfig

エイリアスのルーティング設定。

タイプ: [AliasRoutingConfiguration](#) オブジェクト

必須: いいえ

レスポンスの構文

HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

```
{  
  "AliasArn": "string",  
  "Description": "string",  
  "FunctionVersion": "string",  
  "Name": "string",  
  "RevisionId": "string",  
  "RoutingConfig": {  
    "AdditionalVersionWeights": {  
      "string" : number  
    }  
  }  
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AliasArn

エイリアスの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[Description](#)

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

[FunctionVersion](#)

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\\$LATEST|[0-9]+)

[Name](#)

エイリアスの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: (?![0-9]+\$)([a-zA-Z0-9-_]+)

[RevisionId](#)

エイリアスを更新するときに変更される一意の識別子。

型: 文字列

[RoutingConfig](#)

エイリアスのルーティング設定。

型: [AliasRoutingConfiguration](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

CreateCodeSigningConfig

コード署名の設定を作成します。 [コード署名の設定](#) では、アクセス許可済みの署名プロファイルのリストと、デプロイ検証チェックが失敗した場合に実行するコード署名検証ポリシーを定義します。

リクエストの構文

```
POST /2020-04-22/code-signing-configs/ HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "AllowedPublishers": {
    "SigningProfileVersionArns": [ "string" ]
  },
  "CodeSigningPolicies": {
    "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
  },
  "Descriptionstring"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは URI パラメータを使用しません。

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

[AllowedPublishers](#)

このコード署名の設定用署名プロファイル。

タイプ: [AllowedPublishers](#) オブジェクト

必須: はい

[CodeSigningPolicies](#)

コード署名ポリシーは、検証チェックが失敗した場合に実行するアクションを定義します。

タイプ: [CodeSigningPolicies](#) オブジェクト

必須: いいえ

Description

このコード署名の設定用の記述名。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
  "CodeSigningConfig": {
    "AllowedPublishersSigningProfileVersionArns": [ "string" ]
    },
    "CodeSigningConfigArn": "string",
    "CodeSigningConfigId": "string",
    "CodeSigningPolicies": {
      "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
    },
    "Description": "string",
    "LastModified": "string"
  }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CodeSigningConfig

コード署名の設定。

型: CodeSigningConfig オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

CreateEventSourceMapping

イベントソースと AWS Lambda 関数間のマッピングを作成します。Lambda は、イベントソースから項目を読み込み、関数を呼び出します。

さまざまなイベントソースの設定方法の詳細については、以下のトピックを参照してください。

- [Amazon DynamoDB Streams](#)
- [Amazon Kinesis](#)
- [Amazon SQS](#)
- [Amazon MQ と RabbitMQ](#)
- [Amazon MSK](#)
- [Apache Kafka](#)
- [Amazon DocumentDB](#)

以下のエラー処理オプションは、ストリーミングソース (DynamoDB および Kinesis) でのみ使用できます。

- `BisectBatchOnFunctionError` – 関数がエラーを返す場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。
- `DestinationConfig` – 廃棄されたレコードを Amazon SQS キューまたは Amazon SNS トピックに送信します。
- `MaximumRecordAgeInSeconds` – 指定された経過期間よりも古いレコードを廃棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。無制限 (-1) に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。
- `MaximumRetryAttempts` – 指定された再試行数の後でレコードを廃棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。無制限 (-1) に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。
- `ParallelizationFactor` – 各シャードからの複数のバッチを同時に処理します。

各イベントソースに適用される設定パラメータについては、次のトピックを参照してください。

- [Amazon DynamoDB Streams](#)
- [Amazon Kinesis](#)
- [Amazon SQS](#)

- [Amazon MQ と RabbitMQ](#)
- [Amazon MSK](#)
- [Apache Kafka](#)
- [Amazon DocumentDB](#)

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/event-source-mappings/ HTTP/1.1
Content-type: application/json
```

```
{
  "AmazonManagedKafkaEventSourceConfig": {
    "ConsumerGroupId": "string"
  },
  "BatchSize": number,
  "BisectBatchOnFunctionError": boolean,
  "DestinationConfig": {
    "OnFailure": {
      "Destination": "string"
    },
    "OnSuccess": {
      "Destination": "string"
    }
  },
  "DocumentDBEventSourceConfig": {
    "CollectionName": "string",
    "DatabaseName": "string",
    "FullDocument": "string"
  },
  "Enabled": boolean,
  "EventSourceArn": "string",
  "FilterCriteria": {
    "Filters": [
      {
        "Pattern": "string"
      }
    ]
  },
  "FunctionName": "string",
  "FunctionResponseTypes": [ "string" ],
  "MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
```

```
"MaximumRecordAgeInSeconds": number,
"MaximumRetryAttempts": number,
"ParallelizationFactor": number,
"Queues": [ "string" ],
"ScalingConfig": {
    "MaximumConcurrency": number
},
"SelfManagedEventSource": {
    "Endpoints": {
        "string": [ "string" ]
    }
},
"SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {
    "ConsumerGroupId": "string"
},
"SourceAccessConfigurations": [
    {
        "Type": "string",
        "URI": "string"
    }
],
"StartingPosition": "string",
"StartingPositionTimestamp": number,
"Topics": [ "string" ],
"TumblingWindowInSeconds": number
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは URI パラメータを使用しません。

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

[AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#)

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: [AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

[BatchSize](#)

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを单一の呼び出しで関数に渡します。

- Amazon Kinesis – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon DynamoDB Streams – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon Simple Queue Service – デフォルトで 10。標準キューの場合、最大値は 10,000 です。FIFO キューの場合、最大値は 10 です。
- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka - デフォルトで 100。最大 10,000。
- セルフマネージド型の Apache Kafka – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon MQ (ActiveMQ と RabbitMQ) – デフォルトで 100。最大 10,000。
- DocumentDB – デフォルトは 100 です。最大 10,000。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

[BisectBatchOnFunctionError](#)

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。

型: ブール

必須: いいえ

[DestinationConfig](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Kafka のみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: [DestinationConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

[DocumentDBEventSourceConfig](#)

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: [DocumentDBEventSourceConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

[Enabled](#)

true の場合、イベントソースマッピングがアクティブになります。false の場合、Lambda がポーリングと呼び出しを一時停止します。

デフォルト: True

型: ブール

必須: いいえ

[EventSourceArn](#)

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN) です。

- Amazon Kinesis – データストリームまたはストリームコンシューマーの ARN。
- Amazon DynamoDB Streams – ストリームの ARN。
- Amazon Simple Queue Service – キューの ARN。
- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka – クラスターの ARN または VPC 接続の ARN ([クロスアカウントイベントソースマッピング](#) 用)。
- Amazon MQ – ブローカーの ARN。
- Amazon DocumentDB – DocumentDB 変更ストリームの ARN。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

必須: いいえ

[FilterCriteria](#)

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、[Lambda イベントフィルタリング](#) を参照してください。

型: [FilterCriteria](#) オブジェクト

必須: いいえ

[FunctionName](#)

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – MyFunction。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- バージョンまたはエイリアス ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction:PROD。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

[FunctionResponseTypes](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: ReportBatchItemFailures

必須: いいえ

[MaximumBatchingWindowInSeconds](#)

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間

(秒)。MaximumBatchingWindowInSeconds は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。MaximumBatchingWindowInSeconds は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、BatchSize を 10 より大きい値に設定する場合は、MaximumBatchingWindowInSeconds を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 300 です。

必須: いいえ

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 604,800 です。

必須: いいえ

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。無制限 (-1) に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。

型: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10 です。

必須: いいえ

Queues

(MQ) 消費する Amazon MQ プローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: `[\s\S]*`

必須: いいえ

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「[Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources](#)」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: [ScalingConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

SelfManagedEventSource

レコードを受信するセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

型: [SelfManagedEventSource](#) オブジェクト

必須: いいえ

SelfManagedKafkaEventSourceConfig

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: [SelfManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

[SourceAccessConfigurations](#)

認証プロトコルの配列またはイベントソースの保護に必要な VPC コンポーネント。

タイプ: [SourceAccessConfiguration](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

必須: いいえ

[StartingPosition](#)

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

必須: いいえ

[StartingPositionTimestamp](#)

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

タイプ: タイムスタンプ

必須: いいえ

[Topics](#)

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: ^[^.]([a-zA-Z0-9\-_\.]+)+

必須: いいえ

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 900 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 202
Content-type: application/json

{
  "AmazonManagedKafkaEventSourceConfig": {
    "ConsumerGroupId": "string"
  },
  "BatchSize": number,
  "BisectBatchOnFunctionError": boolean,
  "DestinationConfig": {
    "OnFailure": {
      "Destination": "string"
    },
    "OnSuccess": {
      "Destination": "string"
    }
  },
  "DocumentDBEventSourceConfig": {
    "CollectionName": "string",
    "DatabaseName": "string",
    "FullDocument": "string"
  },
  "EventSourceArn": "string",
  "FilterCriteria": {
    "Filters": [
      {
        "Pattern": "string"
      }
    ]
  }
}
```

```
        }
    ],
},
"FunctionArn": "string",
"FunctionResponseTypes": [ "string" ],
"LastModified": number,
"LastProcessingResult": "string",
"MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
"MaximumRecordAgeInSeconds": number,
"MaximumRetryAttempts": number,
"ParallelizationFactor": number,
"Queues": [ "string" ],
"ScalingConfig": {
    "MaximumConcurrency": number
},
"SelfManagedEventSource": {
    "Endpoints": {
        "string" : [ "string" ]
    }
},
"SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {
    "ConsumerGroupId": "string"
},
"SourceAccessConfigurations": [
    {
        "Type": "string",
        "URI": "string"
    }
],
"StartingPosition": "string",
"StartingPositionTimestamp": number,
"State": "string",
"StateTransitionReason": "string",
"Topics": [ "string" ],
"TumblingWindowInSeconds": number,
"UUID": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 202 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#)

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: [AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

[BatchSize](#)

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを单一の呼び出しで関数に渡します。

デフォルト値: サービスによって異なります。Amazon SQS の場合、デフォルトは 10 です。他のすべてのサービスでは、デフォルトは 100 です。

関連設定: `BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

[BisectBatchOnFunctionError](#)

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。デフォルト値は `false` です。

型: ブール

[DestinationConfig](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka イベントソースのみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: [DestinationConfig](#) オブジェクト

[DocumentDBEventSourceConfig](#)

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: [DocumentDBEventSourceConfig](#) オブジェクト

[EventSourceArn](#)

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:(a-z{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*?)`

[FilterCriteria](#)

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、[Lambda イベントフィルタリング](#)を参照してください。

型: [FilterCriteria](#) オブジェクト

[FunctionArn](#)

Lambda 関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

[FunctionResponseTypes](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: `ReportBatchItemFailures`

[LastModified](#)

イベントソースマッピングが最後に更新された日付、またはその状態が変更された日付 (Unix タイム秒単位)。

型: `Timestamp`

[LastProcessingResult](#)

関数の最後の Lambda 呼び出しの結果。

型: 文字列

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間

(秒)。MaximumBatchingWindowInSeconds は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。MaximumBatchingWindowInSeconds は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、BatchSize を 10 より大きい値に設定する場合は、MaximumBatchingWindowInSeconds を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 300 です。

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は -1 で、最大経過時間は無限です。値が無限に設定されている場合、Lambda が古いレコードを廃棄することはありません。

 Note

最大レコード保存期間の最小有効値は 60 秒です。60 未満で -1 より大きい値はパラメータの絶対範囲内ですが、指定できません。

型: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 604,800 です。

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値の -1 により、最大再試行回数は無限に設定されます。MaximumRetryAttempts が無限

の場合、Lambda はイベントソースでレコードの有効期限が切れるまで、失敗したレコードを再試行します。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 10,000 です。

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。デフォルト値は 1 です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10 です。

Queues

(Amazon MQ) 消費する Amazon MQ ブローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: `[\s\S]*`

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「[Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources](#)」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: [ScalingConfig](#) オブジェクト

SelfManagedEventSource

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

型: [SelfManagedEventSource](#) オブジェクト

SelfManagedKafkaEventSourceConfig

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: [SelfManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

[SourceAccessConfigurations](#)

認証プロトコルの配列、VPC コンポーネント、イベントソースを保護して定義する仮想ホスト。

タイプ: [SourceAccessConfiguration](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

[StartingPosition](#)

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

[StartingPositionTimestamp](#)

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

型: Timestamp

[State](#)

イベントソースマッピングの状態。次のうちの 1 つになる可能性があります:

Creating、Enabling、Enabled、Disabling、Disabled、Updating、Deleting。

型: 文字列

[StateTransitionReason](#)

ユーザーまたは Lambda がイベントソースマッピングを最後に変更したかどうかを示します。

型: 文字列

[Topics](#)

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: ^[^.]([a-zA-Z0-9\-_\.]+)

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 900 です。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード: 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

CreateFunction

Lambda 関数を作成します。関数を作成するには、[デプロイパッケージと実行ロール](#)が必要です。デプロイパッケージは、関数コードを含む .zip ファイルアーカイブまたはコンテナイメージです。実行ロールは、ログストリーミングのための Amazon CloudWatch Logs などの AWS のサービスと、リクエストトレーシングのための AWS X-Ray を使用する許可を関数に付与します。

デプロイパッケージが[コンテナイメージ](#)の場合は、パッケージタイプを Image に設定します。コンテナイメージの場合、コードプロパティに Amazon ECR レジストリのコンテナイメージの URI を含める必要があります。ハンドラープロパティとランタイムプロパティを指定する必要はありません。

デプロイパッケージが[zip ファイルアーカイブ](#)の場合は、パッケージタイプを Zip に設定します。.zip ファイルアーカイブの場合、コードプロパティは .zip ファイルの場所を指定します。ハンドラープロパティとランタイムプロパティも指定する必要があります。デプロイパッケージのコードは、関数 (x86-64 または arm64) のターゲット命令セットアーキテクチャと互換性を持たせる必要があります。アーキテクチャを指定しない場合、デフォルト値は x86-64 になります。

関数を作成すると、Lambda はその関数のインスタンスとそのサポートリソースをプロビジョニングします。関数を VPC に接続する場合、このプロセスには 1 分ほどかかる場合があります。この間は、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。[GetFunctionConfiguration](#) からのレスポンスの State、StateReason、StateReasonCode フィールドは、関数の呼び出し準備ができるることを示します。詳細については、「[Lambda 関数の状態](#)」を参照してください。

関数には未公開バージョンがあり、公開バージョンやエイリアスを持つことができます。関数のコードと設定を更新すると、未公開バージョンが変更されます。公開バージョンは、変更不可能な関数コードと設定のスナップショットです。エイリアスは、バージョンにマップする名前付きリソースです。このリソースは、別のバージョンにマップするために変更できます。Publish パラメータを使用して、初期設定から関数のバージョン 1 を作成します。

その他のパラメーターを使用すると、バージョン固有の関数レベルの設定を構成できます。バージョン固有の設定は、後で[UpdateFunctionConfiguration](#) により変更できます。関数レベルの設定は、関数の未公開バージョンと公開バージョンの両方に適用され、タグ ([TagResource](#)) と関数ごとの同時実行制限 ([PutFunctionConcurrency](#)) を含みます。

デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、コード署名を使用できます。この関数のコード署名を有効にするには、コード署名構成の ARN を指定します。ユーザーが[UpdateFunctionCode](#) を使用してコードパッケージのデプロイを試みると、Lambda はそのコードパッケージに信頼できるパブリッシャーからの有効な署名があるかどうかをチェックします。code-

signing 設定には、この関数の信頼できる発行元を定義する一連の署名プロファイルが含まれています。

別の AWS アカウントまたは AWS のサービスが関数を呼び出す場合は、[AddPermission](#) を使用して、リソースベースの AWS Identity and Access Management (IAM) ポリシーを作成することで許可を付与します。関数レベル、バージョン、エイリアスでアクセス許可を付与できます。

関数を直接呼び出すには、[Invoke](#) を使用します。他の AWS のサービスのイベントに応答して関数を呼び出すには、イベントソースマッピング ([CreateEventSourceMapping](#)) を作成するか、他のサービスで関数トリガーを設定します。詳細については、「[Lambda 関数の呼び出し](#)」を参照してください。

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/functions HTTP/1.1
Content-type: application/json
```

```
{
  "Architectures": [ "string" ],
  "Code": {
    "ImageUri": "string",
    "S3Bucket": "string",
    "S3Key": "string",
    "S3ObjectVersion": "string",
    "ZipFile": "blob"
  },
  "CodeSigningConfigArn": "string",
  "DeadLetterConfig": {
    "TargetArn": "string"
  },
  "Description": "string",
  "Environment": {
    "Variables": {
      "string": "string"
    }
  },
  "EphemeralStorage": {
    "Size": number
  },
  "FileSystemConfigs": [
    {
      "Arn": "string",
      "Path": "string"
    }
  ]
}
```

```
        "LocalMountPath": "string"
    }
],
"FunctionName": "string",
"Handler": "string",
"ImageConfig": {
    "Command": [ "string" ],
    "EntryPoint": [ "string" ],
    "WorkingDirectory": "string"
},
"KMSKeyArn": "string",
"Layers": [ "string" ],
"LoggingConfig": {
    "ApplicationLogLevel": "string",
    "LogFormat": "string",
    "LogGroup": "string",
    "SystemLogLevel": "string"
},
"MemorySize": number,
"PackageType": "string",
"Publish": boolean,
"Role": "string",
"Runtime": "string",
"SnapStart": {
    "ApplyOn": "string"
},
"Tags": {
    "string" : "string"
},
"Timeout": number,
"TracingConfig": {
    "Mode": "string"
},
"VpcConfig": {
    "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
    "SecurityGroupIds": [ "string" ],
    "SubnetIds": [ "string" ]
}
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは URI パラメータを使用しません。

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

[Architectures](#)

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。有効な値 (arm64 または x86_64) の 1 つを含む文字列配列を入力します。デフォルト値は x86_64 です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

必須: いいえ

[Code](#)

関数のコード

型: [FunctionCode](#) オブジェクト

必須: はい

[CodeSigningConfigArn](#)

この関数のコード署名を有効にするには、コード署名設定の ARN を指定します。コード署名の設定には、一連の署名プロファイルが含まれており、このプロファイルにより、関数の信頼された発行元が定義されます。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-+[a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-z0-9]{17}

必須: いいえ

[DeadLetterConfig](#)

処理に失敗したときに Lambda が非同期イベントを送信するキューまたはトピックを指定する、デッドレターキュー設定です。詳細については、「[デッドレターキュー](#)」を参照してください。

型: [DeadLetterConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

Description

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

Environment

実行中に関数コードからアクセス可能な環境変数

型: [Environment](#) オブジェクト

必須: いいえ

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「[エフェメラルストレージの設定 \(コンソール\)](#)」を参照してください。

型: [EphemeralStorage](#) オブジェクト

必須: いいえ

FileSystemConfigs

Amazon EFS ファイルシステムの接続設定

型: [FileSystemConfig](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

必須: いいえ

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。

- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Handler

関数を実行するために Lambda が呼び出すコード内のメソッドの名前です。デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ハンドラーが必要です。形式にはファイル名を含めます。ランタイムに応じて、名前空間や他の修飾子を含めることもできます。詳細については、「[Lambda プログラミングモデル](#)」を参照してください。

型: 文字列

長さの制限 : 最大長は 128 です。

パターン: [^\s]+

必須: いいえ

ImageConfig

コンテナイマージ Dockerfile の値を上書きするコンテナイマージの[設定値](#)です。

型: [ImageConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

KMSKeyArn

関数の[環境変数](#)を暗号化するために使用される、AWS Key Management Service (AWS KMS) カスタマーマネージドキーの ARN です。[Lambda SnapStart](#) を有効にすると、Lambda はこのキーを関数のスナップショットの暗号化にも使用します。コンテナイマージを使用して関数をデプロイする場合、Lambda はデプロイ時にこのキーを使用して関数を暗号化します。これは、Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR) でコンテナイマージを保護するために使

用されるキーと同じキーではないことに注意してください。カスタマーマネージドキーを提供しない場合、Lambda はデフォルトのサービスキーを使用します。

型: 文字列

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-zA-Z0-9-.]+:[.]*))|()

必須: いいえ

Layers

関数の実行環境に追加する[関数レイヤー](#)のリストです。その ARN ごとに各レイヤーを指定します(バージョンも含めます)。

型: 文字列の配列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-]+:[0-9]+

必須: いいえ

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: [LoggingConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

MemorySize

ランタイム時に[関数で使用できるメモリ](#)の量です。関数のメモリを増やすと、関数の CPU 割り当ても増えます。デフォルト値は 128 MB です。値には、1 MB の任意の倍数を指定できます。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 128 です。最大値は 10,240 です。

必須: いいえ

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは Image に設定し、.zip ファイルアーカイブでは Zip に設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

必須: いいえ

Publish

true に設定すると、作成中に関数の最初のバージョンが公開されます。

型: ブール値

必須: いいえ

Role

関数の実行ロールの Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

Pattern: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\\-/_]+

必須: はい

Runtime

関数の[ランタイム](#)の識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

必須: いいえ

[SnapStart](#)

関数の [SnapStart](#) 設定です。

型: [SnapStart](#) オブジェクト

必須: いいえ

[Tags](#)

関数に適用する [タグ](#) のリスト

型: 文字列から文字列へのマッピング

必須: いいえ

[Timeout](#)

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒)。デフォルト値は 3 秒です。最大許容値は 900 秒です。詳細については、「[Lambda 実行環境](#)」を参照してください。

型: 整数

有効な範囲: 最小値 は 1 です。

必須: いいえ

[TracingConfig](#)

Mode を Active に設定し、[X-Ray](#) で着信リクエストのサブセットをサンプリングおよびトレースします。

型: [TracingConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

[VpcConfig](#)

VPC の AWS リソースへのネットワーク接続の場合は、VPC のセキュリティグループとサブネットのリストを指定します。関数を VPC に接続すると、関数はその VPC 経由でしかリソースとインターネットにアクセスできません。詳細については、「[VPC 内のリソースにアクセスするように Lambda 関数を設定する](#)」を参照してください。

型: [VpcConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

レスポンスの構文

HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

```
{  
  "Architectures": [ "string" ],  
  "CodeSha256": "string",  
  "CodeSize": number,  
  "DeadLetterConfig": {  
    "TargetArn": "string"  
  },  
  "Description": "string",  
  "Environment": {  
    "Error": {  
      "ErrorCode": "string",  
      "Message": "string"  
    },  
    "Variables": {  
      "string" : "string"  
    }  
  },  
  "EphemeralStorage": {  
    "Size": number  
  },  
  "FileSystemConfigs": [  
    {  
      "Arn": "string",  
      "LocalMountPath": "string"  
    }  
  ],  
  "FunctionArn": "string",  
  "FunctionName": "string",  
  "Handler": "string",  
  "ImageConfigResponse": {  
    "Error": {  
      "ErrorCode": "string",  
      "Message": "string"  
    },  
    "ImageConfig": {  
      "Command": [ "string" ],  
      "EntryPoint": [ "string" ],  
      "WorkingDirectory": "string"  
    }  
  }  
}
```

```
    },
  },
  "KMSKeyArn": "string",
  "LastModified": "string",
  "LastUpdateStatus": "string",
  "LastUpdateStatusReason": "string",
  "LastUpdateStatusReasonCode": "string",
  "Layers": [
    {
      "Arn": "string",
      "CodeSize": number,
      "SigningJobArn": "string",
      "SigningProfileVersionArn": "string"
    }
  ],
  "LoggingConfig": {
    "ApplicationLogLevel": "string",
    "LogFormat": "string",
    "LogGroup": "string",
    "SystemLogLevel": "string"
  },
  "MasterArn": "string",
  "MemorySize": number,
  "PackageType": "string",
  "RevisionId": "string",
  "Role": "string",
  "Runtime": "string",
  "RuntimeVersionConfig": {
    "Error": {
      "ErrorCode": "string",
      "Message": "string"
    },
    "RuntimeVersionArn": "string"
  },
  "SigningJobArn": "string",
  "SigningProfileVersionArn": "string",
  "SnapStart": {
    "ApplyOn": "string",
    "OptimizationStatus": "string"
  },
  "State": "string",
  "StateReason": "string",
  "StateReasonCode": "string",
  "Timeout": number,
```

```
"TracingConfig": {  
    "Mode": "string"  
},  
"Version": "string",  
"VpcConfig": {  
    "Ipv6AllowedForDualStackboolean,  
    "SecurityGroupIds": [ "string" ],  
    "SubnetIds": [ "string" ],  
    "VpcId": "string"  
}  
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Architectures

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値は x86_64 です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

CodeSha256

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

CodeSize

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

型: Long

DeadLetterConfig

関数のデッドレターキュー

型: [DeadLetterConfig](#) オブジェクト

[Description](#)

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

[Environment](#)

関数の [環境変数](#) AWS CloudTrail ログから除外。

型: [EnvironmentResponse](#) オブジェクト

[EphemeralStorage](#)

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「[エフェメラルストレージの設定 \(コンソール\)](#)」を参照してください。

型: [EphemeralStorage](#) オブジェクト

[FileSystemConfigs](#)

[Amazon EFS ファイルシステム](#) の接続設定

型: [FileSystemConfig](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

[FunctionArn](#)

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

[FunctionName](#)

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

Handler

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限 : 最大長は 128 です。

パターン: [^\s]+

ImageConfigResponse

関数のイメージ設定値

型: [ImageConfigResponse](#) オブジェクト

KMSKeyArn

関数の[環境変数](#)を暗号化するために使用される AWS KMS key。[Lambda SnapStart](#) を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-zA-Z0-9-_\.]+\.:*)|()

LastModified

関数が最後に更新された日付と時刻 ([ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))

型: 文字列

LastUpdateStatus

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に `Successful` に設定されます。

型: 文字列

有効な値: `Successful` | `Failed` | `InProgress`

[LastUpdateStatusReason](#)

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

[LastUpdateStatusReasonCode](#)

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: `EniLimitExceeded` | `InsufficientRolePermissions` | `InvalidConfiguration` | `InternalError` | `SubnetOutOfIPAddresses` | `InvalidSubnet` | `InvalidSecurityGroup` | `ImageDeleted` | `ImageAccessDenied` | `InvalidImage` | `KMSKeyAccessDenied` | `KMSKeyNotFound` | `InvalidStateKMSKey` | `DisabledKMSKey` | `EFSIOError` | `EFSMountConnectivityError` | `EFSMountFailure` | `EFSMountTimeout` | `InvalidRuntime` | `InvalidZipFileException` | `FunctionError`

[Layers](#)

関数の [レイヤー](#)

タイプ: [Layer](#) オブジェクトの配列

[LoggingConfig](#)

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: [LoggingConfig](#) オブジェクト

[MasterArn](#)

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

[MemorySize](#)

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値は 128 です。最大値は 10,240 です。

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは Image に設定し、.zip ファイルアーカイブでは Zip を設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

RevisionId

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\\-/_]+

Runtime

関数の [ランタイム](#) の識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラー

型: [RuntimeVersionConfig](#) オブジェクト

[SigningJobArn](#)

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:(a-z){2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:(\d{12})?:(.*)

[SigningProfileVersionArn](#)

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:(a-z){2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:(\d{12})?:(.*)

[SnapStart](#)

ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「[Improving startup performance with Lambda SnapStart](#)」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: [SnapStartResponse](#) オブジェクト

[State](#)

関数の現在の状態 状態が Inactive の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: Pending | Active | Inactive | Failed

[StateReason](#)

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

[StateReasonCode](#)

関数の現在の状態の理由コード コードが Creating のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: Idle | Creating | Restoring | EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効範囲: 最小値 は 1

TracingConfig

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: [TracingConfigResponse](#) オブジェクト

Version

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\\$LATEST|[0-9]+)

VpcConfig

関数のネットワーク設定

型: [VpcConfigResponse](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

CodeSigningConfigNotFoundException

指定されたコード署名設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

CodeStorageExceededException

AWS アカウントが、最大合計コードサイズを超過しました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 400

CodeVerificationFailedException

コード署名が、署名の不一致または有効期限の検証チェックの 1 つ以上に失敗し、コード署名ポリシーが ENSORCE に設定されています。Lambda はデプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード: 400

InvalidCodeSignatureException

コード署名が整合性チェックに失敗しました。整合性チェックに失敗すると、Lambda は、コード署名ポリシーが WARN に設定されている場合でも、デプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード: 400

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード: 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

CreateFunctionUrlConfig

指定した設定パラメーターを使用して Lambda 関数 URL を作成します。関数 URL は、関数を呼び出すために使用する専用の HTTP エンドポイントです。

リクエストの構文

```
POST /2021-10-31/functions/FunctionName/url?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "AuthType": "string",
  "Cors": {
    "AllowCredentials": boolean,
    "AllowHeaders": [ "string" ],
    "AllowMethods": [ "string" ],
    "AllowOrigins": [ "string" ],
    "ExposeHeaders": [ "string" ],
    "MaxAge": number
  },
  "InvokeMode": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?:(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Qualifier

エイリアス名。

長さの制限 : 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (^\$\\$LATEST\$)|((?!^[\d-]+\$)([a-zA-Z0-9-_]+))

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

AuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、AWS_IAM に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に NONE を設定します。詳細については、「[Security and auth model for Lambda function URLs](#)」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: NONE | AWS_IAM

必須: はい

Cors

関数 URL のための、[Cross-Origin Resource Sharing \(CORS\)](#) 設定。

型: [Cors](#) オブジェクト

必須: いいえ

InvokeMode

以下のいずれかのオプションを使用します。

- BUFFERED – これはデフォルトのオプションです。Lambda は Invoke API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。

- **RESPONSE_STREAM** — 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は `InvokeWithResponseStream` API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、「[クォータ引き上げをリクエスト](#)」できます。

型: 文字列

有効な値: BUFFERED | RESPONSE_STREAM

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
  "AuthType": "string",
  "Cors": {
    "AllowCredentials": boolean,
    "AllowHeaders": [ "string" ],
    "AllowMethods": [ "string" ],
    "AllowOrigins": [ "string" ],
    "ExposeHeaders": [ "string" ],
    "MaxAge": number
  },
  "CreationTime": "string",
  "FunctionArn": "string",
  "FunctionUrl": "string",
  "InvokeMode": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、AWS_IAM に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する

場合は、値に `NONE` を設定します。詳細については、「[Security and auth model for Lambda function URLs](#)」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: `NONE` | `AWS_IAM`

[Cors](#)

関数 URL のための、[Cross-Origin Resource Sharing \(CORS\)](#) 設定。

型: [Cors](#) オブジェクト

[CreationTime](#)

[ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示す関数 URL の作成時刻。

型: 文字列

[FunctionArn](#)

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

[FunctionUrl](#)

関数の HTTP URL エンドポイント。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 40 です。最大長は 100 です。

[InvokeMode](#)

以下のいずれかのオプションを使用します。

- `BUFFERED` – これはデフォルトのオプションです。Lambda は `Invoke` API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。
- `RESPONSE_STREAM` – 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は `InvokeWithResponseStream` API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、「[クォータ引き上げをリクエスト](#)」できます。

型: 文字列

有効な値: BUFFERED | RESPONSE_STREAM

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード: 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

DeleteAlias

Lambda 関数の [エイリアス](#) を削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2015-03-31/functions/FunctionName/aliases/Name HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - MyFunction。
- 関数 ARN - arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- 一部の ARN - 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Name

エイリアスの名前。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: (?!^[\0-\9]+\\$)([a-zA-Z0-9-_]+)

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

HTTP/1.1 204

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

DeleteCodeSigningConfig

コード署名の設定を削除します。コード署名の設定を削除できるのは、その設定がいずれの関数でも使用されていない場合のみです。

リクエストの構文

```
DELETE /2020-04-22/code-signing-configs/CodeSigningConfigArn HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-+[a-z]+\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-zA-Z0-9]{17}

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

DeleteEventSourceMapping

[イベントソースマッピング](#)を削除します。マッピングの識別子は、[ListEventSourceMappings](#) の出力から取得できます。

イベントソースマッピングを削除すると、Deleting 状態になり、数秒間完全に削除されない場合があります。

リクエストの構文

```
DELETE /2015-03-31/event-source-mappings/UUID HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[UUID](#)

イベントソースマッピングの識別子。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 202
Content-type: application/json

{
  "AmazonManagedKafkaEventSourceConfig": {
    "ConsumerGroupIdstring"
  },
  "BatchSize": number,
  "BisectBatchOnFunctionError": boolean,
  "DestinationConfig": {
    "OnFailure": {
      "Destination": "string"
    },
  }
}
```

```
"OnSuccess": {  
    "Destination}  
,  
"DocumentDBEventSourceConfig": {  
    "CollectionName": "string",  
    "DatabaseName": "string",  
    "FullDocument": "string"  
},  
"EventSourceArn": "string",  
"FilterCriteria": {  
    "Filters": [  
        {  
            "Pattern": "string"  
        }  
    ]  
},  
"FunctionArn": "string",  
"FunctionResponseTypes": [ "string" ],  
"LastModified": number,  
"LastProcessingResult": "string",  
"MaximumBatchingWindowInSeconds": number,  
"MaximumRecordAgeInSeconds": number,  
"MaximumRetryAttempts": number,  
"ParallelizationFactor": number,  
"Queues": [ "string" ],  
"ScalingConfig": {  
    "MaximumConcurrency": number  
},  
"SelfManagedEventSource": {  
    "Endpoints": {  
        "string" : [ "string" ]  
    }  
},  
"SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {  
    "ConsumerGroupId": "string"  
},  
"SourceAccessConfigurations": [  
    {  
        "Type": "string",  
        "URI": "string"  
    }  
,  
    "StartingPosition": "string",
```

```
"StartingPositionTimestamp": number,  
"State": "string",  
"StateTransitionReason": "string",  
"Topics": [ "string" ],  
"TumblingWindowInSeconds": number,  
"UUID": "string"  
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 202 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#)

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: [AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

[BatchSize](#)

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを单一の呼び出しで関数に渡します。

デフォルト値: サービスによって異なります。Amazon SQS の場合、デフォルトは 10 です。他のすべてのサービスでは、デフォルトは 100 です。

関連設定: `BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合

は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

[BisectBatchOnFunctionError](#)

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。デフォルト値は `false` です。

型: ブール

[DestinationConfig](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka イベントソースのみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: [DestinationConfig](#) オブジェクト

[DocumentDBEventSourceConfig](#)

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: [DocumentDBEventSourceConfig](#) オブジェクト

[EventSourceArn](#)

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

[FilterCriteria](#)

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、[Lambda イベントフィルタリング](#)を参照してください。

型: [FilterCriteria](#) オブジェクト

[FunctionArn](#)

Lambda 関数の ARN。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[FunctionResponseTypes](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: ReportBatchItemFailures

LastModified

イベントソースマッピングが最後に更新された日付、またはその状態が変更された日付 (Unix タイム秒単位)。

型: Timestamp

LastProcessingResult

関数の最後の Lambda 呼び出しの結果。

型: 文字列

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間 (秒)。MaximumBatchingWindowInSeconds は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。MaximumBatchingWindowInSeconds は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、BatchSize を 10 より大きい値に設定する場合は、MaximumBatchingWindowInSeconds を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 300 です。

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は -1 で、最大経過時間は無限です。値が無限に設定されている場合、Lambda が古いレコードを廃棄することはありません。

Note

最大レコード保存期間の最小有効値は 60 秒です。60 未満で -1 より大きい値はパラメータの絶対範囲内ですが、指定できません。

型: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 604,800 です。

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値の -1 により、最大再試行回数は無限に設定されます。MaximumRetryAttempts が無限の場合、Lambda はイベントソースでレコードの有効期限が切れるまで、失敗したレコードを再試行します。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 10,000 です。

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。デフォルト値は 1 です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10 です。

Queues

(Amazon MQ) 消費する Amazon MQ ブローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: `[\s\S]*`

[ScalingConfig](#)

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「[Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources](#)」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: [ScalingConfig](#) オブジェクト

[SelfManagedEventSource](#)

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

型: [SelfManagedEventSource](#) オブジェクト

[SelfManagedKafkaEventSourceConfig](#)

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: [SelfManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

[SourceAccessConfigurations](#)

認証プロトコルの配列、VPC コンポーネント、イベントソースを保護して定義する仮想ホスト。

タイプ: [SourceAccessConfiguration](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

[StartingPosition](#)

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

[StartingPositionTimestamp](#)

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

型: Timestamp

State

イベントソースマッピングの状態。次のうちの 1 つになる可能性があります:

Creating、Enabling、Enabled、Disabling、Disabled、Updating、Deleting。

型: 文字列

StateTransitionReason

ユーザーまたは Lambda がイベントソースマッピングを最後に変更したかどうかを示します。

型: 文字列

Topics

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: ^[^.]([a-zA-Z0-9\-_\.]+)

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 900 です。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceInUseException

オペレーションがリソースの可用性と競合しています。例えば、CREATING (作成中) 状態のイベントソースマッピングを更新しようとした、または現在 UPDATING (更新中) 状態のイベントソースマッピングを削除しようとした場合などです。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」

- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

DeleteFunction

Lambda 関数を削除します。関数の特定のバージョンを削除するには、`Qualifier` パラメータを使用します。それ以外の場合は、すべてのバージョンとエイリアスが削除されます。この場合、ユーザーが [DeleteAlias](#) に対する明示的な権限を持っている必要はありません。

関数を呼び出す Lambda イベントソースマッピングを削除するには、[DeleteEventSourceMapping](#) を使用します。関数を直接呼び出す AWS のサービスとリソースの場合は、最初にトリガーを設定したサービスでトリガーを削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2015-03-31/functions/FunctionName?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数またはバージョンの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:1` (バージョン付き)
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?`

必須: はい

Qualifier

削除するバージョンを指定します。エイリアスが参照するバージョンは削除できません。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (| [a-zA-Z0-9\$_-]+)

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

HTTP/1.1 204

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

DeleteFunctionCodeSigningConfig

関数からコード署名設定を削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2020-06-30/functions/FunctionName/code-signing-config HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - MyFunction。
- 関数 ARN - arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- 一部の ARN - 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

CodeSigningConfigNotFoundException

指定されたコード署名設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

DeleteFunctionConcurrency

関数から同時実行制限を削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2017-10-31/functions/FunctionName/concurrency HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

DeleteFunctionEventInvokeConfig

関数、バージョン、エイリアスの非同期呼び出しの設定を削除します。

非同期呼び出しのオプションを設定するには、[PutFunctionEventInvokeConfig](#) を使用します。

リクエストの構文

```
DELETE /2019-09-25/functions/FunctionName/event-invoke-config?Qualifier=Qualifier
HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 - `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN - `123456789012:function:my-function`

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws:[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:()?(\d{12}:()?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?`

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$-_]+)`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

HTTP/1.1 204

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

DeleteFunctionUrlConfig

Lambda 関数 URL を削除します。削除した関数 URL を、後で復旧することはできません。新しく作成する関数 URL には、前とは異なる URL アドレスが与えられます。

リクエストの構文

```
DELETE /2021-10-31/functions/FunctionName/url?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Qualifier

エイリアス名。

長さの制限 : 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (^\$\\$LATEST\$)|((?!^[\d-]+\$)([a-zA-Z0-9-_]+))

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

HTTP/1.1 204

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

DeleteLayerVersion

[AWS Lambda レイヤー](#)のバージョンを削除します。削除されたバージョンを表示したり、関数に追加したりすることはできません。関数の破損を避けるために、バージョンのコピーは、関数が参照しなくなるまで Lambda に残ります。

リクエストの構文

```
DELETE /2018-10-31/layers/LayerName/versions/VersionNumber HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

LayerName

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_-]+)|[a-zA-Z0-9-_-]+

必須: はい

VersionNumber

バージョン番号。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・「[AWS SDK for JavaScript V3](#)」
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・「[AWS SDK for Ruby V3](#)」

DeleteProvisionedConcurrencyConfig

関数に対してプロビジョニングされた同時実行数の設定を削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2019-09-30/functions/FunctionName/provisioned-concurrency?Qualifier=Qualifier
HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: ([a-zA-Z0-9\$-_]+)

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

HTTP/1.1 204

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

GetAccountSettings

AWSリージョンのアカウントの制限と使用の詳細を取得します。

リクエストの構文

```
GET /2016-08-19/account-settings/ HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは URI パラメータを使用しません。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "AccountLimit": {
    "CodeSizeUnzipped": number,
    "CodeSizeZipped": number,
    "ConcurrentExecutions": number,
    "TotalCodeSize": number,
    "UnreservedConcurrentExecutions": number
  },
  "AccountUsage": {
    "FunctionCount": number,
    "TotalCodeSize": number
  }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[AccountLimit](#)

同時実行性とコードストレージに関連する制限。

型: [AccountLimit](#) オブジェクト

[AccountUsage](#)

関数の数と使用中のストレージ量。

型: [AccountUsage](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・「[AWS SDK for JavaScript V3](#)」

- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

GetAlias

Lambda 関数の [エイリアス](#) の詳細を返します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName/aliases/Name HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - MyFunction。
- 関数 ARN - arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- 一部の ARN - 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Name

エイリアスの名前。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: (?!^[\0-\9]+\\$)([a-zA-Z0-9-_]+)

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json
```

```
{
  "AliasArn": "string",
  "Description": "string",
  "FunctionVersion": "string",
  "Name": "string",
  "RevisionId": "string",
  "RoutingConfig": {
    "AdditionalVersionWeights": {
      "string" : number
    }
  }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AliasArn

エイリアスの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

Description

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

FunctionVersion

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\\$LATEST|[0-9]+)

Name

エイリアスの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: (?![0-9]+\$)([a-zA-Z0-9-_]+)

RevisionId

エイリアスを更新するときに変更される一意の識別子。

型: 文字列

RoutingConfig

エイリアスのルーティング設定。

型: [AliasRoutingConfiguration](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

GetCodeSigningConfig

指定したコード署名設定に関する情報を返します。

リクエストの構文

```
GET /2020-04-22/code-signing-configs/CodeSigningConfigArn HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?- [a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-zA-Z0-9]{17}

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "CodeSigningConfig": {
    "AllowedPublishersSigningProfileVersionArns": [ "string" ]
    },
    "CodeSigningConfigArn": "string",
    "CodeSigningConfigId": "string",
    "CodeSigningPolicies": {
      "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
    }
  }
}
```

```
  },
  "Description": "string",
  "LastModified": "string"
}
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[CodeSigningConfig](#)

コード署名の設定

型: [CodeSigningConfig](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

GetEventSourceMapping

イベントソースマッピングの詳細を返します。マッピングの識別子は、[ListEventSourceMappings](#) の出力から取得できます。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/event-source-mappings/UUID HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "AmazonManagedKafkaEventSourceConfig": {
    "ConsumerGroupIdstring"
  },
  "BatchSizenumber,
  "BisectBatchOnFunctionErrorboolean,
  "DestinationConfigOnFailureDestinationstring"
    },
    "OnSuccessDestinationstring"
    }
  }
}
```

```
},
"DocumentDBEventSourceConfig": {
  "CollectionName": "string",
  "DatabaseName": "string",
  "FullDocument": "string"
},
"EventSourceArn": "string",
"FilterCriteria": {
  "Filters": [
    {
      "Pattern": "string"
    }
  ]
},
"FunctionArn": "string",
"FunctionResponseTypes": [ "string" ],
"LastModified": number,
"LastProcessingResult": "string",
"MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
"MaximumRecordAgeInSeconds": number,
"MaximumRetryAttempts": number,
"ParallelizationFactor": number,
"Queues": [ "string" ],
"ScalingConfig": {
  "MaximumConcurrency": number
},
"SelfManagedEventSource": {
  "Endpoints": {
    "string" : [ "string" ]
  }
},
"SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {
  "ConsumerGroupId": "string"
},
"SourceAccessConfigurations": [
  {
    "Type": "string",
    "URI": "string"
  }
],
"StartingPosition": "string",
"StartingPositionTimestamp": number,
"State": "string",
"StateTransitionReason": "string",
```

```
"Topics": [ "string" ],
" TumblingWindowInSeconds": number,
"UUID": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#)

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: [AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

[BatchSize](#)

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを单一の呼び出しで関数に渡します。

デフォルト値: サービスによって異なります。Amazon SQS の場合、デフォルトは 10 です。他のすべてのサービスでは、デフォルトは 100 です。

関連設定: `BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合

は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

[BisectBatchOnFunctionError](#)

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。デフォルト値は `false` です。

型: ブール

[DestinationConfig](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka イベントソースのみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: [DestinationConfig](#) オブジェクト

[DocumentDBEventSourceConfig](#)

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: [DocumentDBEventSourceConfig](#) オブジェクト

[EventSourceArn](#)

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

[FilterCriteria](#)

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、[Lambda イベントフィルタリング](#)を参照してください。

型: [FilterCriteria](#) オブジェクト

[FunctionArn](#)

Lambda 関数の ARN。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[FunctionResponseTypes](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: ReportBatchItemFailures

LastModified

イベントソースマッピングが最後に更新された日付、またはその状態が変更された日付 (Unix タイム秒単位)。

型: Timestamp

LastProcessingResult

関数の最後の Lambda 呼び出しの結果。

型: 文字列

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間 (秒)。MaximumBatchingWindowInSeconds は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。MaximumBatchingWindowInSeconds は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、BatchSize を 10 より大きい値に設定する場合は、MaximumBatchingWindowInSeconds を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 300 です。

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は -1 で、最大経過時間は無限です。値が無限に設定されている場合、Lambda が古いレコードを廃棄することはありません。

Note

最大レコード保存期間の最小有効値は 60 秒です。60 未満で -1 より大きい値はパラメータの絶対範囲内ですが、指定できません。

型: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 604,800 です。

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値の -1 により、最大再試行回数は無限に設定されます。MaximumRetryAttempts が無限の場合、Lambda はイベントソースでレコードの有効期限が切れるまで、失敗したレコードを再試行します。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 10,000 です。

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。デフォルト値は 1 です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10 です。

Queues

(Amazon MQ) 消費する Amazon MQ ブローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: `[\s\S]*`

[ScalingConfig](#)

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「[Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources](#)」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: [ScalingConfig](#) オブジェクト

[SelfManagedEventSource](#)

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

型: [SelfManagedEventSource](#) オブジェクト

[SelfManagedKafkaEventSourceConfig](#)

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: [SelfManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

[SourceAccessConfigurations](#)

認証プロトコルの配列、VPC コンポーネント、イベントソースを保護して定義する仮想ホスト。

タイプ: [SourceAccessConfiguration](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

[StartingPosition](#)

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

[StartingPositionTimestamp](#)

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

型: Timestamp

State

イベントソースマッピングの状態。次のうちの 1 つになる可能性があります:

Creating、Enabling、Enabled、Disabling、Disabled、Updating、Deleting。

型: 文字列

StateTransitionReason

ユーザーまたは Lambda がイベントソースマッピングを最後に変更したかどうかを示します。

型: 文字列

Topics

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: ^[^.]([a-zA-Z0-9\-_\.]+)

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 900 です。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

GetFunction

関数または関数のバージョンに関する情報を、デプロイパッケージをダウンロードするための 10 分間有効なリンクとともに返します。関数のバージョンを指定した場合は、そのバージョンに固有の詳細のみが返されます。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョンまたはエイリアスを指定して、関数の公開されたバージョンに関する詳細を取得します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$-_]+)`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

HTTP/1.1 200

Content-type: application/json

```
{  
  "Code": {  
    "ImageUri": "string",  
    "Location": "string",  
    "RepositoryType": "string",  
    "ResolvedImageUri": "string"  
  },  
  "Concurrency": {  
    "ReservedConcurrentExecutions": number  
  },  
  "Configuration": {  
    "Architectures": [ "string" ],  
    "CodeSha256": "string",  
    "CodeSize": number,  
    "DeadLetterConfig": {  
      "TargetArn": "string"  
    },  
    "Description": "string",  
    "Environment": {  
      "Error": {  
        "ErrorCode": "string",  
        "Message": "string"  
      },  
      "Variables": {  
        "string" : "string"  
      }  
    },  
    "EphemeralStorage": {  
      "Size": number  
    },  
    "FileSystemConfigs": [  
      {  
        "Arn": "string",  
        "LocalMountPath": "string"  
      }  
    ]  
  }  
}
```

```
        },
    ],
    "FunctionArn": "string",
    "FunctionName": "string",
    "Handler": "string",
    "ImageConfigResponse": {
        "Error": {
            "ErrorCode": "string",
            "Message": "string"
        },
        "ImageConfig": {
            "Command": [ "string" ],
            "EntryPoint": [ "string" ],
            "WorkingDirectory": "string"
        }
    },
    "KMSKeyArn": "string",
    "LastModified": "string",
    "LastUpdateStatus": "string",
    "LastUpdateStatusReason": "string",
    "LastUpdateStatusReasonCode": "string",
    "Layers": [
        {
            "Arn": "string",
            "CodeSize": number,
            "SigningJobArn": "string",
            "SigningProfileVersionArn": "string"
        }
    ],
    "LoggingConfig": {
        "ApplicationLogLevel": "string",
        "LogFormat": "string",
        "LogGroup": "string",
        "SystemLogLevel": "string"
    },
    "MasterArn": "string",
    "MemorySize": number,
    "PackageType": "string",
    "RevisionId": "string",
    "Role": "string",
    "Runtime": "string",
    "RuntimeVersionConfig": {
        "Error": {
            "ErrorCode": "string",
            "Message": "string"
        }
    }
}
```

```
        "Message": "string"
    },
    "RuntimeVersionArn": "string"
},
"SigningJobArn": "string",
"SigningProfileVersionArn": "string",
"SnapStart": {
    "ApplyOn": "string",
    "OptimizationStatus": "string"
},
"State": "string",
"StateReason": "string",
"StateReasonCode": "string",
"Timeout": number,
"TracingConfig": {
    "Mode": "string"
},
"Version": "string",
"VpcConfig": {
    "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
    "SecurityGroupIds": [ "string" ],
    "SubnetIds": [ "string" ],
    "VpcId": "string"
},
"Tags": {
    "string" : "string"
}
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Code

関数またはバージョンのデプロイパッケージ。

型: [FunctionCodeLocation](#) オブジェクト

[Concurrency](#)

関数の予約済み同時実行。

型: [Concurrency](#) オブジェクト

[Configuration](#)

関数またはバージョンの設定。

型: [FunctionConfiguration](#) オブジェクト

[Tags](#)

関数のタグ。

型: 文字列間のマッピング

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

ParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

NotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

GetFunctionCodeSigningConfig

指定された関数のコード署名設定を返します。

リクエストの構文

```
GET /2020-06-30/functions/FunctionName/code-signing-config HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - MyFunction。
- 関数 ARN - arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- 一部の ARN - 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
```

```
Content-type: application/json

{
  "CodeSigningConfigArn": "string",
  "FunctionName": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[CodeSigningConfigArn](#)

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?- [a-z]+\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-zA-Z0-9]{17}`

[FunctionName](#)

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・「[AWS SDK for JavaScript V3](#)」
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」

- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

GetFunctionConcurrency

関数の予約済同時実行数の設定に関する詳細を返します。関数の同時実行数の制限を設定するには、[PutFunctionConcurrency](#) を使用します。

リクエストの構文

```
GET /2019-09-30/functions/FunctionName/concurrency HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json
```

```
{  
  "ReservedConcurrentExecutions": number  
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

ReservedConcurrentExecutions

関数用に予約済同時実行数。

タイプ: 整数

有効な範囲: 最小値は 0 です。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード: 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

GetFunctionConfiguration

Lambda 関数またはバージョンのバージョン固有の設定を返します。出力には、関数のバージョン間で異なるオプションのみが含まれます。これらの設定を変更するには、[UpdateFunctionConfiguration](#) を使用します。

関数レベルの設定を含む、関数のすべての詳細を取得するには、[GetFunction](#) を使用します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName/configuration?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[FunctionName](#)

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:()?(\d{12}:()?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(($LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?`

必須: はい

[Qualifier](#)

バージョンまたはエイリアスを指定して、関数の公開されたバージョンに関する詳細を取得します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (| [a-zA-Z0-9\$_-]+)

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

```
{
  "Architectures": [ "string" ],
  "CodeSha256": "string",
  "CodeSize": number,
  "DeadLetterConfig": {
    "TargetArn": "string"
  },
  "Description": "string",
  "Environment": {
    "Error": {
      "ErrorCode": "string",
      "Message": "string"
    },
    "Variables": {
      "string" : "string"
    }
  },
  "EphemeralStorage": {
    "Size": number
  },
  "FileSystemConfigs": [
    {
      "Arn": "string",
      "LocalMountPath": "string"
    }
  ],
  "FunctionArn": "string",
  "FunctionName": "string",
  "Handler": "string",
  "ImageConfigResponse": {
    "Error": {
      "Code": "string",
      "Message": "string"
    }
  }
}
```

```
        "ErrorCode": "string",
        "Message": "string"
    },
    "ImageConfig": {
        "Command": [ "string" ],
        "EntryPoint": [ "string" ],
        "WorkingDirectory": "string"
    }
},
"KMSKeyArn": "string",
"LastModified": "string",
"LastUpdateStatus": "string",
"LastUpdateStatusReason": "string",
"LastUpdateStatusReasonCode": "string",
"Layers": [
    {
        "Arn": "string",
        "CodeSize": number,
        "SigningJobArn": "string",
        "SigningProfileVersionArn": "string"
    }
],
"LoggingConfig": {
    "ApplicationLogLevel": "string",
    "LogFormat": "string",
    "LogGroup": "string",
    "SystemLogLevel": "string"
},
"MasterArn": "string",
"MemorySize": number,
"PackageType": "string",
"RevisionId": "string",
"Role": "string",
"Runtime": "string",
"RuntimeVersionConfig": {
    "Error": {
        "ErrorCode": "string",
        "Message": "string"
    },
    "RuntimeVersionArn": "string"
},
"SigningJobArn": "string",
"SigningProfileVersionArn": "string",
"SnapStart": {
```

```
  "ApplyOn": "string",
  "OptimizationStatus": "string"
},
"State": "string",
"StateReason": "string",
"StateReasonCode": "string",
"Timeout": number,
"TracingConfig": {
  "Mode": "string"
},
"Version": "string",
"VpcConfig": {
  "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
  "SecurityGroupIds": [ "string" ],
  "SubnetIds": [ "string" ],
  "VpcId": "string"
}
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[Architectures](#)

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値は x86_64 です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

[CodeSha256](#)

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

[CodeSize](#)

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

型: Long

[DeadLetterConfig](#)

関数のデッドレターキュー

型: [DeadLetterConfig](#) オブジェクト

[Description](#)

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

[Environment](#)

関数の [環境変数](#) AWS CloudTrail ログから除外。

型: [EnvironmentResponse](#) オブジェクト

[EphemeralStorage](#)

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「[エフェメラルストレージの設定 \(コンソール\)](#)」を参照してください。

型: [EphemeralStorage](#) オブジェクト

[FileSystemConfigs](#)

[Amazon EFS ファイルシステム](#) の接続設定

型: [FileSystemConfig](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

[FunctionArn](#)

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[FunctionName](#)

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[Handler](#)

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 128 です。

パターン: [^\s]+

[ImageConfigResponse](#)

関数のイメージ設定値

型: [ImageConfigResponse](#) オブジェクト

[KMSKeyArn](#)

関数の環境変数を暗号化するために使用される AWS KMS key。[Lambda SnapStart](#) を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-zA-Z0-9-_\.]+:[^\s]+) | ()

[LastModified](#)

関数が最後に更新された日付と時刻 ([ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))

型: 文字列

[LastUpdateStatus](#)

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に `Successful` に設定されます。

型: 文字列

有効な値: Successful | Failed | InProgress

LastUpdateStatusReason

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

LastUpdateStatusReasonCode

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError

Layers

関数の レイヤー

タイプ: Layer オブジェクトの配列

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: LoggingConfig オブジェクト

MasterArn

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値は 128 です。最大値は 10,240 です。

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは Image に設定し、.zip ファイルアーカイブでは Zip を設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

RevisionId

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\\-/_]+

Runtime

関数のランタイムの識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 |

dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6
| nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2
| nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x |
provided.al2023 | python3.12 | java21

[RuntimeVersionConfig](#)

ランタイムの ARN と発生したエラー

型: [RuntimeVersionConfig](#) オブジェクト

[SigningJobArn](#)

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:(a-z){2}(-gov)?-[a-zA-Z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

[SigningProfileVersionArn](#)

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:(a-z){2}(-gov)?-[a-zA-Z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

[SnapStart](#)

ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「[Improving startup performance with Lambda SnapStart](#)」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: [SnapStartResponse](#) オブジェクト

[State](#)

関数の現在の状態 状態が Inactive の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: Pending | Active | Inactive | Failed

[StateReason](#)

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

[StateReasonCode](#)

関数の現在の状態の理由コード コードが `Creating` のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: `Idle` | `Creating` | `Restoring` | `EniLimitExceeded` | `InsufficientRolePermissions` | `InvalidConfiguration` | `InternalError` | `SubnetOutOfIPAddresses` | `InvalidSubnet` | `InvalidSecurityGroup` | `ImageDeleted` | `ImageAccessDenied` | `InvalidImage` | `KMSKeyAccessDenied` | `KMSKeyNotFound` | `InvalidStateKMSKey` | `DisabledKMSKey` | `EFSIOError` | `EFSMountConnectivityError` | `EFSMountFailure` | `EFSMountTimeout` | `InvalidRuntime` | `InvalidZipFileException` | `FunctionError`

[Timeout](#)

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効範囲: 最小値 は 1

[TracingConfig](#)

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: [TracingConfigResponse](#) オブジェクト

[Version](#)

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

[VpcConfig](#)

関数のネットワーク設定

型: [VpcConfigResponse](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」

- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

GetFunctionEventInvokeConfig

関数、バージョン、エイリアスの非同期呼び出しの設定を取得します。

非同期呼び出しのオプションを設定するには、[PutFunctionEventInvokeConfig](#) を使用します。

リクエストの構文

```
GET /2019-09-25/functions/FunctionName/event-invoke-config?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 - `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN - `123456789012:function:my-function`

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?`

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$-_]+)`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "DestinationConfig": {
    "OnFailureDestination": "string"
    },
    "OnSuccess": {
      "Destination": "string"
    }
  },
  "FunctionArn": "string",
  "LastModified": number,
  "MaximumEventAgeInSeconds": number,
  "MaximumRetryAttempts": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

DestinationConfig

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。
- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

型: DestinationConfig オブジェクト

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

LastModified

設定が最後に更新された日時 (UNIX タイム秒単位)。

型: Timestamp

MaximumEventAgeInSeconds

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ[†]: 整数

値の範囲: 最小値 は 60 です。最大値は 21,600 です。

MaximumRetryAttempts

関数がエラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ[†]: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 2 です。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

GetFunctionUrlConfig

Lambda 関数 URL の詳細を返します。

リクエストの構文

```
GET /2021-10-31/functions/FunctionName/url?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Qualifier

エイリアス名。

長さの制限 : 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (^\$\\$LATEST\$)|((?!^[\d-]+\$)([a-zA-Z0-9-_]+))

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "AuthType": "string",
  "Cors": {
    "AllowCredentials": boolean,
    "AllowHeaders": [ "string" ],
    "AllowMethods": [ "string" ],
    "AllowOrigins": [ "string" ],
    "ExposeHeaders": [ "string" ],
    "MaxAge": number
  },
  "CreationTime": "string",
  "FunctionArn": "string",
  "FunctionUrl": "string",
  "InvokeMode": "string",
  "LastModifiedTime": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、AWS_IAM に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に NONE を設定します。詳細については、「[Security and auth model for Lambda function URLs](#)」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: NONE | AWS_IAM

[Cors](#)

関数 URL のための、[Cross-Origin Resource Sharing \(CORS\)](#) 設定。

型: [Cors](#) オブジェクト

[CreationTime](#)

[ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示す関数 URL の作成時刻。

型: 文字列

[FunctionArn](#)

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[FunctionUrl](#)

関数の HTTP URL エンドポイント。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 40 です。最大長は 100 です。

[InvokeMode](#)

以下のいずれかのオプションを使用します。

- **BUFFERED** – これはデフォルトのオプションです。Lambda は Invoke API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。
- **RESPONSE_STREAM** – 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は InvokeWithResponseStream API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、[「クォータ引き上げをリクエスト」](#) できます。

型: 文字列

有効な値: **BUFFERED** | **RESPONSE_STREAM**

LastModifiedTime

ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示された関数の最後更新日時。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」

- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

GetLayerVersion

[AWS Lambda レイヤー](#)のバージョンに関する情報を、10 分間有効なレイヤーアーカイブのダウンロードリンクとともに返します。

リクエストの構文

```
GET /2018-10-31/layers/LayerName/versions/VersionNumber HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

LayerName

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-]+)|[a-zA-Z0-9-]+

必須: はい

VersionNumber

バージョン番号。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
```

```
"CompatibleArchitectures": [ "string" ],
"CompatibleRuntimes": [ "string" ],
"Content": {
  "CodeSha256": "string",
  "CodeSize": number,
  "Location": "string",
  "SigningJobArn": "string",
  "SigningProfileVersionArn": "string"
},
"CreatedDate": "string",
"Description": "string",
"LayerArn": "string",
"LayerVersionArn": "string",
"LicenseInfo": "string",
"Version": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CompatibleArchitectures

互換性のある命令セットアーキテクチャのリストです。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 2 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

CompatibleRuntimes

レイヤーの互換性のあるランタイム。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 15 項目です。

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

Content

レイヤーバージョンの詳細。

型: [LayerVersionContentOutput](#) オブジェクト

CreatedDate

レイヤーバージョンが作成された日付 ([ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))。

型: 文字列

Description

バージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

LayerArn

レイヤーの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+

LayerVersionArn

レイヤーバージョンの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_-]+:[0-9]+

LicenseInfo

レイヤーのソフトウェアライセンス。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 512 です。

Version

バージョン番号。

型: Long

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

GetLayerVersionByArn

[AWS Lambda レイヤー](#)のバージョンに関する情報を、10 分間有効なレイヤーアーカイブのダウンロードリンクとともに返します。

リクエストの構文

```
GET /2018-10-31/layers?find=LayerVersion&Arn=Arn HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

Arn

レイヤーバージョンの ARN。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-]+:[0-9]+

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "CompatibleArchitectures": [ "string" ],
  "CompatibleRuntimes": [ "string" ],
  "Content": {
    "CodeSha256": "string",
    "CodeSize": number,
    "Location": "string",
  }
}
```

```
  "SigningJobArn": "string",
  "SigningProfileVersionArn": "string"
},
"CreatedDate": "string",
"Description": "string",
"LayerArn": "string",
"LayerVersionArn": "string",
"LicenseInfo": "string",
"Version": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[CompatibleArchitectures](#)

互換性のある[命令セットアーキテクチャ](#)のリストです。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 2 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

[CompatibleRuntimes](#)

レイヤーの互換性のあるランタイム。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 15 項目です。

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2

| nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x |
provided.al2023 | python3.12 | java21

Content

レイヤーバージョンの詳細。

型: [LayerVersionContentOutput](#) オブジェクト

CreatedDate

レイヤーバージョンが作成された日付 ([ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))。

型: 文字列

Description

バージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

LayerArn

レイヤーの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+

LayerVersionArn

レイヤーバージョンの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+:[0-9]+

LicenseInfo

レイヤーのソフトウェアライセンス。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 512 です。

Version

バージョン番号。

型: Long

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

GetLayerVersionPolicy

[AWS Lambda レイヤー](#)のバージョンの許可ポリシーを返します。詳細については、「」を参照してください[AddLayerVersionPermission](#)

リクエストの構文

```
GET /2018-10-31/layers/LayerName/versions/VersionNumber/policy HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

LayerName

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_-]+)|[a-zA-Z0-9-_-]+

必須: はい

VersionNumber

バージョン番号。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
```

```
  "Policy": "string",
  "RevisionId": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[Policy](#)

ポリシードキュメント。

型: 文字列

[RevisionId](#)

ポリシーの現在のリビジョンにおける一意の識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

GetPolicy

関数、バージョン、エイリアスの[リソースベースの IAM ポリシー](#)を返します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName/policy?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?`

必須: はい

Qualifier

そのリソースのポリシーを取得するバージョンまたはエイリアスを指定します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$-_]+)`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "Policy": "string",
  "RevisionId": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Policy

リソースベースのポリシー。

型: 文字列

RevisionId

ポリシーの現在のリビジョンにおける一意の識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・「[AWS SDK for JavaScript V3](#)」
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・「[AWS SDK for Ruby V3](#)」

GetProvisionedConcurrencyConfig

関数のエイリアスまたはバージョンに対してプロビジョニングされた同時実行数の設定を取得します。

リクエストの構文

```
GET /2019-09-30/functions/FunctionName/provisioned-concurrency?Qualifier=Qualifier  
HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(|[a-zA-Z0-9$-_]+)`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "AllocatedProvisionedConcurrentExecutions": number,
  "AvailableProvisionedConcurrentExecutions": number,
  "LastModified": "string",
  "RequestedProvisionedConcurrentExecutions": number,
  "Status": "string",
  "StatusReason": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AllocatedProvisionedConcurrentExecutions

割り当てられたプロビジョニング済み同時実行数。線形デプロイと Canary デプロイ時に加重工イリアスを使用するとき、関数バージョンにプロビジョニングされる同時実行の量に応じて、この値は変動します。

型: 整数

有効な範囲: 最小値は 0 です。

AvailableProvisionedConcurrentExecutions

使用可能なプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

有効な範囲: 最小値 は 0 です。

LastModified

ユーザーが最後に設定を更新した日時 ([ISO 8601 形式](#))。

タイプ: 文字列

RequestedProvisionedConcurrentExecutions

リクエストされたプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

有効範囲: 最小値 は 1 です。

Status

割り当てプロセスのステータス

型: 文字列

有効な値: IN_PROGRESS | READY | FAILED

StatusReason

失敗した割り当ての、プロビジョニング済み同時実行を割り当てられなかった理由。

タイプ: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ProvisionedConcurrencyConfigNotFoundException

指定した設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・「[AWS SDK for JavaScript V3](#)」
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・「[AWS SDK for Ruby V3](#)」

GetRuntimeManagementConfig

関数のバージョンに関するランタイム管理設定を取得します。ランタイム更新モードが手動の場合、これにはランタイムバージョンの ARN と、ランタイム更新モードが含まれます。ランタイム更新モードが自動または関数の更新の場合、これにはランタイム更新モードが含まれ、ARN には null が返されます。詳細については、「[ランタイム更新](#)」を参照してください。

リクエストの構文

```
GET /2021-07-20/functions/FunctionName/runtime-management-config?Qualifier=Qualifier  
HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[FunctionName](#)

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?

必須: はい

[Qualifier](#)

関数のバージョンを指定します。これは、\$LATEST または発行済みのバージョン番号にすることができます。値が指定されていない場合は、\$LATEST バージョンの設定が返されます。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (|[a-zA-Z0-9\$_-]+)

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "FunctionArn": "string",
  "RuntimeVersionArn": "string",
  "UpdateRuntimeOn": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

RuntimeVersionArn

関数が使用するように設定されているランタイムのARN です。ランタイム更新モードが手動の場合は ARN が返され、それ以外の場合は null が返されます。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 26 です。最大長は 2,048 です。

パターン: ^arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?- [a-z]+\d{1}::runtime: .+\$

UpdateRuntimeOn

関数の現在のランタイム更新モードです。

型: 文字列

有効な値: Auto | Manual | FunctionUpdate

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

Invoke

Lambda 関数を呼び出します。関数は、同期的に (レスポンスを待って)、または非同期的に呼び出すことが可能です。デフォルトでは、Lambda は関数を同期的に呼び出します (つまり InvocationType は RequestResponse です)。関数を非同期的に呼び出すには、InvocationType を Event に設定します。Lambda は、同期呼び出しの場合のみ ClientContext オブジェクトを関数に渡します。

同期呼び出しの場合、エラーを含む関数レスポンスの詳細が、レスポンス本文とヘッダーに含まれます。どちらの呼び出しタイプについても、詳細は、[実行ログ](#) および [トレース](#) に記載されています。

エラーが発生すると、関数が複数回呼び出される可能性があります。再試行の動作は、エラータイプ、クライアント、イベントソース、呼び出しタイプによって異なります。たとえば、関数を非同期に呼び出してエラーが返された場合、Lambda は関数を最大 2 回実行します。詳細については、「[Lambda でのエラー処理と自動再試行](#)」を参照してください。

非同期呼び出しの場合、Lambda はイベントを、関数に送信する前にキューに追加します。関数に、キューに対応する十分な容量がない場合、イベントが失われる可能性があります。場合によっては、エラーが発生しなくとも、関数が同じイベントを複数回受信することがあります。処理されなかつたイベントを保持するには、[デッドレターキュー](#)で関数を設定します。

API レスポンスのステータスコードには、関数エラーは反映されません。エラーコードは、許可エラー、[クォータエラー](#)、または関数のコードと設定に関する問題など、関数の実行を妨げるエラーのためのものです。例えば、関数の実行がアカウントレベル (ConcurrentInvocationLimitExceeded) または関数レベル (ReservedFunctionConcurrentInvocationLimitExceeded) のいずれかで同時実行制限を超過する原因となる場合、Lambda は TooManyRequestsException を返します。

タイムアウトが長い関数では、同期呼び出し中、レスポンスを待っている間にクライアントが切断される場合があります。HTTP クライアント、SDK、ファイアウォール、プロキシ、またはオペレーティングシステムを構成して、タイムアウトまたはキープアライブ設定での長い接続を許可するようにしてください。

このオペレーションには [lambda:InvokeFunction](#) アクションに対するアクセス許可が必要です。クロスアカウントの呼び出しに対する許可を設定する方法の詳細については、[他のアカウントに関数のアクセス権の付与](#) を参照してください。

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/functions/FunctionName/invocations?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

X-Amz-Invocation-Type: *InvocationType*

X-Amz-Log-Type: *LogType*

X-Amz-Client-Context: *ClientContext*

Payload

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

ClientContext

コンテキストオブジェクトで関数に渡される、呼び出し側クライアントに関する最大 3,583 バイトの base64 でエンコードされたデータです。Lambda は、同期呼び出しの場合にのみ *ClientContext* オブジェクトを関数に渡します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?`

必須: はい

InvocationType

次のオプションから選択します。

- `RequestResponse` (デフォルト) – 関数を同期的に呼び出します。関数がレスポンスを返すかタイムアウトするまで、接続を開いたままにします。API レスポンスには、関数レスポンスと追加データが含まれます。

- Event – 関数を非同期的に呼び出します。複数回失敗するイベントを、関数のデッドレターキューに送信します (設定されている場合)。API レスポンスには、ステータスコードのみが含まれます。
- DryRun – パラメータ値を検証し、ユーザーまたはロールが、関数を呼び出す許可を持っていることを確認します。

有効な値: Event | RequestResponse | DryRun

LogType

Tail に設定し、実行ログをレスポンスに含めます。同期的に呼び出された関数にのみ適用されます。

有効な値: None | Tail

Qualifier

バージョンまたはエイリアスを指定して、関数の公開されたバージョンを呼び出します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (| [a-zA-Z0-9\$_-]+)

リクエストボディ

リクエストは以下のバイナリデータを受け入れます。

Payload

入力として Lambda 関数に提供される JSON。

JSON を直接入力できます。例えば、`--payload '{ "key": "value" }'` です。ファイルパスを指定することもできます。例えば、`--payload file://payload.json` です。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 StatusCode
X-Amz-Function-Error: FunctionError
X-Amz-Log-Result: LogResult
X-Amz-Executed-Version: ExecutedVersion
```

Payload

レスポンス要素

アクションが成功すると、以下の HTTP レスポンスが返されます。

StatusCode

HTTP ステータスコードは、成功したリクエストの 200 の範囲内にあります。RequestResponse呼び出しタイプの場合、ステータスコードは 200 です。Event呼び出しタイプの場合、ステータスコードは 202 です。DryRun呼び出しタイプの場合、ステータスコードは 204 です。

レスポンスでは、以下の HTTP ヘッダーが返されます。

ExecutedVersion

実行された関数のバージョン。エイリアスを使用して関数を呼び出すと、エイリアスが解決したバージョンが示されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\\$LATEST | [0-9]+)

FunctionError

エラーが存在する場合、関数の実行中にエラーが発生したことを示します。エラーの詳細は、レスポンスペイロードに含まれています。

LogResult

base64 でエンコードされた、実行ログの最後の 4 KB です。

レスポンスは、HTTP 本文として以下を返します。

Payload

関数からのレスポンス、またはエラーオブジェクト。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

EC2AccessDeniedException

VPC 設定を構成するには、追加のアクセス許可が必要です。

HTTP ステータスコード: 502

EC2ThrottledException

Amazon EC2 が、Lambda 関数用に提供された実行ロールを使用した関数の初期化中に AWS Lambda をスロットルしました。

HTTP ステータスコード: 502

EC2UnexpectedException

AWS Lambda が、Lambda 関数のセットアップ中に想定外の Amazon EC2 クライアント例外を受け取りました。

HTTP ステータスコード: 502

EFSIOException

接続されているファイルシステムの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 410

EFSMountConnectivityException

Lambda 関数が、設定されたファイルシステムに対するネットワーク接続を確立できませんでした。

HTTP ステータスコード: 408

EFSMountFailureException

許可または設定の問題が原因で、Lambda 関数は設定されたファイルシステムをマウントできませんでした。

HTTP ステータスコード: 403

EFSMountTimeoutException

Lambda 関数は、設定されたファイルシステムに対するネットワーク接続を確立しましたが、マウント操作がタイムアウトしました。

HTTP ステータスコード: 408

ENILimitReachedException

ネットワークインターフェイスの制限に達したため、AWS Lambda は Lambda 関数設定の一部として指定された VPC で Elastic Network Interface を作成できませんでした。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidRequestContentException

リクエストボディを JSON として解析できませんでした。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidRuntimeException

指定されたランタイムまたはランタイムバージョンは、サポートされていません。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidSecurityGroupIDException

Lambda 関数の VPC 設定で指定されているセキュリティグループ ID が無効です。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidSubnetIDException

Lambda 関数の VPC 設定で指定されているサブネット ID が無効です。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidZipFileException

AWS Lambda がデプロイパッケージを解凍できませんでした。

HTTP ステータスコード: 502

KMSAccessDeniedException

AWS KMS アクセスが拒否されたため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。Lambda 関数の KMS アクセス許可をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSDisabledException

使用した AWS KMS keyが無効化されているため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。Lambda 関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSInvalidStateException

使用した AWS KMS keyの状態が複合化に有効なものではないため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSNotFoundException

AWS KMS keyが見つからなかったため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

RecursiveInvocationException

他の AWS リソースと再帰的なループで関数が呼び出されていることを Lambda が検出したため、関数の呼び出しを停止しました。

HTTP ステータスコード: 400

RequestTooLargeException

リクエストペイロードが Invoke リクエストボディの JSON 入力クォータを超過しました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 413

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ResourceNotReadyException

関数が非アクティブなため、その VPC 接続を使用できません。VPC 接続が再度確立されるのを待ち、再試行してください。

HTTP ステータスコード: 502

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

SnapStartException

afterRestore() [ランタイムフック](#)でエラーが発生しました。詳細については、Amazon CloudWatch Logs をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 400

SnapStartNotReadyException

Lambda が関数を初期化しています。関数は、[関数の状態](#)が Active になったときに呼び出すことができます。

HTTP ステータスコード: 409

SnapStartTimeoutException

Lambda は、タイムアウト制限内にスナップショットを復元できませんでした。

HTTP ステータスコード: 408

SubnetIPAddressLimitReachedException

1 つ、または複数の設定されたサブネットに利用可能な IP アドレスがないことから、AWS Lambda は Lambda 関数の VPC アクセスを設定できませんでした。

HTTP ステータスコード: 502

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるしました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

UnsupportedMediaTypeException

Invokeリクエストボディのコンテンツタイプが JSON ではありません。

HTTP ステータスコード: 415

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

InvokeAsync

このアクションは非推奨になりました。

⚠ Important

非同期関数呼び出しの場合は、[Invoke](#) を使用します。

関数を非同期的に呼び出します。

ⓘ Note

InvokeAsync アクションを使用する場合、X-Ray アクティブラーミングの使用はサポートされていないことに注意してください。X-Ray アクティブラーミングがオンになっていても、トレース ID は関数に伝播されません。

リクエストの構文

POST /2014-11-13/functions/*FunctionName*/invoke-async/ HTTP/1.1

InvokeArgs

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[FunctionName](#)

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下のバイナリデータを受け入れます。

InvokeArgs

入力として Lambda 関数に提供される JSON。

必須: はい

レスポンスの構文

HTTP/1.1 *Status*

レスポンス要素

アクションが成功すると、以下の HTTP レスポンスが返されます。

Status

ステータスコード。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidRequestContentException

リクエストボディを JSON として解析できませんでした。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidOperationException

指定されたランタイムまたはランタイムバージョンは、サポートされていません。

HTTP ステータスコード: 502

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- 「[AWS SDK for .NET](#)」
- 「[AWS SDK for C++](#)」
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- 「[AWS SDK for JavaScript V3](#)」
- 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- 「[AWS SDK for Python](#)」
- 「[AWS SDK for Ruby V3](#)」

InvokeWithResponseStream

Lambda 関数を設定して、レスポンスペイロードをクライアントにストリーミングで返します。 詳細については、「[ストリームレスポンスに Lambda 関数を設定する](#)」を参照してください。

このオペレーションには [lambda:InvokeFunction](#) アクションに対するアクセス許可が必要です。クロスアカウントの呼び出しに対する許可を設定する方法の詳細については、[他のアカウントに関数のアクセス権の付与](#)を参照してください。

リクエストの構文

```
POST /2021-11-15/functions/FunctionName/response-streaming-invocations?  
Qualifier=Qualifier HTTP/1.1  
X-Amz-Invocation-Type: InvocationType  
X-Amz-Log-Type: LogType  
X-Amz-Client-Context: ClientContext  
  
Payload
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[ClientContext](#)

コンテキストオブジェクトで関数に渡される、呼び出し側クライアントに関する最大 3,583 バイトの base64 でエンコードされたデータです。

[FunctionName](#)

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\\$_LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

InvocationType

以下のいずれかのオプションを使用します。

- RequestResponse (デフォルト) – 関数を同期的に呼び出します。関数がレスポンスを返すかタイムアウトするまで、接続を開いたままにします。API オペレーションレスポンスには、関数レスポンスと追加データが含まれます。
- DryRun – パラメータ値を検証し、IAM ユーザーまたはロールが、関数を呼び出す許可を持っていることを確認します。

有効な値: RequestResponse | DryRun

LogType

Tail に設定し、実行ログをレスポンスに含めます。同期的に呼び出された関数にのみ適用されます。

有効な値: None | Tail

Qualifier

エイリアス名。

長さの制限 : 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: ([a-zA-Z0-9\$-_]+)

リクエストボディ

リクエストは以下のバイナリデータを受け入れます。

Payload

入力として Lambda 関数に提供される JSON。

JSON を直接入力できます。例えば、--payload '{ "key": "value" }' です。ファイルパスを指定することもできます。例えば、--payload file://payload.json です。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 StatusCode
X-Amz-Executed-Version: ExecutedVersion
Content-Type: ResponseStreamContentType
Content-type: application/json

{
  "InvokeComplete": {
    "ErrorCodeErrorDetails": "string",
    "LogResult": "string"
  },
  "PayloadChunk": {
    "Payload": blob
  }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、以下の HTTP レスポンスが返されます。

StatusCode

リクエストが成功した場合、HTTP ステータスコードは 200 の範囲内にあります。RequestResponse呼び出しタイプの場合、ステータスコードは 200 です。DryRun 呼び出しタイプの場合、ステータスコードは 204 です。

レスポンスでは、以下の HTTP ヘッダーが返されます。

ExecutedVersion

実行された関数のバージョン。エイリアスを使用して関数を呼び出すと、エイリアスが解決したバージョンが示されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\\$LATEST|[0-9]+)

ResponseStreamContentType

ストリームが返すデータのタイプ。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

InvokeComplete

ストリームが終了し、すべてのペイロードチャunkが返されたときに返されるオブジェクト。

型: [InvokeWithResponseStreamCompleteEvent](#) オブジェクト

PayloadChunk

ストリーミングされたレスポンスペイロードのチャunk。

型: [InvokeResponseStreamUpdate](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

EC2AccessDeniedException

VPC 設定を構成するには、追加のアクセス許可が必要です。

HTTP ステータスコード: 502

EC2ThrottledException

Amazon EC2 が、Lambda 関数用に提供された実行ロールを使用した関数の初期化中に AWS Lambda をスロットルしました。

HTTP ステータスコード: 502

EC2UnexpectedException

AWS Lambda が、Lambda 関数のセットアップ中に想定外の Amazon EC2 クライアント例外を受け取りました。

HTTP ステータスコード: 502

EFSIOException

接続されているファイルシステムの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 410

EFSMountConnectivityException

Lambda 関数が、設定されたファイルシステムに対するネットワーク接続を確立できませんでした。

HTTP ステータスコード: 408

EFSMountFailureException

許可または設定の問題が原因で、Lambda 関数は設定されたファイルシステムをマウントできませんでした。

HTTP ステータスコード: 403

EFSMountTimeoutException

Lambda 関数は、設定されたファイルシステムに対するネットワーク接続を確立しましたが、マウント操作がタイムアウトしました。

HTTP ステータスコード: 408

ENILimitReachedException

ネットワークインターフェイスの制限に達したため、AWS Lambda は Lambda 関数設定の一部として指定された VPC で Elastic Network Interface を作成できませんでした。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード: 400

InvalidRequestContentException

リクエストボディを JSON として解析できませんでした。

HTTP ステータスコード: 400

InvalidRuntimeException

指定されたランタイムまたはランタイムバージョンは、サポートされていません。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidSecurityGroupIDException

Lambda 関数の VPC 設定で指定されているセキュリティグループ ID が無効です。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidSubnetIDException

Lambda 関数の VPC 設定で指定されているサブネット ID が無効です。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidZipFileException

AWS Lambda がデプロイパッケージを解凍できませんでした。

HTTP ステータスコード: 502

KMSAccessDeniedException

AWS KMS アクセスが拒否されたため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。Lambda 関数の KMS アクセス許可をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSDisabledException

使用した AWS KMS keyが無効化されているため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。Lambda 関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSInvalidStateException

使用した AWS KMS keyの状態が複合化に有効なものではないため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSNotFoundException

AWS KMS keyが見つからなかったため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

RecursiveInvocationException

他の AWS リソースと再帰的なループで関数が呼び出されていることを Lambda が検出したため、関数の呼び出しを停止しました。

HTTP ステータスコード : 400

RequestTooLargeException

リクエストペイロードが Invoke リクエストボディの JSON 入力クォータを超過しました。 詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 413

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ResourceNotReadyException

関数が非アクティブなため、その VPC 接続を使用できません。VPC 接続が再度確立されるのを待ち、再試行してください。

HTTP ステータスコード: 502

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

SnapStartException

`afterRestore()` [ランタイムフック](#)でエラーが発生しました。 詳細については、Amazon CloudWatch Logs をチェックしてください。

HTTP ステータスコード : 400

SnapStartNotReadyException

Lambda が関数を初期化しています。関数は、[関数の状態](#)が Active になったときに呼び出すことができます。

HTTP ステータスコード: 409

SnapStartTimeoutException

Lambda は、タイムアウト制限内にスナップショットを復元できませんでした。

HTTP ステータスコード: 408

SubnetIPAddressLimitReachedException

1 つ、または複数の設定されたサブネットに利用可能な IP アドレスがないことから、AWS Lambda は Lambda 関数の VPC アクセスを設定できませんでした。

HTTP ステータスコード: 502

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

UnsupportedMediaTypeException

Invoke リクエストボディのコンテンツタイプが JSON ではありません。

HTTP ステータスコード: 415

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- 「[AWS SDK for .NET](#)」
- 「[AWS SDK for C++](#)」
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- 「[AWS SDK for Java V2](#)」

- [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- 「[AWS SDK for Python](#)」
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

ListAliases

Lambda 関数の [エイリアス](#) のリストを返します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName/aliases?  
FunctionVersion=FunctionVersion&Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[FunctionName](#)

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

[FunctionVersion](#)

関数バージョンを指定して、そのバージョンを呼び出すエイリアスのみを一覧表示します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\\$LATEST|[0-9]+)`

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

返されるエイリアス数の制限。

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "Aliases": [
    {
      "AliasArn": "string",
      "Description": "string",
      "FunctionVersion": "string",
      "Name": "string",
      "RevisionId": "string",
      "RoutingConfig": {
        "AdditionalVersionWeights": {
          "string" : number
        }
      }
    }
  ],
  "NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Aliases

エイリアスのリスト。

タイプ: [AliasConfiguration](#) オブジェクトの配列

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

ListCodeSigningConfigs

コード署名の設定のリストを返します。リクエストは、コールごとに最大 10,000 の設定を返します。MaxItems パラメータを使用して、呼び出しごとに返される設定の数を減らします。

リクエストの構文

```
GET /2020-04-22/code-signing-configs/?Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

返される項目の最大数。

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "CodeSigningConfigs": [
    {
      "AllowedPublishersSigningProfileVersionArnsstring" ]
      },
      "CodeSigningConfigArnstring",
    }
  ]
}
```

```
"CodeSigningConfigId": "string",
"CodeSigningPolicies": [
    "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
],
"Description": "string",
"LastModified": "string"
},
],
"NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CodeSigningConfigs

コード署名の設定

タイプ: [CodeSigningConfig](#) オブジェクトの配列

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

ListEventSourceMappings

イベントソースマッピングを一覧表示します。EventSourceArn を指定して、単一のイベントソースのイベントソースマッピングのみを表示します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/event-source-mappings/?
EventSourceArn=EventSourceArn&FunctionName=FunctionName&Marker=Marker&MaxItems=MaxItems
HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

EventSourceArn

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN) です。

- Amazon Kinesis – データストリームまたはストリームコンシューマーの ARN。
- Amazon DynamoDB Streams – ストリームの ARN。
- Amazon Simple Queue Service – キューの ARN。
- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka – クラスターの ARN または VPC 接続の ARN ([クロスアカウントイベントソースマッピング](#)用)。
- Amazon MQ – ブローカーの ARN。
- Amazon DocumentDB – DocumentDB 変更ストリームの ARN。

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – MyFunction。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- バージョンまたはエイリアス ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction:PROD。

- 部分的な ARN – 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$_LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?

Marker

以前の呼び出しから返されたページ割りトークン。

MaxItems

返されるイベントソースマッピングの最大数。ListEventSourceMappings は、数値を高く設定しても各レスポンスで最大 100 項目しか返さないことに注意してください。

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "EventSourceMappings": [
    {
      "AmazonManagedKafkaEventSourceConfig": {
        "ConsumerGroupIdBatchSizeBisectBatchOnFunctionErrorDestinationConfig": {
        "OnFailure": {
          "DestinationOnSuccess": {
          "Destination
```

```
        },
    },
    "DocumentDBEventSourceConfig": {
        "CollectionName": "string",
        "DatabaseName": "string",
        "FullDocument": "string"
    },
    "EventSourceArn": "string",
    "FilterCriteria": {
        "Filters": [
            {
                "Pattern": "string"
            }
        ]
    },
    "FunctionArn": "string",
    "FunctionResponseTypes": [ "string" ],
    "LastModified": number,
    "LastProcessingResult": "string",
    "MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
    "MaximumRecordAgeInSeconds": number,
    "MaximumRetryAttempts": number,
    "ParallelizationFactor": number,
    "Queues": [ "string" ],
    "ScalingConfig": {
        "MaximumConcurrency": number
    },
    "SelfManagedEventSource": {
        "Endpoints": {
            "string" : [ "string" ]
        }
    },
    "SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {
        "ConsumerGroupId": "string"
    },
    "SourceAccessConfigurations": [
        {
            "Type": "string",
            "URI": "string"
        }
    ],
    "StartingPosition": "string",
    "StartingPositionTimestamp": number,
    "State": "string",
```

```
  "StateTransitionReason": "string",
  "Topics": [ "string" ],
  "TumblingWindowInSeconds": number,
  "UUID": "string"
}
],
"NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[EventSourceMappings](#)

イベントソースマッピングのリスト。

タイプ: [EventSourceMappingConfiguration](#) オブジェクトの配列

[NextMarker](#)

レスポンスにすべてのイベントソースマッピングが含まれていない場合に返されるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

ListFunctionEventInvokeConfigs

関数の非同期呼び出しの設定リストを取得します。

非同期呼び出しのオプションを設定するには、[PutFunctionEventInvokeConfig](#) を使用します。

リクエストの構文

```
GET /2019-09-25/functions/FunctionName/event-invoke-config/list?  
Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - my-function。
- 関数 ARN - arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 一部の ARN - 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

返される設定の最大数。

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 50 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "FunctionEventInvokeConfigs": [
    {
      "DestinationConfig": {
        "OnFailure": {
          "Destination": "string"
        },
        "OnSuccess": {
          "Destination": "string"
        }
      },
      "FunctionArn": "string",
      "LastModified": number,
      "MaximumEventAgeInSeconds": number,
      "MaximumRetryAttempts": number
    }
  ],
  "NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

FunctionEventInvokeConfigs

設定のリスト。

タイプ: FunctionEventInvokeConfig オブジェクトの配列

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」

- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

ListFunctions

各バージョン固有の設定とともに、Lambda 関数のリストを返します。Lambda は、呼び出しごとに最大 50 の関数を返します。

FunctionVersionをALLに設定して、未公開バージョンに加えて各関数のすべての公開バージョンを含めます。

Note

ListFunctions 操作は、[FunctionConfiguration](#) フィールドのサブセットを返します。関数またはバージョンに関する追加フィールド (State、StateReasonCode、StateReason、LastUpdateStatus、LastUpdateStatusReason、LastUpdateTimestamp) を取得するには、[GetFunction](#) を使用してください。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/?
FunctionVersion=FunctionVersion&Marker=Marker&MasterRegion=MasterRegion&MaxItems=MaxItems
HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[FunctionVersion](#)

ALLに設定して、各関数のすべての公開バージョンのエントリを含めます。

有効な値: ALL

[Marker](#)

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトーカンを指定します。

[MasterRegion](#)

Lambda@Edge functions の場合、マスター関数の AWS リージョン。例えば、us-east-1 は、米国東部 (バージニア北部) 内のマスター関数からレプリケートされた Lambda@Edge 関数のみ

を含めるように関数のリストをフィルタリングします。指定する場合、FunctionVersion を ALL に設定する必要があります。

パターン: ALL|[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}

MaxItems

レスポンスで返す関数の最大数。数値を高く設定しても、ListFunctions が各レスポンスで返す項目の最大数は 50 であることに注意してください。

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "Functions": [
    {
      "ArchitecturesCodeSha256": "string",
      "CodeSize": number,
      "DeadLetterConfig": {
        "TargetArn": "string"
      },
      "Description": "string",
      "Environment": {
        "Error": {
          "ErrorCode": "string",
          "Message": "string"
        },
        "Variables": {
          "string" : "string"
        }
      },
      "EphemeralStorage": {
        "Size": number
      },
    }
  ]
}
```

```
"FileSystemConfigs": [  
    {  
        "Arn        "LocalMountPath    }  
,  
    "FunctionArn    "FunctionName    "Handler    "ImageConfigResponse        "Error            "ErrorCode            "Message        },  
        "ImageConfig            "Command            "EntryPoint            "WorkingDirectory        },  
    },  
    "KMSKeyArn    "LastModified    "LastUpdateStatus    "LastUpdateStatusReason    "LastUpdateStatusReasonCode    "Layers        {  
            "Arn            "CodeSize            "SigningJobArn            "SigningProfileVersionArn        }  
,  
        "LoggingConfig            "ApplicationLogLevel            "LogFormat            "LogGroup            "SystemLogLevel        },  
        "MasterArn        "MemorySize        "PackageType        "RevisionId        "Role    ]
```

```
"Runtime": "string",
"RuntimeVersionConfig": {
    "Error": {
        "ErrorCode": "string",
        "Message": "string"
    },
    "RuntimeVersionArn": "string"
},
"SigningJobArn": "string",
"SigningProfileVersionArn": "string",
"SnapStart": {
    "ApplyOn": "string",
    "OptimizationStatus": "string"
},
"State": "string",
"StateReason": "string",
"StateReasonCode": "string",
"Timeout": number,
"TracingConfig": {
    "Mode": "string"
},
"Version": "string",
"VpcConfig": {
    "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
    "SecurityGroupIds": [ "string" ],
    "SubnetIds": [ "string" ],
    "VpcId": "string"
}
},
],
"NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Functions

Lambda 関数のリスト。

タイプ: FunctionConfiguration オブジェクトの配列

[NextMarker](#)

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・「[AWS SDK for JavaScript V3](#)」

- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

ListFunctionsByCodeSigningConfig

指定されたコード署名設定を使用する関数を一覧表示します。この方法を使用して、コード署名設定を削除する前に、その設定を使用している関数がないことを確認できます。

リクエストの構文

```
GET /2020-04-22/code-signing-configs/CodeSigningConfigArn/functions?  
Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[CodeSigningConfigArn](#)

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?- [a-z]+\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-zA-Z0-9]{17}

必須: はい

[Marker](#)

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトーカンを指定します。

[MaxItems](#)

返される項目の最大数。

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
```

```
Content-type: application/json

{
  "FunctionArns": [ "string" ],
  "NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[FunctionArns](#)

関数の ARN。

タイプ: 文字列の配列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[NextMarker](#)

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

ListFunctionUrlConfigs

指定した Lambda 関数について URL のリストを返します。

リクエストの構文

```
GET /2021-10-31/functions/FunctionName/urls?Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトーカンを指定します。

MaxItems

レスポンスに返す関数 URL の最大数。数値を高く設定しても、ListFunctionUrlConfigs が各レスポンスで返す項目の最大数は 50 であることに注意してください。

有効範囲: 最小値は 1 です。最大値は 50 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "FunctionUrlConfigs": [
    {
      "AuthTypeCors": {
        "AllowCredentials": boolean,
        "AllowHeaders": [ "string" ],
        "AllowMethods": [ "string" ],
        "AllowOrigins": [ "string" ],
        "ExposeHeaders": [ "string" ],
        "MaxAge": number
      },
      "CreationTime": "string",
      "FunctionArn": "string",
      "FunctionUrl": "string",
      "InvokeMode": "string",
      "LastModifiedTime": "string"
    },
    ],
    "NextMarker": "string"
  }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[FunctionUrlConfigs](#)

関数 URL の設定のリスト。

型: [FunctionUrlConfig](#) オブジェクトの配列

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」

- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

ListLayers

[AWS Lambda レイヤー](#)をリストし、各レイヤーの最新バージョンに関する情報を表示します。[ランタイム識別子](#)を指定して、そのランタイムと互換性があることを示すレイヤーのみを一覧表示します。互換性のあるアーキテクチャを指定して、その[命令セットアーキテクチャ](#)と互換性のあるレイヤーのみを含めます。

リクエストの構文

```
GET /2018-10-31/layers?  
CompatibleArchitecture=CompatibleArchitecture&CompatibleRuntime=CompatibleRuntime&Marker=Marker  
HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[CompatibleArchitecture](#)

互換性のある[命令セットアーキテクチャ](#)です。

有効な値: x86_64 | arm64

[CompatibleRuntime](#)

ランタイム識別子。例えば、java21 です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

[Marker](#)

以前の呼び出しから返されたページ割りトークン。

[MaxItems](#)

返されるレイヤーの最大数。

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 50 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "Layers": [
    {
      "LatestMatchingVersionCompatibleArchitecturesstring" ],
        "CompatibleRuntimesstring" ],
        "CreatedDatestring",
        "Descriptionstring",
        "LayerVersionArnstring",
        "LicenseInfostring",
        "Versionnumber
      },
      "LayerArnstring",
      "LayerNamestring"
    }
  ],
  "NextMarkerstring"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[Layers](#)

関数レイヤーのリスト。

型: [LayersListItem](#) オブジェクトの配列

[NextMarker](#)

レスポンスにすべてのレイヤーが含まれていない場合に返されるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」

- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

ListLayerVersions

[AWS Lambda レイヤー](#)のバージョンをリストします。削除されたバージョンはリストされません。[ランタイム識別子](#)を指定して、そのランタイムと互換性があることを示すバージョンのみを一覧表示します。互換性のあるアーキテクチャを指定して、そのアーキテクチャと互換性のあるレイヤーバージョンのみを含めます。

リクエストの構文

```
GET /2018-10-31/layers/LayerName/versions?  
CompatibleArchitecture=CompatibleArchitecture&CompatibleRuntime=CompatibleRuntime&Marker=Marker  
HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[CompatibleArchitecture](#)

互換性のある[命令セットアーキテクチャ](#)です。

有効な値: x86_64 | arm64

[CompatibleRuntime](#)

ランタイム識別子。例えば、java21 です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

[LayerName](#)

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_-]+)|[a-zA-Z0-9-_-]+

必須: はい

Marker

以前の呼び出しから返されたページ割りトークン。

MaxItems

返されるバージョンの最大数。

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 50 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "LayerVersions": [
    {
      "CompatibleArchitecturesstring" ],
      "CompatibleRuntimesstring" ],
      "CreatedDatestring",
      "Descriptionstring",
      "LayerVersionArnstring",
      "LicenseInfostring",
      "Versionnumber
    }
  ],
  "NextMarkerstring
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

LayerVersions

バージョンのリスト。

型: [LayerVersionsListItem](#) オブジェクトの配列

NextMarker

レスポンスにすべてのバージョンが含まれていない場合に返されるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

ListProvisionedConcurrencyConfigs

関数に対してプロビジョニングされた同時実行数の設定のリストを取得します。

リクエストの構文

```
GET /2019-09-30/functions/FunctionName/provisioned-concurrency?  
List=ALL&Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?

必須: はい

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

返される設定の数を制限する数値を指定します。

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 50 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "NextMarker": "string",
  "ProvisionedConcurrencyConfigs": [
    {
      "AllocatedProvisionedConcurrentExecutions": number,
      "AvailableProvisionedConcurrentExecutions": number,
      "FunctionArn": "string",
      "LastModified": "string",
      "RequestedProvisionedConcurrentExecutions": number,
      "Status": "string",
      "StatusReason": "string"
    }
  ]
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

ProvisionedConcurrencyConfigs

プロビジョニングされた同時実行数の設定のリスト。

タイプ: [ProvisionedConcurrencyConfigListItem](#) オブジェクトの配列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」

- [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- 「[AWS SDK for Python](#)」
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

ListTags

関数の [タグ](#) を返します。タグは [GetFunction](#) で表示することもできます。

リクエストの構文

```
GET /2017-03-31/tags/ARN HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[ARN](#)

関数の Amazon リソースネーム (ARN) 注: Lambda では、エイリアスまたはバージョンへのタグの追加をサポートしていません。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "Tags": {
    "string": "string"
  }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[Tags](#)

関数のタグ。

型: 文字列間のマッピング

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」

- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

ListVersionsByFunction

各バージョン固有の設定とともに、[バージョン](#)のリストを返します。Lambda は、呼び出しごとに最大 50 のバージョンを返します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName/versions?Marker=Marker&MaxItems=MaxItems  
HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - MyFunction。
- 関数 ARN - arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- 一部の ARN - 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?

必須: はい

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

返されるバージョンの最大数。数値を大きく設定しても、ListVersionsByFunction が各レスポンスで返す項目は最大 50 であることに注意してください。

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "NextMarker": "string",
  "Versions": [
    {
      "Architectures": [ "string" ],
      "CodeSha256": "string",
      "CodeSize": number,
      "DeadLetterConfig": {
        "TargetArn": "string"
      },
      "Description": "string",
      "Environment": {
        "Error": {
          "ErrorCode": "string",
          "Message": "string"
        },
        "Variables": {
          "string" : "string"
        }
      },
      "EphemeralStorage": {
        "Size": number
      },
      "FileSystemConfigs": [
        {
          "Arn": "string",
          "LocalMountPath": "string"
        }
      ],
      "FunctionArn": "string",
      "FunctionName": "string",
    }
  ]
}
```

```
"Handler": "string",
"ImageConfigResponse": {
    "Error": {
        "ErrorCode": "string",
        "Message": "string"
    },
    "ImageConfig": {
        "Command": [ "string" ],
        "EntryPoint": [ "string" ],
        "WorkingDirectory": "string"
    }
},
"KMSKeyArn": "string",
"LastModified": "string",
"LastUpdateStatus": "string",
"LastUpdateStatusReason": "string",
"LastUpdateStatusReasonCode": "string",
"Layers": [
    {
        "Arn": "string",
        "CodeSize": number,
        "SigningJobArn": "string",
        "SigningProfileVersionArn": "string"
    }
],
"LoggingConfig": {
    "ApplicationLogLevel": "string",
    "LogFormat": "string",
    "LogGroup": "string",
    "SystemLogLevel": "string"
},
"MasterArn": "string",
"MemorySize": number,
"PackageType": "string",
"RevisionId": "string",
"Role": "string",
"Runtime": "string",
"RuntimeVersionConfig": {
    "Error": {
        "ErrorCode": "string",
        "Message": "string"
    },
    "RuntimeVersionArn": "string"
},
}
```

```
"SigningJobArn": "string",
"SigningProfileVersionArn": "string",
"SnapStart": {
    "ApplyOn": "string",
    "OptimizationStatus": "string"
},
"State": "string",
"StateReason": "string",
"StateReasonCode": "string",
"Timeout": number,
"TracingConfig": {
    "Mode": "string"
},
"Version": "string",
"VpcConfig": {
    "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
    "SecurityGroupIds": [ "string" ],
    "SubnetIds": [ "string" ],
    "VpcId": "string"
}
}
]
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

Versions

Lambda 関数バージョンのリスト。

型: [FunctionConfiguration](#) オブジェクトの配列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・「[AWS SDK for JavaScript V3](#)」
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」

- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

PublishLayerVersion

zip アーカイブから [AWS Lambda レイヤー](#) を作成します。同じレイヤー名で PublishLayerVersion を呼び出すたびに、新しいバージョンが作成されます。

関数に、[CreateFunction](#) または [UpdateFunctionConfiguration](#) でレイヤーを追加します。

リクエストの構文

```
POST /2018-10-31/layers/LayerName/versions HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "CompatibleArchitectures": [ "string" ],
  "CompatibleRuntimes": [ "string" ],
  "Content": {
    "S3Bucket": "string",
    "S3Key": "string",
    "S3ObjectVersion": "string",
    "ZipFile": blob
  },
  "Description": "string",
  "LicenseInfo": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

LayerName

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_-]+)|[a-zA-Z0-9-_-]+

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

CompatibleArchitectures

互換性のある[命令セットアーキテクチャ](#)のリストです。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 2 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

必須: いいえ

CompatibleRuntimes

互換性のある[関数のランタイム](#)のリスト。[ListLayers](#)および[ListLayerVersions](#)のフィルタリングに使用されます。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 15 項目です。

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

必須: いいえ

Content

関数のレイヤーアーカイブ。

型: [LayerVersionContentInput](#) オブジェクト

必須: はい

Description

バージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

LicensesInfo

レイヤーのソフトウェアライセンス。これは、次のいずれかとなります。

- SPDX ライセンス識別子。例えば、MIT です。
- インターネットでホストされているライセンスの URL。例えば、<https://opensource.org/licenses/MIT> です。
- ライセンスのフルテキスト。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 512 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
  "CompatibleArchitectures": [ "string" ],
  "CompatibleRuntimes": [ "string" ],
  "Content": {
    "CodeSha256": "string",
    "CodeSize": number,
    "Location": "string",
    "SigningJobArn": "string",
    "SigningProfileVersionArn": "string"
  },
  "CreatedDate": "string",
  "Description": "string",
}
```

```
"LayerArn": "string",
"LayerVersionArn": "string",
"LicenseInfo": "string",
"Version": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[CompatibleArchitectures](#)

互換性のある[命令セットアーキテクチャ](#)のリストです。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 2 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

[CompatibleRuntimes](#)

レイヤーの互換性のあるランタイム。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 15 項目です。

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

[Content](#)

レイヤーバージョンの詳細。

型: [LayerVersionContentOutput](#) オブジェクト

CreatedDate

レイヤーバージョンが作成された日付 ([ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))。

型: 文字列

Description

バージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

LayerArn

レイヤーの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+

LayerVersionArn

レイヤーバージョンの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+:[0-9]+

LicenseInfo

レイヤーのソフトウェアライセンス。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 512 です。

Version

バージョン番号。

型: Long

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

CodeStorageExceededException

AWS アカウントが、最大合計コードサイズを超過しました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidArgumentException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるしました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」

- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

PublishVersion

現在のコードおよび関数の設定からバージョンを作成します。バージョンを使用して、変更されない関数のコードおよび設定のスナップショットを作成します。

関数の設定とコードが最終バージョン以降に変更されていない場合、AWS Lambdaは、バージョンを公開しません。[UpdateFunctionCode](#)または[UpdateFunctionConfiguration](#)を使用して、バージョンを公開する前に関数を更新します。

クライアントは、バージョンを直接呼び出すことも、エイリアスを使用して呼び出すこともできます。エイリアスを作成するには、[CreateAlias](#) を使用します。

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/functions/FunctionName/versions HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "CodeSha256": "string",
  "Description": "string",
  "RevisionId": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[FunctionName](#)

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - MyFunction。
- 関数 ARN - arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- 一部の ARN - 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?:(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\u0024LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

CodeSha256

ハッシュ値が指定された値と一致した場合のみ、バージョンを発行します。このオプションを使用して、最終更新から関数コードが変更された場合にバージョンの発行を回避します。[UpdateFunctionCode](#)の出力からアップロードしたバージョンのハッシュを取得できます。

型: 文字列

必須: いいえ

Description

関数設定の説明を上書きするバージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

RevisionId

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、関数を更新します。このオプションを使用して、最終更新から関数の設定が変更された場合に、バージョンの公開を回避します。

型: 文字列

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json
```



```
"LastUpdateStatusReasonCode": "string",
"Layers": [
  {
    "Arn": "string",
    "CodeSize": number,
    "SigningJobArn": "string",
    "SigningProfileVersionArn": "string"
  }
],
"LoggingConfig": {
  "ApplicationLogLevel": "string",
  "LogFormat": "string",
  "LogGroup": "string",
  "SystemLogLevel": "string"
},
"MasterArn": "string",
"MemorySize": number,
"PackageType": "string",
"RevisionId": "string",
"Role": "string",
"Runtime": "string",
"RuntimeVersionConfig": {
  "Error": {
    "ErrorCode": "string",
    "Message": "string"
  },
  "RuntimeVersionArn": "string"
},
"SigningJobArn": "string",
"SigningProfileVersionArn": "string",
"SnapStart": {
  "ApplyOn": "string",
  "OptimizationStatus": "string"
},
"State": "string",
"StateReason": "string",
"StateReasonCode": "string",
"Timeout": number,
"TracingConfig": {
  "Mode": "string"
},
"Version": "string",
"VpcConfig": {
  "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
```

```
  "SecurityGroupIds": [ "string" ],
  "SubnetIds": [ "string" ],
  "VpcId": "string"
}
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[Architectures](#)

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値はx86_64です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

[CodeSha256](#)

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

[CodeSize](#)

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

型: Long

[DeadLetterConfig](#)

関数のデッドレターキュー

型: [DeadLetterConfig](#) オブジェクト

[Description](#)

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

Environment

関数の [環境変数](#) AWS CloudTrail ログから除外。

型: [EnvironmentResponse](#) オブジェクト

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「[エフェメラルストレージの設定 \(コンソール\)](#)」を参照してください。

型: [EphemeralStorage](#) オブジェクト

FileSystemConfigs

[Amazon EFS ファイルシステム](#) の接続設定

型: [FileSystemConfig](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

FunctionName

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

Handler

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 128 です。

パターン: [^\s]+

[ImageConfigResponse](#)

関数のイメージ設定値

型: [ImageConfigResponse](#) オブジェクト

[KMSKeyArn](#)

関数の環境変数を暗号化するために使用される AWS KMS key。[Lambda SnapStart](#) を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-zA-Z0-9-.]+:[.]*))|()

[LastModified](#)

関数が最後に更新された日付と時刻 ([ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))

型: 文字列

[LastUpdateStatus](#)

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に Successful に設定されます。

型: 文字列

有効な値: Successful | Failed | InProgress

[LastUpdateStatusReason](#)

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

[LastUpdateStatusReasonCode](#)

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: `EniLimitExceeded` | `InsufficientRolePermissions` | `InvalidConfiguration` | `InternalError` | `SubnetOutOfIPAddresses` | `InvalidSubnet` | `InvalidSecurityGroup` | `ImageDeleted` | `ImageAccessDenied` | `InvalidImage` | `KMSKeyAccessDenied` | `KMSKeyNotFound` | `InvalidStateKMSKey` | `DisabledKMSKey` | `EFSIOError` | `EFSMountConnectivityError` | `EFSMountFailure` | `EFSMountTimeout` | `InvalidRuntime` | `InvalidZipFileException` | `FunctionError`

Layers

関数の [レイヤー](#)

タイプ: [Layer](#) オブジェクトの配列

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: [LoggingConfig](#) オブジェクト

MasterArn

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値は 128 です。最大値は 10,240 です。

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは `Image` に設定し、`.zip` ファイルアーカイブでは `Zip` を設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

RevisionId

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\\-/_]+

Runtime

関数の[ランタイム](#)の識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラー

型: [RuntimeVersionConfig](#) オブジェクト

SigningJobArn

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:(a-z){2}(-gov)?-[a-z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

[SigningProfileVersionArn](#)

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:(a-z){2}(-gov)?-[a-z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

[SnapStart](#)

ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「[Improving startup performance with Lambda SnapStart](#)」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: [SnapStartResponse](#) オブジェクト

[State](#)

関数の現在の状態 状態が Inactive の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: Pending | Active | Inactive | Failed

[StateReason](#)

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

[StateReasonCode](#)

関数の現在の状態の理由コード コードが Creating のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: Idle | Creating | Restoring | EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfRange | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup |

ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied
| KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError
| EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout |
InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効範囲: 最小値 は 1

TracingConfig

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: [TracingConfigResponse](#) オブジェクト

Version

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\\$LATEST | [0-9]+)

VpcConfig

関数のネットワーク設定

型: [VpcConfigResponse](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

CodeStorageExceeded

AWS アカウントが、最大合計コードサイズを超過しました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。GetFunction または GetAlias API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」

- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

PutFunctionCodeSigningConfig

関数のコード署名設定を更新します。コード署名設定への変更は、ユーザーが次にコードパッケージを関数にデプロイしようとしたときに有効になります。

リクエストの構文

```
PUT /2020-06-30/functions/FunctionName/code-signing-config HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "CodeSigningConfigArn
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - MyFunction。
- 関数 ARN - arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- 一部の ARN - 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?- [a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-zA-Z0-9]{17}

必須: はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json
```

```
{
  "CodeSigningConfigArn": "string",
  "FunctionName": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?- [a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-zA-Z0-9]{17}

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - MyFunction。
- 関数 ARN - arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- 一部の ARN - 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

CodeSigningConfigNotFoundException

指定されたコード署名設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード: 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

PutFunctionConcurrency

関数の同時実行数の最大値を設定して、同時実行レベルの容量を予約します。

同時実行設定は、すべての公開バージョンと未公開バージョンを含む、関数全体に適用されます。同時実行を予約すると、指定された数のイベントを同時に処理できる容量が関数に確保され、そのレベルを超えるスケーリングができなくなります。[GetFunction](#)を使用して、関数の現在の設定を表示します。

[GetAccountSettings](#)を使用して、リージョンの同時実行制限を表示します。関数ごとの制限が設定されていない関数に対して、100 以上の同時実行が予約されていない限り、任意の数の関数に対する同時実行を予約できます。詳細については、「[Lambda 関数のスケーリング](#)」を参照してください。

リクエストの構文

```
PUT /2017-10-31/functions/FunctionName/concurrency HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "ReservedConcurrentExecutions": number
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?:(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\text{LATEST}|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

ReservedConcurrentExecutions

関数用に予約する同時実行数。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。

必須: はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json
```

```
{
  "ReservedConcurrentExecutions": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

ReservedConcurrentExecutions

この関数用に予約済同時実行数。詳細については、「[Lambda 予約済み同時実行数の管理](#)」を参照してください。

型: 整数

有効な範囲: 最小値 は 0 です。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」

- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

PutFunctionEventInvokeConfig

関数、バージョン、エイリアスで [非同期呼び出し](#) のオプションを設定します。関数、バージョン、エイリアスの設定が既に存在する場合は、このオペレーションによって設定が上書きされます。設定を除外すると、それらの設定は削除されます。他のオプションの既存の設定に影響を与える前に 1 つのオプションを設定するには、[UpdateFunctionEventInvokeConfig](#) を使用します。

デフォルトでは、関数がエラーを返した場合、Lambda は非同期呼び出しを 2 回再試行します。イベントは最大 6 時間キューに保持されます。イベントがすべての処理に失敗した場合、または非同期呼び出しキューに長時間残っている場合、Lambda はそれを破棄します。廃棄されたイベントを保持するには、[UpdateFunctionConfiguration](#) を使用してデッドレターキューを設定します。

呼び出しレコードをキュー、トピック、関数、イベントバスに送信するには、[送信先](#) を指定します。成功した呼び出し (on-success) とすべての処理試行に失敗したイベント (on-failure) に別々の送信先を設定できます。デッドレターキューに加えて、またはデッドレターキューの代わりに送信先を設定できます。

リクエストの構文

```
PUT /2019-09-25/functions/FunctionName/event-invoke-config?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "DestinationConfig": {
    "OnFailure": {
      "Destination": "string"
    },
    "OnSuccess": {
      "Destination": "string"
    }
  },
  "MaximumEventAgeInSeconds": number,
  "MaximumRetryAttempts": number
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 - `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN - `123456789012:function:my-function`

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?`

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$-_]+)`

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

DestinationConfig

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。
- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

タイプ: [DestinationConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

[MaximumEventAgeInSeconds](#)

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 60 です。最大値は 21,600 です。

必須: いいえ

[MaximumRetryAttempts](#)

関数がエラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 2 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "DestinationConfig": {
    "OnFailureDestinationOnSuccessDestinationFunctionArnLastModifiedMaximumEventAgeInSecondsMaximumRetryAttempts
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[DestinationConfig](#)

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。
- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

型: [DestinationConfig](#) オブジェクト

[FunctionArn](#)

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[LastModified](#)

設定が最後に更新された日時 (UNIX タイム秒単位)。

型: Timestamp

[MaximumEventAgeInSeconds](#)

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 60 です。最大値は 21,600 です。

[MaximumRetryAttempts](#)

関数がエラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 2 です。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード: 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

PutProvisionedConcurrencyConfig

プロビジョニングされた同時実行数の設定を関数のエイリアスまたはバージョンに追加します。

リクエストの構文

```
PUT /2019-09-30/functions/FunctionName/provisioned-concurrency?Qualifier=Qualifier
HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "ProvisionedConcurrentExecutions": number
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: (|[a-zA-Z0-9\$_-]+)

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

ProvisionedConcurrentExecutions

バージョンまたはエイリアスに割り当てるプロビジョニングされた同時実行数。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。

必須: はい

レスポンスの構文

HTTP/1.1 202

Content-type: application/json

```
{  
  "AllocatedProvisionedConcurrentExecutions": number,  
  "AvailableProvisionedConcurrentExecutions": number,  
  "LastModified": "string",  
  "RequestedProvisionedConcurrentExecutions": number,  
  "Status": "string",  
  "StatusReason": "string"  
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 202 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AllocatedProvisionedConcurrentExecutions

割り当てられたプロビジョニング済み同時実行数。線形デプロイと Canary デプロイ時に加重バイアスを使用するとき、関数バージョンにプロビジョニングされる同時実行の量に応じて、この値は変動します。

型: 整数

有効な範囲: 最小値は 0 です。

AvailableProvisionedConcurrentExecutions

使用可能なプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

有効な範囲: 最小値は 0 です。

LastModified

ユーザーが最後に設定を更新した日時 ([ISO 8601 形式](#))。

タイプ: 文字列

RequestedProvisionedConcurrentExecutions

リクエストされたプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

有効範囲: 最小値は 1 です。

Status

割り当てプロセスのステータス

型: 文字列

有効な値: IN_PROGRESS | READY | FAILED

StatusReason

失敗した割り当ての、プロビジョニング済み同時実行を割り当てられなかった理由。

タイプ: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- 「[AWS SDK for .NET](#)」
- 「[AWS SDK for C++](#)」

- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

PutRuntimeManagementConfig

関数のバージョンのランタイム管理設定を実行します。詳細については、「[ランタイム更新](#)」を参照してください。

リクエストの構文

```
PUT /2021-07-20/functions/FunctionName/runtime-management-config?Qualifier=Qualifier
HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "RuntimeVersionArn": "string",
  "UpdateRuntimeOn": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?\n(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Qualifier

関数のバージョンを指定します。これは、\$LATEST または発行済みのバージョン番号にすることができます。値が指定されていない場合は、\$LATEST バージョンの設定が返されます。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (| [a-zA-Z0-9\$_-]+)

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

RuntimeVersionArn

関数に使用させるランタイムバージョンの ARN です。

 Note

これが必要となるのは、手動のランタイム更新モードを使用している場合のみです。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 26 です。最大長は 2,048 です。

パターン: ^arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-+[a-z]+\d{1}::runtime:.\$

必須: いいえ

UpdateRuntimeOn

ランタイム更新モードを指定します。

- 自動 (デフォルト) – [2 フェーズのランタイムバージョンロールアウト](#) を使用して、最新のセキュアなランタイムバージョンに自動的に更新します。ランタイム更新のメリットを常に得るためにも、これは大半のお客様にとって最良のオプションです。
- 関数の更新 – 関数が更新されると、Lambda が関数のランタイムを最新のセキュアなランタイムバージョンに更新します。このアプローチは、ランタイム更新を関数デプロイと同期させることから、ランタイム更新が適用されるタイミングを制御することができるとともに、まれに

発生するランタイム更新の非互換性を早期に検出して緩和することが可能になります。この設定を使用するときは、関数を定期的に更新して、それらのランタイムを最新の状態に保つ必要があります。

- 手動 – 関数設定でランタイムバージョンを指定します。関数は、このランタイムバージョンを恒久的に使用します。このアプローチでは、新しいランタイムバージョンに既存の関数との互換性がないというまれな状況でも、関数を以前のランタイムバージョンにロールバックすることができます。詳細については、「[ランタイムバージョンをロールバックする](#)」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: Auto | Manual | FunctionUpdate

必須: はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "FunctionArn": "string",
  "RuntimeVersionArn": "string",
  "UpdateRuntimeOn": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[FunctionArn](#)

関数の ARN です。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

RuntimeVersionArn

関数が使用するように設定されているランタイムのARNです。ランタイム更新モードが手動の場合は ARN が返され、それ以外の場合は null が返されます。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 26 です。最大長は 2,048 です。

パターン: ^arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-+[a-zA-Z]+\d{1}::runtime:+\$

UpdateRuntimeOn

ランタイム更新モードです。

型: 文字列

有効な値: Auto | Manual | FunctionUpdate

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

RemoveLayerVersionPermission

[AWS Lambda レイヤー](#)のバージョンの許可ポリシーからステートメントを削除します。詳細については、「[AddLayerVersionPermission](#)」を参照してください。

リクエストの構文

```
DELETE /2018-10-31/layers/LayerName/versions/VersionNumber/policy/StatementId?  
RevisionId=RevisionId HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[LayerName](#)

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_+)|[a-zA-Z0-9-_+]

必須: はい

[RevisionId](#)

リビジョン ID が指定した ID と一致する場合にのみ、ポリシーを更新します。このオプションを使用して、最終読み取りから変更されたポリシーを変更しないようにします。

[StatementId](#)

ステートメントが追加されたときに指定された識別子。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 100 です。

Pattern: ([a-zA-Z0-9-_]+)

必須: はい

[VersionNumber](#)

バージョン番号。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

HTTP/1.1 204

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。GetFunction または GetAlias API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

RemovePermission

AWS のサービス、または別の AWS アカウントから function-use 許可を取り消します。[GetPolicy](#) の出力からステートメントの ID を取得できます。

リクエストの構文

```
DELETE /2015-03-31/functions/FunctionName/policy/StatementId?  
Qualifier=Qualifier&RevisionId=RevisionId HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?`

必須: はい

Qualifier

関数の公開バージョンからアクセス許可を削除するには、バージョンまたはエイリアスを指定します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(|[a-zA-Z0-9$-_]+)`

RevisionId

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、ポリシーを更新します。このオプションを使用して、最終読み取りから変更されたポリシーを変更しないようにします。

StatementId

削除するアクセス許可のステートメント ID。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 100 です。

Pattern: ([a-zA-Z0-9-_\.]+)

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

HTTP/1.1 204

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。GetFunction または GetAlias API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・「[AWS SDK for JavaScript V3](#)」
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・「[AWS SDK for Ruby V3](#)」

TagResource

関数に [タグ](#) を追加します。

リクエストの構文

```
POST /2017-03-31/tags/ARN HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "Tags": {
    "string": "string"
  }
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[ARN](#)

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

[Tags](#)

関数に適用するタグのリスト

型: 文字列から文字列へのマッピング

必須: はい

レスポンスの構文

HTTP/1.1 204

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

UntagResource

関数から タグ を削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2017-03-31/tags/ARN?tagKeys=TagKeys HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

ARN

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

TagKeys

関数から削除するタグキーのリスト。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- 「[AWS SDK for .NET](#)」
- 「[AWS SDK for C++](#)」

- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

UpdateAlias

Lambda 関数エイリアスの設定を更新します。

リクエストの構文

```
PUT /2015-03-31/functions/FunctionName/aliases/Name HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "Description": "string",
  "FunctionVersion": "string",
  "RevisionId": "string",
  "RoutingConfig": {
    "AdditionalVersionWeights": {
      "string": number
    }
  }
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - MyFunction。
- 関数 ARN - arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- 一部の ARN - 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?

必須: はい

Name

エイリアスの名前。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: (?![0-9]+\$)([a-zA-Z0-9-_]+)

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Description

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

FunctionVersion

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\\$LATEST|[0-9]+)

必須: いいえ

RevisionId

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、関数を更新します。このオプションを使用して、最終読み取りから変更されたエイリアスが変更されないようにします。

型: 文字列

必須: いいえ

RoutingConfig

エイリアスのルーティング設定。

タイプ: [AliasRoutingConfiguration](#) オブジェクト

必須: いいえ

レスポンスの構文

HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

```
{  
  "AliasArn": "string",  
  "Description": "string",  
  "FunctionVersion": "string",  
  "Name": "string",  
  "RevisionId": "string",  
  "RoutingConfig": {  
    "AdditionalVersionWeights": {  
      "string" : number  
    }  
  }  
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AliasArn

エイリアスの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[Description](#)

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

[FunctionVersion](#)

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\\$LATEST|[0-9]+)

[Name](#)

エイリアスの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: (?![0-9]+\$)([a-zA-Z0-9-_]+)

[RevisionId](#)

エイリアスを更新するときに変更される一意の識別子。

型: 文字列

[RoutingConfig](#)

エイリアスのルーティング設定。

型: [AliasRoutingConfiguration](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。GetFunction または GetAlias API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」

- ・ [「AWS SDK for Java V2」](#)
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ [「AWS SDK for PHP V3」](#)
- ・ [「AWS SDK for Python」](#)
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

UpdateCodeSigningConfig

コード署名設定を更新します。コード署名設定への変更は、ユーザーが次にコードパッケージを関数にデプロイしようとしたときに有効になります。

リクエストの構文

```
PUT /2020-04-22/code-signing-configs/CodeSigningConfigArn HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "AllowedPublishers": {
    "SigningProfileVersionArns": [ "string" ]
  },
  "CodeSigningPolicies": {
    "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
  },
  "Description": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?- [a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-zA-Z0-9]{17}

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

AllowedPublishers

このコード署名の設定用署名プロファイル。

タイプ: [AllowedPublishers](#) オブジェクト

必須: いいえ

[CodeSigningPolicies](#)

コード署名ポリシー。

タイプ: [CodeSigningPolicies](#) オブジェクト

必須: いいえ

[Description](#)

このコード署名の設定用の記述名。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "CodeSigningConfig": {
    "AllowedPublishers": {
      "SigningProfileVersionArns": [ "string" ]
    },
    "CodeSigningConfigArn": "string",
    "CodeSigningConfigId": "string",
    "CodeSigningPolicies": {
      "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
    },
    "Description": "string",
    "LastModified": "string"
  }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[CodeSigningConfig](#)

コード署名の設定

型: [CodeSigningConfig](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」

- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

UpdateEventSourceMapping

イベントソースマッピングを更新します。AWS Lambdaが呼び出す関数を変更して、または呼び出しを一時停止して、後で同じ場所から再開できます。

さまざまなイベントソースの設定方法の詳細については、以下のトピックを参照してください。

- [Amazon DynamoDB Streams](#)
- [Amazon Kinesis](#)
- [Amazon SQS](#)
- [Amazon MQ と RabbitMQ](#)
- [Amazon MSK](#)
- [Apache Kafka](#)
- [Amazon DocumentDB](#)

以下のエラー処理オプションは、ストリーミングソース (DynamoDB および Kinesis) でのみ使用できます。

- `BisectBatchOnFunctionError` – 関数がエラーを返す場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。
- `DestinationConfig` – 廃棄されたレコードを Amazon SQS キューまたは Amazon SNS トピックに送信します。
- `MaximumRecordAgeInSeconds` – 指定された経過期間よりも古いレコードを廃棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。無制限 (-1) に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。
- `MaximumRetryAttempts` – 指定された再試行数の後でレコードを廃棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。無制限 (-1) に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。
- `ParallelizationFactor` – 各シャードからの複数のバッチを同時に処理します。

各イベントソースに適用される設定パラメータについては、次のトピックを参照してください。

- [Amazon DynamoDB Streams](#)
- [Amazon Kinesis](#)

- [Amazon SQS](#)
- [Amazon MQ と RabbitMQ](#)
- [Amazon MSK](#)
- [Apache Kafka](#)
- [Amazon DocumentDB](#)

リクエストの構文

```
PUT /2015-03-31/event-source-mappings/UUID HTTP/1.1
Content-type: application/json
```

```
{
  "BatchSize": number,
  "BisectBatchOnFunctionError": boolean,
  "DestinationConfig": {
    "OnFailure": {
      "Destination": "string"
    },
    "OnSuccess": {
      "Destination": "string"
    }
  },
  "DocumentDBEventSourceConfig": {
    "CollectionName": "string",
    "DatabaseName": "string",
    "FullDocument": "string"
  },
  "Enabled": boolean,
  "FilterCriteria": {
    "Filters": [
      {
        "Pattern": "string"
      }
    ]
  },
  "FunctionName": "string",
  "FunctionResponseTypes": [ "string " ],
  "MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
  "MaximumRecordAgeInSeconds": number,
  "MaximumRetryAttempts": number,
  "ParallelizationFactor": number,
```

```
"ScalingConfig    "MaximumConcurrencynumber  
},  
"SourceAccessConfigurations    {  
        "Typestring",  
        "URIstring"  
    }  
],  
"TumblingWindowInSecondsnumber  
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

BatchSize

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを单一の呼び出しで関数に渡します。

- Amazon Kinesis – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon DynamoDB Streams – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon Simple Queue Service – デフォルトで 10。標準キューの場合、最大値は 10,000 です。FIFO キューの場合、最大値は 10 です。
- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka - デフォルトで 100。最大 10,000。
- セルフマネージド型の Apache Kafka – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon MQ (ActiveMQ と RabbitMQ) – デフォルトで 100。最大 10,000。

- DocumentDB – デフォルトは 100 です。最大 10,000。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

[BisectBatchOnFunctionError](#)

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。

型: ブール

必須: いいえ

[DestinationConfig](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Kafka のみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: [DestinationConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

[DocumentDBEventSourceConfig](#)

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: [DocumentDBEventSourceConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

[Enabled](#)

true の場合、イベントソースマッピングがアクティブになります。false の場合、Lambda がポーリングと呼び出しを一時停止します。

デフォルト: True

型: ブール

必須: いいえ

[FilterCriteria](#)

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、[Lambda イベントフィルタリング](#)を参照してください。

型: [FilterCriteria](#) オブジェクト

必須: いいえ

[FunctionName](#)

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – MyFunction。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- バージョンまたはエイリアス ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction:PROD。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$_LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: いいえ

[FunctionResponseTypes](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: ReportBatchItemFailures

必須: いいえ

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間(秒)。MaximumBatchingWindowInSeconds は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。MaximumBatchingWindowInSeconds は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値(500 ミリ秒)を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、BatchSize を 10 より大きい値に設定する場合は、MaximumBatchingWindowInSeconds を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 300 です。

必須: いいえ

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は無制限(-1)です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 604,800 です。

必須: いいえ

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値は無制限(-1)です。無制限(-1)に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。

型: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10 です。

必須: いいえ

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「[Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources](#)」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: [ScalingConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

SourceAccessConfigurations

認証プロトコルの配列またはイベントソースの保護に必要な VPC コンポーネント。

タイプ: [SourceAccessConfiguration](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

必須: いいえ

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間(秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 900 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 202
Content-type: application/json

{
  "AmazonManagedKafkaEventSourceConfigConsumerGroupIdBatchSizenumber,
  "BisectBatchOnFunctionErrorboolean,
  "DestinationConfigOnFailureDestinationOnSuccessDestinationDocumentDBEventSourceConfigCollectionNameDatabaseNameFullDocumentEventSourceArnFilterCriteriaFiltersPatternFunctionArnFunctionResponseTypesLastModifiednumber,
  "LastProcessingResultMaximumBatchingWindowInSecondsnumber,
  "MaximumRecordAgeInSecondsnumber,
  "MaximumRetryAttemptsnumber,
}
```

```
"ParallelizationFactor": number,
"Queues": [ "string" ],
"ScalingConfig": {
    "MaximumConcurrency": number
},
"SelfManagedEventSource": {
    "Endpoints": {
        "string": [ "string" ]
    }
},
"SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {
    "ConsumerGroupId": "string"
},
"SourceAccessConfigurations": [
    {
        "Type": "string",
        "URI": "string"
    }
],
"StartingPosition": "string",
"StartingPositionTimestamp": number,
"State": "string",
"StateTransitionReason": "string",
"Topics": [ "string" ],
"TumblingWindowInSeconds": number,
"UUID": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 202 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#)

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: [AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

[BatchSize](#)

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを单一の呼び出しで関数に渡します。

デフォルト値: サービスによって異なります。Amazon SQS の場合、デフォルトは 10 です。他のすべてのサービスでは、デフォルトは 100 です。

関連設定: `BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合

は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

[BisectBatchOnFunctionError](#)

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。デフォルト値は `false` です。

型: ブール

[DestinationConfig](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka イベントソースのみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: [DestinationConfig](#) オブジェクト

[DocumentDBEventSourceConfig](#)

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: [DocumentDBEventSourceConfig](#) オブジェクト

[EventSourceArn](#)

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

[FilterCriteria](#)

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、[Lambda イベントフィルタリング](#)を参照してください。

型: [FilterCriteria](#) オブジェクト

[FunctionArn](#)

Lambda 関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

[FunctionResponseTypes](#)

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: `ReportBatchItemFailures`

[LastModified](#)

イベントソースマッピングが最後に更新された日付、またはその状態が変更された日付 (Unix タイム秒単位)。

型: `Timestamp`

[LastProcessingResult](#)

関数の最後の Lambda 呼び出しの結果。

型: 文字列

[MaximumBatchingWindowInSeconds](#)

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間 (秒)。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。MaximumBatchingWindowInSeconds は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、BatchSize を 10 より大きい値に設定する場合は、MaximumBatchingWindowInSeconds を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 300 です。

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は -1 で、最大経過時間は無限です。値が無限に設定されている場合、Lambda が古いレコードを廃棄することはありません。

 Note

最大レコード保存期間の最小有効値は 60 秒です。60 未満で -1 より大きい値はパラメータの絶対範囲内ですが、指定できません。

型: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 604,800 です。

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値の -1 により、最大再試行回数は無限に設定されます。MaximumRetryAttempts が無限の場合、Lambda はイベントソースでレコードの有効期限が切れるまで、失敗したレコードを再試行します。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 10,000 です。

[ParallelizationFactor](#)

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。デフォルト値は 1 です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10 です。

[Queues](#)

(Amazon MQ) 消費する Amazon MQ プローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: [\s\S]*

[ScalingConfig](#)

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「[Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources](#)」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: [ScalingConfig](#) オブジェクト

[SelfManagedEventSource](#)

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

型: [SelfManagedEventSource](#) オブジェクト

[SelfManagedKafkaEventSourceConfig](#)

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: [SelfManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

[SourceAccessConfigurations](#)

認証プロトコルの配列、VPC コンポーネント、イベントソースを保護して定義する仮想ホスト。

タイプ: [SourceAccessConfiguration](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

StartingPosition

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

StartingPositionTimestamp

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

型: Timestamp

State

イベントソースマッピングの状態。次のうちの 1 つになる可能性があります: Creating、Enabling、Enabled、Disabling、Disabled、Updating、Deleting。

型: 文字列

StateTransitionReason

ユーザーまたは Lambda がイベントソースマッピングを最後に変更したかどうかを示します。

型: 文字列

Topics

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: ^[^.]([a-zA-Z0-9\-_\.]+)+

[TumblingWindowInSeconds](#)

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 900 です。

[UUID](#)

イベントソースマッピングの識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceInUseException

オペレーションがリソースの可用性と競合しています。例えば、CREATING (作成中) 状態のイベントソースマッピングを更新しようとした、または現在 UPDATING (更新中) 状態のイベントソースマッピングを削除しようとした場合などです。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

UpdateFunctionCode

Lambda 関数のコードを更新します。関数でコード署名が有効になっている場合、コードパッケージは信頼できる発行元によって署名されている必要があります。詳細については、「[Lambda でのコード署名の設定](#)」を参照してください。

関数のパッケージタイプが Image の場合は、ImageUri 内コードパッケージを、Amazon ECR レジストリ内[コンテナイメージ](#)の URI として指定する必要があります。

関数のパッケージタイプが Zip の場合は、デプロイパッケージを [.zip ファイルアーカイブ](#) として指定する必要があります。コードの .zip ファイルロケーションの Amazon S3 バケットとキーを入力します。また、ZipFile フィールドを使用してインラインで関数コードを入力することもできます。

デプロイパッケージのコードは、関数 (x86-64 または arm64) のターゲット命令セットアーキテクチャと互換性を持たせる必要があります。

バージョンを公開すると、関数のコードがロックされます。公開バージョンのコードを変更することはできません。未公開バージョンのみです。

 Note

コンテナイメージとして定義された関数の場合、Lambda はイメージタグをイメージダイジェストに転換します。Amazon ECR では、イメージタグを新しいイメージに更新しても、Lambda は関数を自動的に更新しません。

リクエストの構文

```
PUT /2015-03-31/functions/FunctionName/code HTTP/1.1
```

```
Content-type: application/json
```

```
{
  "Architectures": [ "string" ],
  "DryRun": boolean,
  "ImageUri": "string",
  "Publish": boolean,
  "RevisionId": "string",
  "S3Bucket": "string",
  "S3Key": "string",
  "S3ObjectVersion": "string",
  "ZipFile": blob
}
```

}

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}(:)?(\d{12}(:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?)?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Architectures

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。有効な値 (arm64 または x86_64) の 1 つを含む文字列配列を入力します。デフォルト値は x86_64 です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

必須 : いいえ

[DryRun](#)

関数コードを変更せずにリクエストパラメータとアクセス許可を検証するには、true に設定します。

型: ブール値

必須: いいえ

[ImageUri](#)

Amazon ECR レジストリ内のコンテナイメージの URI。.zip ファイルアーカイブで定義された関数には使用しないでください。

型: 文字列

必須: いいえ

[Publish](#)

true に設定すると、コードの更新後に関数の新しいバージョンが公開されます。これは [PublishVersion](#) を個別に呼び出すのと同じ効果があります。

型: ブール値

必須: いいえ

[RevisionId](#)

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、関数を更新します。このオプションを使用して最後に読み取りを行った後に変更した関数を、変更しないようにします。

型: 文字列

必須: いいえ

[S3Bucket](#)

関数と同じ AWS リージョン内にある Amazon S3 バケットです。バケットは、異なる AWS アカウント内に存在する場合があります。.zip ファイルアーカイブのデプロイパッケージで定義された関数でのみ使用します。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 3 です。最大長は 63 です。

パターン: ^[0-9A-Za-z\._\-]*(\?<!\.\.)\$

必須: いいえ

[S3Key](#)

デプロイパッケージの Amazon S3 キーです。.zip ファイルアーカイブのデプロイパッケージで定義された関数でのみ使用します。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

[S3ObjectVersion](#)

バージョニングオブジェクトの場合、使用するデプロイパッケージオブジェクトのバージョンです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

[ZipFile](#)

デプロイパッケージの base64 エンコードコンテンツ。AWSSDK および AWS CLI クライアントがエンコーディングを処理します。.zip ファイルアーカイブのデプロイパッケージで定義された関数でのみ使用します。

型: Base64 でエンコードされたバイナリデータオブジェクト

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "Architectures": [ "string" ],
  "CodeSha256": "string",
  "CodeSize": number,
  "DeadLetterConfig": {
    "TargetArn": "string"
  }
}
```

```
},
"Description": "string",
"Environment": {
    "Error": {
        "ErrorCode": "string",
        "Message": "string"
    },
    "Variables": {
        "string" : "string"
    }
},
"EphemeralStorage": {
    "Size": number
},
"FileSystemConfigs": [
    {
        "Arn": "string",
        "LocalMountPath": "string"
    }
],
"FunctionArn": "string",
"FunctionName": "string",
"Handler": "string",
"ImageConfigResponse": {
    "Error": {
        "ErrorCode": "string",
        "Message": "string"
    },
    "ImageConfig": {
        "Command": [ "string" ],
        "EntryPoint": [ "string" ],
        "WorkingDirectory": "string"
    }
},
"KMSKeyArn": "string",
"LastModified": "string",
"LastUpdateStatus": "string",
"LastUpdateStatusReason": "string",
"LastUpdateStatusReasonCode": "string",
"Layers": [
    {
        "Arn": "string",
        "CodeSize": number,
        "SigningJobArn": "string",
        "Signature": "string"
    }
]
```

```
        "SigningProfileVersionArn": "string"
    }
],
"LoggingConfig": {
    "ApplicationLogLevel": "string",
    "LogFormat": "string",
    "LogGroup": "string",
    "SystemLogLevel": "string"
},
"MasterArn": "string",
"MemorySize": number,
"PackageType": "string",
"RevisionId": "string",
"Role": "string",
"Runtime": "string",
"RuntimeVersionConfig": {
    "Error": {
        "ErrorCode": "string",
        "Message": "string"
    },
    "RuntimeVersionArn": "string"
},
"SigningJobArn": "string",
"SigningProfileVersionArn": "string",
"SnapStart": {
    "ApplyOn": "string",
    "OptimizationStatus": "string"
},
"State": "string",
"StateReason": "string",
"StateReasonCode": "string",
"Timeout": number,
"TracingConfig": {
    "Mode": "string"
},
"Version": "string",
"VpcConfig": {
    "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
    "SecurityGroupIds": [ "string" ],
    "SubnetIds": [ "string" ],
    "VpcId": "string"
}
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[Architectures](#)

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値は x86_64 です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

[CodeSha256](#)

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

[CodeSize](#)

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

型: Long

[DeadLetterConfig](#)

関数のデッドレターキュー

型: [DeadLetterConfig](#) オブジェクト

[Description](#)

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

[Environment](#)

関数の [環境変数](#) AWS CloudTrail ログから除外。

型: [EnvironmentResponse](#) オブジェクト

[EphemeralStorage](#)

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「[エフェメラルストレージの設定 \(コンソール\)](#)」を参照してください。

型: [EphemeralStorage](#) オブジェクト

[FileSystemConfigs](#)

[Amazon EFS ファイルシステム](#) の接続設定

型: [FileSystemConfig](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

[FunctionArn](#)

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[FunctionName](#)

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[Handler](#)

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 128 です。

パターン: [^\s]+

[ImageConfigResponse](#)

関数のイメージ設定値

型: [ImageConfigResponse](#) オブジェクト

[KMSKeyArn](#)

関数の環境変数を暗号化するために使用される AWS KMS key。[Lambda SnapStart](#) を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-zA-Z0-9-.]+:[.]*|())

[LastModified](#)

関数が最後に更新された日付と時刻 ([ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))

型: 文字列

[LastUpdateStatus](#)

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に `Successful` に設定されます。

型: 文字列

有効な値: `Successful` | `Failed` | `InProgress`

[LastUpdateStatusReason](#)

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

[LastUpdateStatusReasonCode](#)

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: `ENILimitExceeded` | `InsufficientRolePermissions` | `InvalidConfiguration` | `InternalServerError` | `SubnetOutOfIPAddresses` | `InvalidSubnet` | `InvalidSecurityGroup` | `ImageDeleted` | `ImageAccessDenied` | `InvalidImage` | `KMSKeyAccessDenied` |

KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError
| EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout |
InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError

[Layers](#)

関数の [レイヤー](#)

タイプ: [Layer](#) オブジェクトの配列

[LoggingConfig](#)

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: [LoggingConfig](#) オブジェクト

[MasterArn](#)

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[MemorySize](#)

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値は 128 です。最大値は 10,240 です。

[PackageType](#)

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは Image に設定し、.zip ファイルアーカイブでは Zip を設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

[RevisionId](#)

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\\-_/]+

Runtime

関数の[ランタイム](#)の識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラー

型: [RuntimeVersionConfig](#) オブジェクト

SignedJobArn

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-\-])+:(a-z){2}(-gov)?-[a-zA-Z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

SignedProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

SnapStart

ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「[Improving startup performance with Lambda SnapStart](#)」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: [SnapStartResponse](#) オブジェクト

State

関数の現在の状態 状態が Inactive の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: Pending | Active | Inactive | Failed

StateReason

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

StateReasonCode

関数の現在の状態の理由コード コードが Creating のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: Idle | Creating | Restoring | EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効範囲: 最小値 は 1

[TracingConfig](#)

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: [TracingConfigResponse](#) オブジェクト

[Version](#)

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\\$LATEST|[0-9]+)

[VpcConfig](#)

関数のネットワーク設定

型: [VpcConfigResponse](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

CodeSigningConfigNotFoundException

指定されたコード署名設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

CodeStorageExceededException

AWS アカウントが、最大合計コードサイズを超過しました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード : 400

CodeVerificationFailedException

コード署名が、署名の不一致または有効期限の検証チェックの 1 つ以上に失敗し、コード署名ポリシーが ENSORCE に設定されています。Lambda はデプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidCodeSignatureException

コード署名が整合性チェックに失敗しました。整合性チェックに失敗すると、Lambda は、コード署名ポリシーが WARN に設定されている場合でも、デプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。GetFunction または GetAlias API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

UpdateFunctionConfiguration

Lambda 関数のバージョン固有の設定を変更します。

関数を更新すると、Lambda はその関数のインスタンスとそのサポートリソースをプロビジョニングします。関数を VPC に接続する際、このプロセスには 1 分かかることがあります。この間、関数を変更することはできませんが、呼び出すことはできます。[GetFunctionConfiguration](#) からのレスポンスの `LastUpdateStatus`、`LastUpdateStatusReason`、`LastUpdateStatusReasonCode` フィールドは、更新が完了し、関数が新しい設定でイベントを処理していることを示します。詳細については、「[Lambda 関数の状態](#)」を参照してください。

これらの設定は、関数のバージョン間で異なる可能性があり、バージョンを公開するとロックされます。公開バージョンの設定を変更することはできません。未公開バージョンのみです。

関数の同時実行を設定するには、[PutFunctionConcurrency](#) を使用します。AWS アカウントまたは AWS のサービスに呼び出し許可を付与するには、[AddPermission](#) を使用します。

リクエストの構文

```
PUT /2015-03-31/functions/FunctionName/configuration HTTP/1.1
```

```
Content-type: application/json
```

```
{
  "DeadLetterConfig": {
    "TargetArn": "string"
  },
  "Description": "string",
  "Environment": {
    "Variables": {
      "string": "string"
    }
  },
  "EphemeralStorage": {
    "Size": number
  },
  "FileSystemConfigs": [
    {
      "Arn": "string",
      "LocalMountPath": "string"
    }
  ],
  "Handler": "string",
```

```
"ImageConfig    "Command    "EntryPoint    "WorkingDirectory},  
"KMSKeyArn"Layers"LoggingConfig    "ApplicationLogLevel    "LogFormat    "LogGroup    "SystemLogLevel},  
"MemorySize"RevisionId"Role"Runtime"SnapStart    "ApplyOn},  
"Timeout"TracingConfig    "Mode},  
"VpcConfig    "Ipv6AllowedForDualStack    "SecurityGroupIds    "SubnetIds}  
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[FunctionName](#)

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。

- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?\d{12}:(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

DeadLetterConfig

処理に失敗したときに Lambda が非同期イベントを送信するキューまたはトピックを指定する、デッドレターキュー設定です。詳細については、「[デッドレターキュー](#)」を参照してください。

型: [DeadLetterConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

Description

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

Environment

実行中に関数コードからアクセス可能な環境変数

型: [Environment](#) オブジェクト

必須: いいえ

[EphemeralStorage](#)

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「[エフェメラルストレージの設定 \(コンソール\)](#)」を参照してください。

型: [EphemeralStorage](#) オブジェクト

必須: いいえ

[FileSystemConfigs](#)

Amazon EFS ファイルシステムの接続設定

型: [FileSystemConfig](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

必須: いいえ

[Handler](#)

関数を実行するために Lambda が呼び出すコード内のメソッドの名前です。デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ハンドラーが必要です。形式にはファイル名を含めます。ランタイムに応じて、名前空間や他の修飾子を含めることもできます。詳細については、「[Lambda プログラミングモデル](#)」を参照してください。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 128 です。

パターン: [^\s]+

必須: いいえ

[ImageConfig](#)

コンテナイメージ Docker ファイル の値を上書きする[コンテナイメージ設定値](#)。

型: [ImageConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

[KMSKeyArn](#)

関数の[環境変数](#)を暗号化するために使用される、AWS Key Management Service (AWS KMS) カスタマーマネージドキーの ARN です。[Lambda SnapStart](#) を有効にすると、Lambda はこ

のキーを関数のスナップショットの暗号化にも使用します。コンテナイメージを使用して関数をデプロイする場合、Lambda はデプロイ時にこのキーを使用して関数を暗号化します。これは、Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR) でコンテナイメージを保護するために使用されるキーと同じキーではないことに注意してください。カスタマーマネージドキーを提供しない場合、Lambda はデフォルトのサービスキーを使用します。

型: 文字列

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-zA-Z0-9-.]+:[.]*))|()

必須: いいえ

[Layers](#)

関数の実行環境に追加する[関数レイヤー](#)のリストです。その ARN ごとに各レイヤーを指定します (バージョンも含めます)。

型: 文字列の配列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-]+:[0-9]+

必須: いいえ

[LoggingConfig](#)

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: [LoggingConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

[MemorySize](#)

ランタイム時に[関数で使用できるメモリ](#)の量です。関数のメモリを増やすと、関数の CPU 割り当ても増えます。デフォルト値は 128 MB です。値には、1 MB の任意の倍数を指定できます。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 128 です。最大値は 10,240 です。

必須: いいえ

RevisionId

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、関数を更新します。このオプションを使用して最後に読み取りを行った後に変更した関数を、変更しないようにします。

型: 文字列

必須: いいえ

Role

関数の実行ロールの Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\\-_/]+

必須: いいえ

Runtime

関数の[ランタイム](#)の識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

必須: いいえ

SnapStart

関数の [SnapStart](#) 設定です。

型: [SnapStart](#) オブジェクト

必須: いいえ

[Timeout](#)

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒)。デフォルト値は 3 秒です。最大許容値は 900 秒です。詳細については、「[Lambda 実行環境](#)」を参照してください。

型: 整数

有効な範囲: 最小値 は 1 です。

必須: いいえ

[TracingConfig](#)

Mode を Active に設定し、[X-Ray](#) で着信リクエストのサブセットをサンプリングおよびトレースします。

型: [TracingConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

[VpcConfig](#)

VPC の AWS リソースへのネットワーク接続の場合は、VPC のセキュリティグループとサブネットのリストを指定します。関数を VPC に接続すると、関数はその VPC 経由でしかリソースとインターネットにアクセスできません。詳細については、「[VPC 内のリソースにアクセスするよう Lambda 関数を設定する](#)」を参照してください。

型: [VpcConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
  "Architectures": [ "string" ],
  "CodeSha256": "string",
  "CodeSize": number,
  "DeadLetterConfig": {
    "TargetArn": "string"
  },
  "Description": "string",
```

```
"EnvironmentErrorErrorCodeMessageVariablesEphemeralStorageSizeFileSystemConfigsArnLocalMountPathFunctionArnFunctionNameHandlerImageConfigResponseErrorErrorCodeMessageImageConfigCommandEntryPointWorkingDirectoryKMSKeyArnLastModifiedLastUpdateStatusLastUpdateStatusReasonLastUpdateStatusReasonCodeLayersArnCodeSizeSigningJobArnSigningProfileVersionArn
```

```
],
  "LoggingConfig": {
    "ApplicationLogLevel": "string",
    "LogFormat": "string",
    "LogGroup": "string",
    "SystemLogLevel": "string"
  },
  "MasterArn": "string",
  "MemorySize": number,
  "PackageType": "string",
  "RevisionId": "string",
  "Role": "string",
  "Runtime": "string",
  "RuntimeVersionConfig": {
    "Error": {
      "ErrorCode": "string",
      "Message": "string"
    },
    "RuntimeVersionArn": "string"
  },
  "SigningJobArn": "string",
  "SigningProfileVersionArn": "string",
  "SnapStart": {
    "ApplyOn": "string",
    "OptimizationStatus": "string"
  },
  "State": "string",
  "StateReason": "string",
  "StateReasonCode": "string",
  "Timeout": number,
  "TracingConfig": {
    "Mode": "string"
  },
  "Version": "string",
  "VpcConfig": {
    "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
    "SecurityGroupIds": [ "string" ],
    "SubnetIds": [ "string" ],
    "VpcId": "string"
  }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[Architectures](#)

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値は x86_64 です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

[CodeSha256](#)

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

[CodeSize](#)

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

型: Long

[DeadLetterConfig](#)

関数のデッドレターキュー

型: [DeadLetterConfig](#) オブジェクト

[Description](#)

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

[Environment](#)

関数の [環境変数](#) AWS CloudTrail ログから除外。

型: [EnvironmentResponse](#) オブジェクト

[EphemeralStorage](#)

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「[エフェメラルストレージの設定 \(コンソール\)](#)」を参照してください。

型: [EphemeralStorage](#) オブジェクト

[FileSystemConfigs](#)

[Amazon EFS ファイルシステム](#) の接続設定

型: [FileSystemConfig](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

[FunctionArn](#)

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[FunctionName](#)

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[Handler](#)

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 128 です。

パターン: [^\s]+

[ImageConfigResponse](#)

関数のイメージ設定値

型: [ImageConfigResponse](#) オブジェクト

[KMSKeyArn](#)

関数の環境変数を暗号化するために使用される AWS KMS key。[Lambda SnapStart](#) を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-zA-Z0-9-.]+:[.]*|()

[LastModified](#)

関数が最後に更新された日付と時刻 ([ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))

型: 文字列

[LastUpdateStatus](#)

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に `Successful` に設定されます。

型: 文字列

有効な値: `Successful` | `Failed` | `InProgress`

[LastUpdateStatusReason](#)

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

[LastUpdateStatusReasonCode](#)

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: `ENILimitExceeded` | `InsufficientRolePermissions` | `InvalidConfiguration` | `InternalError` | `SubnetOutOfIPAddresses` | `InvalidSubnet` | `InvalidSecurityGroup` | `ImageDeleted` | `ImageAccessDenied` | `InvalidImage` | `KMSKeyAccessDenied` |

KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError
| EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout |
InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError

Layers

関数の [レイヤー](#)

タイプ: [Layer](#) オブジェクトの配列

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: [LoggingConfig](#) オブジェクト

MasterArn

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値は 128 です。最大値は 10,240 です。

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは Image に設定し、.zip ファイルアーカイブでは Zip を設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

RevisionId

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\\-_/]+

Runtime

関数の[ランタイム](#)の識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラー

型: [RuntimeVersionConfig](#) オブジェクト

SignedJobArn

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-\-])+:(a-z){2}(-gov)?-[a-zA-Z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

SignedProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

SnapStart

ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「[Improving startup performance with Lambda SnapStart](#)」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: [SnapStartResponse](#) オブジェクト

State

関数の現在の状態 状態が Inactive の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: Pending | Active | Inactive | Failed

StateReason

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

StateReasonCode

関数の現在の状態の理由コード コードが Creating のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: Idle | Creating | Restoring | EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効範囲: 最小値 は 1

TracingConfig

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: [TracingConfigResponse](#) オブジェクト

Version

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\\$LATEST|[0-9]+)

VpcConfig

関数のネットワーク設定

型: [VpcConfigResponse](#) オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

CodeSigningConfigNotFoundException

指定されたコード署名設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

CodeVerificationFailedException

コード署名が、署名の不一致または有効期限の検証チェックの 1 つ以上に失敗し、コード署名ポリシーが ENSORCE に設定されています。Lambda はデプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidCodeSignatureException

コード署名が整合性チェックに失敗しました。整合性チェックに失敗すると、Lambda は、コード署名ポリシーが WARN に設定されている場合でも、デプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。GetFunction または GetAlias API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・「[AWS SDK for C++](#)」
- ・「[AWS SDK for Go](#)」
- ・「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・[AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・「[AWS SDK for Python](#)」
- ・[AWS SDK for Ruby V3](#)

UpdateFunctionEventInvokeConfig

関数、バージョン、エイリアスの非同期呼び出しの設定を更新します。

非同期呼び出しのオプションを設定するには、[PutFunctionEventInvokeConfig](#) を使用します。

リクエストの構文

```
POST /2019-09-25/functions/FunctionName/event-invoke-config?Qualifier=Qualifier
HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "DestinationConfig": {
    "OnFailureDestination": "string"
    },
    "OnSuccess": {
      "Destination": "string"
    }
  },
  "MaximumEventAgeInSeconds": number,
  "MaximumRetryAttempts": number
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

[FunctionName](#)

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 - `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN - `123456789012:function:my-function`

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (|[a-zA-Z0-9\$-_]+)

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

DestinationConfig

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。
- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

タイプ: [DestinationConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

MaximumEventAgeInSeconds

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 60 です。最大値は 21,600 です。

必須: いいえ

MaximumRetryAttempts

関数がエラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 2 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json
```

```
{
  "DestinationConfig": {
    "OnFailureDestination": "string"
    },
    "OnSuccess": {
      "Destination": "string"
    }
  },
  "FunctionArn": "string",
  "LastModified": number,
  "MaximumEventAgeInSeconds": number,
  "MaximumRetryAttempts": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

DestinationConfig

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

型: [DestinationConfig](#) オブジェクト

[FunctionArn](#)

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:($LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

[LastModified](#)

設定が最後に更新された日時 (UNIX タイム秒単位)。

型: `Timestamp`

[MaximumEventAgeInSeconds](#)

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 60 です。最大値は 21,600 です。

[MaximumRetryAttempts](#)

関数がエラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 2 です。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

[InvalidParameterValueException](#)

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

UpdateFunctionUrlConfig

Lambda 関数 URL の設定を更新します。

リクエストの構文

```
PUT /2021-10-31/functions/FunctionName/url?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
  "AuthType": "string",
  "Cors": {
    "AllowCredentials": boolean,
    "AllowHeaders": [ "string" ],
    "AllowMethods": [ "string" ],
    "AllowOrigins": [ "string" ],
    "ExposeHeaders": [ "string" ],
    "MaxAge": number
  },
  "InvokeMode": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – my-function。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?:(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Qualifier

エイリアス名。

長さの制限 : 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (^\$\\$LATEST\$)|((?!^[\d-]+\$)([a-zA-Z0-9-_]+))

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

AuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、AWS_IAM に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に NONE を設定します。詳細については、「[Security and auth model for Lambda function URLs](#)」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: NONE | AWS_IAM

必須 : いいえ

Cors

関数 URL のための、[Cross-Origin Resource Sharing \(CORS\)](#) 設定。

型: [Cors](#) オブジェクト

必須: いいえ

InvokeMode

以下のいずれかのオプションを使用します。

- BUFFERED – これはデフォルトのオプションです。Lambda は Invoke API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。

- **RESPONSE_STREAM** — 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は `InvokeWithResponseStream` API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、「[クォータ引き上げをリクエスト](#)」できます。

型: 文字列

有効な値: BUFFERED | RESPONSE_STREAM

必須 : いいえ

レスポンスの構文

HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

```
{  
  "AuthType": "string",  
  "Cors": {  
    "AllowCredentials": boolean,  
    "AllowHeaders": [ "string" ],  
    "AllowMethods": [ "string" ],  
    "AllowOrigins": [ "string" ],  
    "ExposeHeaders": [ "string" ],  
    "MaxAge": number  
  },  
  "CreationTime": "string",  
  "FunctionArn": "string",  
  "FunctionUrl": "string",  
  "InvokeMode": "string",  
  "LastModifiedTime": "string"  
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

[AuthType](#)

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、AWS_IAM に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に NONE を設定します。詳細については、「[Security and auth model for Lambda function URLs](#)」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: NONE | AWS_IAM

[Cors](#)

関数 URL のための、[Cross-Origin Resource Sharing \(CORS\)](#) 設定。

型: [Cors](#) オブジェクト

[CreationTime](#)

[ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示す関数 URL の作成時刻。

型: 文字列

[FunctionArn](#)

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

[FunctionUrl](#)

関数の HTTP URL エンドポイント。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 40 です。最大長は 100 です。

[InvokeMode](#)

以下のいずれかのオプションを使用します。

- BUFFERED – これはデフォルトのオプションです。Lambda は Invoke API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。

- **RESPONSE_STREAM** — 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は `InvokeWithResponseStream` API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、「[クォータ引き上げをリクエスト](#)」できます。

型: 文字列

有効な値: `BUFFERED` | `RESPONSE_STREAM`

LastModifiedTime

ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示された関数の最後更新日時。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

InvalidOperationException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えるました。詳細については、「[Lambda クォータ](#)」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- ・ 「[AWS コマンドラインインターフェイス](#)」
- ・ 「[AWS SDK for .NET](#)」
- ・ 「[AWS SDK for C++](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Go](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Java V2](#)」
- ・ [AWS SDK for JavaScript V3](#)
- ・ 「[AWS SDK for PHP V3](#)」
- ・ 「[AWS SDK for Python](#)」
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

データ型

AWS Lambda API には、さまざまなアクションに使用される複数のデータ型が含まれています。このセクションでは、各データ型について詳しく説明します。

Note

データ型構造内の各要素の順序は保証されません。アプリケーションは特定の順序を想定するべきではありません。

以下のデータ型 (タイプ) がサポートされています。

- [AccountLimit](#)
- [AccountUsage](#)
- [AliasConfiguration](#)
- [AliasRoutingConfiguration](#)
- [AllowedPublishers](#)
- [AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#)
- [CodeSigningConfig](#)
- [CodeSigningPolicies](#)
- [Concurrency](#)
- [Cors](#)
- [DeadLetterConfig](#)
- [DestinationConfig](#)
- [DocumentDBEventSourceConfig](#)
- [Environment](#)
- [EnvironmentError](#)
- [EnvironmentResponse](#)
- [EphemeralStorage](#)
- [EventSourceMappingConfiguration](#)
- [FileSystemConfig](#)
- [Filter](#)

- [FilterCriteria](#)
- [FunctionCode](#)
- [FunctionCodeLocation](#)
- [FunctionConfiguration](#)
- [FunctionEventInvokeConfig](#)
- [FunctionUrlConfig](#)
- [ImageConfig](#)
- [ImageConfigError](#)
- [ImageConfigResponse](#)
- [InvokeResponseStreamUpdate](#)
- [InvokeWithResponseStreamCompleteEvent](#)
- [InvokeWithResponseStreamResponseEvent](#)
- [Layer](#)
- [LayersListItem](#)
- [LayerVersionContentInput](#)
- [LayerVersionContentOutput](#)
- [LayerVersionsListItem](#)
- [LoggingConfig](#)
- [OnFailure](#)
- [OnSuccess](#)
- [ProvisionedConcurrencyConfigListItem](#)
- [RuntimeVersionConfig](#)
- [RuntimeVersionError](#)
- [ScalingConfig](#)
- [SelfManagedEventSource](#)
- [SelfManagedKafkaEventSourceConfig](#)
- [SnapStart](#)
- [SnapStartResponse](#)
- [SourceAccessConfiguration](#)
- [TracingConfig](#)

- [TracingConfigResponse](#)
- [VpcConfig](#)
- [VpcConfigResponse](#)

AccountLimit

同時実行性とストレージに関する制限。すべてのファイルとストレージのサイズはバイト単位です。

目次

CodeSizeUnzipped

関数のデプロイパッケージとレイヤーが抽出されるときの最大サイズ。

Type: Long

必須: いいえ

CodeSizeZipped

Lambda に直接アップロードされるときのデプロイパッケージの最大サイズ。サイズの大きいファイルには Amazon S3 を使用します。

Type: Long

必須: いいえ

ConcurrentExecutions

関数用に予約する最大同時実行数。

タイプ[†]: 整数

必須: いいえ

TotalCodeSize

すべてのデプロイパッケージとレイヤーアーカイブに使用できるストレージ領域の容量。

Type: Long

必須: いいえ

UnreservedConcurrentExecutions

関数の同時実行の最大数から、[PutFunctionConcurrency](#) による個別関数用に予約された容量を差し引きます。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。

必須 : いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

AccountUsage

関数の数と使用中のストレージ量。

目次

FunctionCount

Lambda 関数の数。

Type: Long

必須: いいえ

TotalCodeSize

デプロイパッケージとレイヤーアーカイブで使用されているストレージ領域の量 (バイト単位)。

Type: Long

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- [「AWS SDK for Go」](#)
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

AliasConfiguration

Lambda 関数のエイリアスに関する設定情報を提供します。

目次

AliasArn

エイリアスの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: いいえ

Description

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

FunctionVersion

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$\$LATEST|[0-9]+)`

必須: いいえ

Name

エイリアスの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(?!^[\0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+)`

必須: いいえ

RevisionId

エイリアスを更新するときに変更される一意の識別子。

型: 文字列

必須: いいえ

RoutingConfig

エイリアスのルーティング設定。

タイプ: [AliasRoutingConfiguration](#) オブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

AliasRoutingConfiguration

Lambda 関数エイリアスの [トラフィック移行](#) の設定

目次

AdditionalVersionWeights

2 番目のバージョンと、これにルーティングされたトラフィックの割合。

タイプ: ダブルマップへの文字列。

キーの長さ制限: 最小長は 1 です。最大長は 1024 です。

キーパターン: [0-9]+

値の範囲: 最小値は 0.0 です。最大値は 1.0 です。

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

AllowedPublishers

コードパッケージに署名できる署名プロファイルのリスト。

目次

`SigningProfileVersionArns`

各署名プロファイルの Amazon リソースネーム (ARN)。署名プロファイルは、コードパッケージに署名できる信頼できるユーザーを定義します。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 1 項目です。最大数は 20 項目です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-zA-Z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

必須 : はい

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

AmazonManagedKafkaEventSourceConfig

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

目次

ConsumerGroupId

参加する Kafka コンシューマーグループの識別子。コンシューマーグループ ID は、すべての Kafka イベントソースの中で一意でなければなりません。コンシューマーグループ ID を指定して Kafka イベントソースマッピングを作成した後は、この値を更新することはできません。詳細については、[カスタマイズ可能なコンシューマーグループ ID](#)を参照してください。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 200 です。

パターン: [a-zA-Z0-9-\\/*:_+=.\\@-]*

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

CodeSigningConfig

[コード署名設定](#)の詳細。

目次

AllowedPublishers

許可されたパブリッシャーのリスト。

タイプ: [AllowedPublishers](#) オブジェクト

必須: はい

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?- [a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-zA-Z0-9]{17}

必須: はい

CodeSigningConfigId

コード署名設定の一意の識別子。

型: 文字列

Pattern: csc-[a-zA-Z0-9-_\.]{17}

必須: はい

CodeSigningPolicies

コード署名ポリシーは、署名の不一致または有効期限の検証失敗アクションを制御します。

タイプ: [CodeSigningPolicies](#) オブジェクト

必須: はい

LastModified

コード署名設定が最後に変更された日時 (ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))。

型: 文字列

必須: はい

Description

コード署名設定の説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須 : いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

CodeSigningPolicies

コード署名設定ポリシーは、署名の不一致または有効期限の、検証の失敗アクションを指定します。

目次

UntrustedArtifactOnDeployment

デプロイ検証の失敗のためのコード署名構成ポリシー。ポリシーを `Enforce` に設定した場合、署名の検証チェックが失敗すると、Lambda はデプロイリクエストをブロックします。ポリシーを `Warn` に設定した場合、Lambda はデプロイを許可し、CloudWatch ログを作成します。

デフォルト値: `Warn`

型: 文字列

有効な値: `Warn` | `Enforce`

必須 : いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

Concurrency

目次

ReservedConcurrentExecutions

この関数用に予約済同時実行数。詳細については、「[Lambda 予約済み同時実行数の管理](#)」を参照してください。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

Cors

Lambda 関数 URL のための [Cross-Origin Resource Sharing \(CORS\)](#) 設定。関数 URL に任意のオリジンからアクセスするための権限は、CORS を使用することで付与できます。また、CORS を使用して、関数 URL へのリクエストに含まれている、特定の HTTP ヘッダーやメソッドのアクセス権限を制御することもできます。

目次

AllowCredentials

関数 URL へのリクエスト内で、Cookie やその他の認証情報を許可するかどうかを指定します。デフォルトは `false` です。

型: ブール

必須: いいえ

AllowHeaders

オリジンが関数 URL へのリクエスト内に含めることができる HTTP ヘッダー。例えば、`Date`、`Keep-Alive`、`X-Custom-Header` などが挙げられます。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 100 項目です。

長さの制限: 最大長は 1,024 です。

パターン: `.*`

必須: いいえ

AllowMethods

関数 URL の呼び出し時に許可される HTTP メソッド。例として、`GET`、`POST`、`DELETE`、およびワイルドカード文字 (*) が挙げられます。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 6 項目です。

長さの制限: 最大長は 6 です。

パターン: .*

必須: いいえ

AllowOrigins

関数 URL にアクセスできるオリジン。任意の数の特定のオリジンを、カンマで区切ってリストできます。例: `https://www.example.com`、`http://localhost:60905`。

または、ワイルドカード文字 (*) を使用して、すべてのオリジンにアクセス権を付与することもできます。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 100 項目です。

長さの制限 : 最小長は 1 です。最大長は 253 です。

パターン: .*

必須: いいえ

ExposeHeaders

関数 URL を呼び出しているオリジンに公開する、関数レスポンス内の HTTP ヘッダー。例えば、`Date`、`Keep-Alive`、`X-Custom-Header` などが挙げられます。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 100 項目です。

長さの制限 : 最大長は 1,024 です。

パターン: .*

必須: いいえ

MaxAge

ウェブブラウザがプリフライトリクエストの結果をキャッシュできる最大時間 (秒単位)。この値はデフォルトで 0 に設定されており、ブラウザによる結果のキャッシュは行われません。

型: 整数

有効な範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 86400 です。

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

DeadLetterConfig

失敗した非同期呼び出しのデッドレターキュー。

目次

TargetArn

Amazon SQS キューまたは Amazon SNS トピックの Amazon リソースネーム (ARN) です。

型: 文字列

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*):[a-zA-Z0-9-.]+:[.]*))|()

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- [「AWS SDK for Go」](#)
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

DestinationConfig

Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する構成オブジェクト。

目次

OnFailure

失敗した呼び出しの送信先設定。

タイプ: [OnFailure](#) オブジェクト

必須: いいえ

OnSuccess

成功した呼び出しの送信先設定。

タイプ: [OnSuccess](#) オブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

DocumentDBEventSourceConfig

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

目次

CollectionName

データベース内で使用するコレクションの名前。コレクションを指定しない場合、Lambda はすべてのコレクションを使用します。

型: 文字列

長さの制限 : 最小長は 1 です。最大長は 57 です。

パターン: `(^(?!system\x2e))(^[_a-zA-Z0-9])([^$]*)`

必須: いいえ

DatabaseName

DocumentDB クラスター内で使用するデータベースの名前。

型: 文字列

長さの制限 : 最小長は 1 です。最大長は 63 です。

パターン: `[^ /\$.\\x22]*`

必須: いいえ

FullDocument

ドキュメントの更新オペレーション中に DocumentDB がイベントストリームに送信する内容を決定します。UpdateLookup に設定すると、DocumentDB は、ドキュメント全体のコピーとともに、変更について記述するデルタを送信します。それ以外の場合、DocumentDB は、変更を含む部分的なドキュメントのみを送信します。

型: 文字列

有効な値: `UpdateLookup` | `Default`

必須 : いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

Environment

関数の環境変数を設定。環境変数を使用すると、コードを更新せずに関数の動作を調整できます。環境変数は、関数のバージョン固有の構成に保存される文字列のペアです。

目次

Variables

各環境変数はキーと値のペア。詳細については、[Using Lambda environment variables](#) をご参照ください。

型: 文字列から文字列へのマッピング

キーパターン: [a-zA-Z]([a-zA-Z0-9_])+

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

EnvironmentError

適用できなかった環境変数のエラーメッセージ。

目次

ErrorCode

エラーコードです。

型: 文字列

必須: いいえ

Message

エラーメッセージです。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- [「AWS SDK for Go」](#)
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

EnvironmentResponse

環境変数を更新または読み取る操作の結果です。操作が正常に実行された場合は、レスポンスに環境変数が含まれています。失敗した場合は、レスポンスにエラーに関する詳細情報が含まれています。

目次

Error

適用できなかった環境変数のエラーメッセージ。

タイプ: [EnvironmentError](#) オブジェクト

必須: いいえ

Variables

環境変数のキーバリューペア。AWS CloudTrail ログから除外。

型: 文字列から文字列へのマッピング

キーパターン: [a-zA-Z]([a-zA-Z0-9_])+

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「[エフェメラルストレージの設定 \(コンソール\)](#)」を参照してください。

目次

Size

関数の /tmp ディレクトリのサイズです。

型: 整数

有効範囲: 最小値は 512 です。最大値は 10,240 です。

必須: はい

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

EventSourceMappingConfiguration

AWSリソースと Lambda 関数間のマッピング。詳細については、「[CreateEventSourceMapping](#)」を参照してください。

目次

AmazonManagedKafkaEventSourceConfig

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: [AmazonManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

BatchSize

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを单一の呼び出しで関数に渡します。

デフォルト値: サービスによって異なります。Amazon SQS の場合、デフォルトは 10 です。他のすべてのサービスでは、デフォルトは 100 です。

関連設定: BatchSize を 10 より大きい値に設定する場合

は、MaximumBatchingWindowInSeconds を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

BisectBatchOnFunctionError

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。デフォルト値は `false` です。

タイプ: ブール値

必須: いいえ

DestinationConfig

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka イベントソースのみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: [DestinationConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

DocumentDBEventSourceConfig

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: [DocumentDBEventSourceConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

EventSourceArn

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN) です。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:(a-z{2}(-gov)?-[a-zA-Z]+\d{1}):\d{12}:(.*.)`

必須: いいえ

FilterCriteria

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、[Lambda イベントフィルタリング](#)を参照してください。

型: [FilterCriteria](#) オブジェクト

必須: いいえ

FunctionArn

Lambda 関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-zA-Z]{2}(-gov)?-[a-zA-Z]+\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: いいえ

FunctionResponseTypes

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: ReportBatchItemFailures

必須: いいえ

LastModified

イベントソースマッピングが最後に更新された日付、またはその状態が変更された日付 (Unix タイム秒単位)。

タイプ: タイムスタンプ

必須: いいえ

LastProcessingResult

関数の最後の Lambda 呼び出しの結果。

型: 文字列

必須: いいえ

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間 (秒)。MaximumBatchingWindowInSeconds は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。MaximumBatchingWindowInSeconds は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームとAmazon SQS イベントソースの場合、BatchSize を 10 より大きい値に設定する場合は、MaximumBatchingWindowInSeconds を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 300 です。

必須: いいえ

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は -1 で、最大経過時間は無限です。値が無限に設定されている場合、Lambda が古いレコードを廃棄することはありません。

 Note

最大レコード保存期間の最小有効値は 60 秒です。60 未満で -1 より大きい値はパラメータの絶対範囲内ですが、指定できません。

型: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 604,800 です。

必須: いいえ

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値の -1 により、最大再試行回数は無限に設定されます。MaximumRetryAttempts が無限の場合、Lambda はイベントソースでレコードの有効期限が切れるまで、失敗したレコードを再試行します。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は -1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。デフォルト値は 1 です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 1 です。最大値は 10 です。

必須: いいえ

Queues

(Amazon MQ) 消費する Amazon MQ プローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: `[\s\S]*`

必須: いいえ

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「[Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources](#)」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: [ScalingConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

SelfManagedEventSource

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

タイプ: [SelfManagedEventSource](#) オブジェクト

必須: いいえ

SelfManagedKafkaEventSourceConfig

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: [SelfManagedKafkaEventSourceConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

SourceAccessConfigurations

認証プロトコルの配列、VPC コンポーネント、イベントソースを保護して定義する仮想ホスト。

タイプ: [SourceAccessConfiguration](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

必須: いいえ

StartingPosition

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

必須: いいえ

StartingPositionTimestamp

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

タイプ: タイムスタンプ

必須: いいえ

State

イベントソースマッピングの状態。次のうちの 1 つになる可能性があります:

Creating、Enabling、Enabled、Disabling、Disabled、Updating、Deleting。

型: 文字列

必須: いいえ

StateTransitionReason

ユーザーまたは Lambda がイベントソースマッピングを最後に変更したかどうかを示します。

型: 文字列

必須: いいえ

Topics

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: `^[^.][a-zA-Z0-9\-.]+`

必須: いいえ

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 900 です。

必須: いいえ

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)

- ・ [「AWS SDK for Go」](#)
- ・ [AWS SDK for Java V2](#)
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

FileSystemConfig

Lambda 関数と [Amazon EFS ファイルシステム](#) 間の接続に関する詳細。

目次

Arn

ファイルシステムへのアクセスを提供する Amazon EFS アクセスポイントの Amazon リソース ネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:aws[a-zA-Z-]*:elasticfilesystem:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-+[a-z]+-\d{1}:\d{12}:access-point/fsap-[a-f0-9]{17}`

必須: はい

LocalMountPath

関数がファイルシステムにアクセスできる `/mnt/` で始まるパス。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 160 です。

パターン: `^/mnt/[a-zA-Z0-9-_\.]+\d`

必須: はい

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

Filter

イベントフィルタリングパターンを定義する `FilterCriteria` オブジェクト内の構造です。

目次

Pattern

フィルターパターンです。フィルターパターンの構文に関する詳細については、「[フィルタールール構文](#)」を参照してください。

タイプ: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 4096 です。

パターン: `.*`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

FilterCriteria

イベントソース用のフィルターが含まれるオブジェクトです。

内容

Filters

フィルターのリストです。

タイプ: [Filter](#) オブジェクトの配列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- [AWS SDK for Go](#)
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

FunctionCode

Lambda 関数のコード。Amazon S3 内のオブジェクトを指定する、.zip ファイルアーカイブデプロイパッケージを直接アップロードする、またはコンテナイマーの URI を指定することができます。

目次

ImageUri

Amazon ECR レジストリ内のコンテナイマーの URI。

型: 文字列

必須: いいえ

S3Bucket

関数と同じ AWS リージョン内にある Amazon S3 バケットです。バケットは、異なる AWS アカウント内に存在する場合があります。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 3 です。最大長は 63 です。

パターン: ^[0-9A-Za-z\.\-_]*\.(?<!\.)\$

必須: いいえ

S3Key

デプロイパッケージの Amazon S3 キーです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

S3ObjectVersion

バージョニングオブジェクトの場合、使用するデプロイパッケージオブジェクトのバージョンです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

ZipFile

デプロイパッケージの base64 エンコードコンテンツ。AWSSDK および AWS CLI クライアントがエンコーディングを処理します。

型: Base64 でエンコードされたバイナリデータオブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

FunctionCodeLocation

関数のデプロイパッケージに関する詳細。

目次

ImageUri

Amazon ECR レジストリ内のコンテナイマークの URI。

型: 文字列

必須: いいえ

Location

デプロイパッケージをダウンロードするために使用できる署名付き URL。

型: 文字列

必須: いいえ

RepositoryType

ファイルをホストしているサービス。

型: 文字列

必須: いいえ

ResolvedImageUri

イメージの解決された URL。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)

- ・ [「AWS SDK for Go」](#)
- ・ [AWS SDK for Java V2](#)
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

FunctionConfiguration

関数の設定に関する詳細。

目次

Architectures

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値は x86_64 です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

必須: いいえ

CodeSha256

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

必須: いいえ

CodeSize

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

Type: Long

必須: いいえ

DeadLetterConfig

関数のデッドレターキュー

型: [DeadLetterConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

Description

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

Environment

関数の [環境変数](#) AWS CloudTrail ログから除外。

型: [EnvironmentResponse](#) オブジェクト

必須: いいえ

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「[エフェメラルストレージの設定 \(コンソール\)](#)」を参照してください。

型: [EphemeralStorage](#) オブジェクト

必須: いいえ

FileSystemConfigs

[Amazon EFS ファイルシステム](#) の接続設定

型: [FileSystemConfig](#) オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

必須: いいえ

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: いいえ

FunctionName

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\\$\LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: いいえ

Handler

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限 : 最大長は 128 です。

パターン: [^\s]+

必須: いいえ

ImageConfigResponse

関数のイメージ設定値

型: [ImageConfigResponse](#) オブジェクト

必須: いいえ

KMSKeyArn

関数の環境変数を暗号化するために使用される AWS KMS key。[Lambda SnapStart](#) を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-zA-Z0-9-_\.]+\.:*)|()

必須: いいえ

LastModified

関数が最後に更新された日付と時刻 ([ISO-8601 形式 \(YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD\)](#))

型: 文字列

必須: いいえ

LastUpdateStatus

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に `Successful` に設定されます。

型: 文字列

有効な値: `Successful` | `Failed` | `InProgress`

必須: いいえ

LastUpdateStatusReason

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

必須: いいえ

LastUpdateStatusReasonCode

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: `EniLimitExceeded` | `InsufficientRolePermissions` | `InvalidConfiguration` | `InternalError` | `SubnetOutofIPAddresses` | `InvalidSubnet` | `InvalidSecurityGroup` | `ImageDeleted` | `ImageAccessDenied` | `InvalidImage` | `KMSKeyAccessDenied` | `KMSKeyNotFound` | `InvalidStateKMSKey` | `DisabledKMSKey` | `EFSIOError` | `EFSMountConnectivityError` | `EFSMountFailure` | `EFSMountTimeout` | `InvalidRuntime` | `InvalidZipFileException` | `FunctionError`

必須: いいえ

Layers

関数の[レイヤー](#)

型: [Layer](#) オブジェクトの配列

必須: いいえ

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: [LoggingConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

MasterArn

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: いいえ

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値は 128 です。最大値は 10,240 です。

必須: いいえ

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは Image に設定し、.zip ファイルアーカイブでは Zip を設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

必須: いいえ

RevisionId

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

必須: いいえ

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\\-/_]+

必須: いいえ

Runtime

関数の[ランタイム](#)の識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

必須: いいえ

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラーです。

型: [RuntimeVersionConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

SignedJobArn

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:(a-z){2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

必須: いいえ

SigningProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:(a-z){2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

必須: いいえ

SnapStart

ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「[Improving startup performance with Lambda SnapStart](#)」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: [SnapStartResponse](#) オブジェクト

必須: いいえ

State

関数の現在の状態 状態が Inactive の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: Pending | Active | Inactive | Failed

必須: いいえ

StateReason

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

必須: いいえ

StateReasonCode

関数の現在の状態の理由コード コードが `Creating` のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: `Idle` | `Creating` | `Restoring` | `EniLimitExceeded` | `InsufficientRolePermissions` | `InvalidConfiguration` | `InternalError` | `SubnetOutOfRange` | `InvalidSubnet` | `InvalidSecurityGroup` | `ImageDeleted` | `ImageAccessDenied` | `InvalidImage` | `KMSKeyAccessDenied` | `KMSKeyNotFound` | `InvalidStateKMSKey` | `DisabledKMSKey` | `EFSIOError` | `EFSMountConnectivityError` | `EFSMountFailure` | `EFSMountTimeout` | `InvalidRuntime` | `InvalidZipFileException` | `FunctionError`

必須: いいえ

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効な範囲: 最小値は 1 です。

必須: いいえ

TracingConfig

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: [TracingConfigResponse](#) オブジェクト

必須: いいえ

Version

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

必須: いいえ

VpcConfig

関数のネットワーク設定

型: [VpcConfigResponse](#) オブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

FunctionEventInvokeConfig

目次

DestinationConfig

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。
- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

タイプ: [DestinationConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: いいえ

LastModified

設定が最後に更新された日時 (UNIX タイム秒単位)。

タイプ: タイムスタンプ

必須: いいえ

MaximumEventAgeInSeconds

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 60 です。最大値は 21,600 です。

必須: いいえ

MaximumRetryAttempts

関数がエラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値は 0 です。最大値は 2 です。

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- [「AWS SDK for Go」](#)
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

FunctionUrlConfig

Lambda の関数 URL についての詳細。

目次

AuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、AWS_IAM に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に NONE を設定します。詳細については、「[Security and auth model for Lambda function URLs](#)」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: NONE | AWS_IAM

必須: はい

CreationTime

[ISO-8601 形式](#) (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示す関数 URL の作成時刻。

型: 文字列

必須: はい

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

Pattern: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\\$\\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

FunctionUrl

関数の HTTP URL エンドポイント。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 40 です。最大長は 100 です。

必須: はい

LastModifiedTime

ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示された関数の最後更新日時。

型: 文字列

必須: はい

Cors

関数 URL のための、Cross-Origin Resource Sharing (CORS) 設定。

型: Cors オブジェクト

必須: いいえ

InvokeMode

以下のいずれかのオプションを使用します。

- BUFFERED – これはデフォルトのオプションです。Lambda は Invoke API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。
- RESPONSE_STREAM — 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は InvokeWithResponseStream API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、「クォータ引き上げをリクエスト」できます。

型: 文字列

有効な値: BUFFERED | RESPONSE_STREAM

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++

- ・ [「AWS SDK for Go」](#)
- ・ [AWS SDK for Java V2](#)
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

ImageConfig

コンテナイマージ Dockerfile の設定を上書きする設定値。詳細については、「[コンテナイマージの設定](#)」を参照してください。

目次

Command

ENTRYPOINT とともに渡すパラメータを指定します。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 1,500 項目です。

必須: いいえ

EntryPoint

アプリケーションへのエントリポイントを指定します。通常、これはランタイム実行可能ファイルの場所です。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 1,500 項目です。

必須: いいえ

WorkingDirectory

作業ディレクトリを指定します。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 1,000 です。

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

ImageConfigError

`GetFunctionConfiguration` に対するエラーレスポンスです。

目次

ErrorCode

エラーコード。

型: 文字列

必須: いいえ

Message

エラーメッセージ。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

ImageConfigResponse

GetFunctionConfiguration リクエストに対するレスポンスです。

目次

Error

GetFunctionConfiguration に対するエラーレスポンスです。

型: [ImageConfigError](#) オブジェクト

必須: いいえ

ImageConfig

コンテナイメージ Dockerfile を上書きする設定値。

タイプ: [ImageConfig](#) オブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

InvokeResponseStreamUpdate

ストリーミングされたレスポンスペイロードのチャンク。

目次

Payload

Lambda 関数によって返されたデータ。

型: Base64 でエンコードされたバイナリデータオブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- [「AWS SDK for Go」](#)
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

InvokeWithResponseStreamCompleteEvent

イベントストリームが完了したことを確認するレスポンス。

目次

ErrorCode

エラーコード。

型: 文字列

必須: いいえ

ErrorDetails

返されたエラーの詳細。

型: 文字列

必須: いいえ

LogResult

base64 でエンコードされた、実行ログの最後の 4 KB です。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

InvokeWithResponseStreamResponseEvent

レスポンスペイロードのチャunkを含むオブジェクト。ストリームが終了すると、Lambda には、InvokeComplete オブジェクトが含まれます。

目次

InvokeComplete

ストリームが終了し、すべてのペイロードチャunkが返されたときに返されるオブジェクト。

型: [InvokeWithResponseStreamCompleteEvent](#) オブジェクト

必須: いいえ

PayloadChunk

ストリーミングされたレスポンスペイロードのチャunk。

型: [InvokeResponseStreamUpdate](#) オブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

Layer

[AWS Lambda レイヤー](#)です。

目次

Arn

関数レイヤーの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_+:[0-9]+`

必須: いいえ

CodeSize

レイヤーアーカイブのサイズ (バイト単位)。

Type: Long

必須: いいえ

SignedJobArn

署名ジョブの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-\-]+)([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1}):\d{12}:(.*)`

必須: いいえ

SignedProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+\d{1})?:(\d{12})?:(.*?)`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

LayersListItem

[AWS Lambda レイヤー](#)に関する詳細。

目次

LatestMatchingVersion

レイヤーの最新バージョン。

タイプ: [LayerVersionsListItem](#) オブジェクト

必須: いいえ

LayerArn

関数レイヤーの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+\:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_-]+`

必須: いいえ

LayerName

レイヤーの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: `(arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+\:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_-]+)|[a-zA-Z0-9-_-]+`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

LayerVersionContentInput

[AWS Lambda レイヤー](#)のコンテンツが含まれる ZIP アーカイブ。Amazon S3 リクエストを指定することも、レイヤーアーカイブを直接アップロードすることもできます。

目次

S3Bucket

レイヤーアーカイブの Amazon S3 バケットです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 3 です。最大長は 63 です。

パターン: ^[0-9A-Za-z\.\-_]*(?<!\.)\$

必須: いいえ

S3Key

レイヤーアーカイブの Amazon S3 キーです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

S3ObjectVersion

バージョン管理されたオブジェクトの場合に使用する、レイヤーアーカイブオブジェクトのバージョンです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

ZipFile

レイヤーアーカイブの base64 エンコードコンテンツ。AWSSDK および AWS CLI クライアントによりエンコーディングが処理されます。

タイプ: Base64 でエンコードされたバイナリデータオブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- [「AWS SDK for Go」](#)
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

LayerVersionContentOutput

[AWS Lambda レイヤー](#)のバージョンに関する詳細。

目次

CodeSha256

レイヤーアーカイブの SHA-256 ハッシュ。

型: 文字列

必須: いいえ

CodeSize

レイヤーアーカイブのサイズ (バイト単位)。

Type: Long

必須: いいえ

Location

10 分間有効な Amazon S3 の レイヤーアーカイブへのリンク。

型: 文字列

必須: いいえ

SigningJobArn

署名ジョブの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

必須: いいえ

SigningProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

LayerVersionsListItem

[AWS Lambda レイヤー](#)のバージョンに関する詳細。

目次

CompatibleArchitectures

互換性のある[命令セットアーキテクチャ](#)のリストです。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 2 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

必須 : いいえ

CompatibleRuntimes

レイヤーの互換性のあるランタイム。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「[廃止されたランタイムでのポリシー](#)」を参照してください。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 15 項目です。

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

必須 : いいえ

CreatedDate

バージョンが作成された日付 (ISO 8601 形式)。例えば、2018-11-27T15:10:45.123+0000 です。

型: 文字列

必須: いいえ

Description

バージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

LayerVersionArn

レイヤーバージョンの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+:[0-9]+`

必須: いいえ

LicenseInfo

レイヤーのオープンソースライセンス。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 512 です。

必須: いいえ

Version

バージョン番号。

型: Long

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

目次

ApplicationLogLevel

このプロパティを設定して、Lambda が CloudWatch に送信する関数のアプリケーションログをフィルタリングします。Lambda は、選択した詳細レベル以下のアプリケーションログを送信します。TRACE が最上位レベル、FATAL が最下位レベルとなります。

型: 文字列

有効な値: TRACE | DEBUG | INFO | WARN | ERROR | FATAL

必須: いいえ

LogFormat

Lambda が関数のアプリケーションログとシステムログを CloudWatch に送信する形式。プレーンテキストと構造化 JSON のどちらかを選択します。

型: 文字列

有効な値: JSON | Text

必須: いいえ

LogGroup

関数からのログの送信先となる Amazon CloudWatch ロググループの名前。デフォルトでは、Lambda 関数は /aws/lambda/<function name> という名前のデフォルトロググループにログを送信します。別のロググループを使用するには、既存のロググループを入力するか、新しいロググループ名を入力します。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 512 です。

パターン: [\._\-/_#A-Za-z0-9]+

必須: いいえ

SystemLogLevel

このプロパティを設定して、Lambda が CloudWatch に送信する関数のシステムログをフィルタリングします。Lambda は、選択した詳細レベル以下ののみシステムログを送信します。DEBUG が最上位レベル、WARN が最下位レベルとなります。

型: 文字列

有効な値: DEBUG | INFO | WARN

必須 : いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

OnFailure

処理に失敗したイベントの送信先。

目次

Destination

送信先リソースの Amazon リソースネーム (ARN) です。

[非同期呼び出し](#) の記録を保持するには、Amazon SNS トピック、Amazon SQS キュー、Lambda 関数、または Amazon EventBridge イベントバスを送信先として設定できます。

[Kinesis および DynamoDB イベントソース](#) からの失敗した呼び出しの記録を保持するには、Amazon SNS トピックまたは Amazon SQS キューを送信先として設定できます。

[セルフマネージド Kafka](#) または [Amazon MSK](#) からの失敗した呼び出しの記録を保持するには、Amazon SNS トピック、Amazon SQS キュー、Amazon S3 バケットを送信先として設定できます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 350 です。

パターン: ^\$|arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-.])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-zA-Z+-]\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

OnSuccess

正常に処理されたイベントの送信先。

目次

Destination

送信先リソースの Amazon リソースネーム (ARN) です。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 350 です。

パターン: ^\$|arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-.])+([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

ProvisionedConcurrencyConfigListItem

関数のエイリアスまたはバージョンの、プロビジョニングされた同時実行数の設定の詳細。

目次

AllocatedProvisionedConcurrentExecutions

割り当てられたプロビジョニング済み同時実行数。線形デプロイと Canary デプロイ時に加重エイリアスを使用するとき、関数バージョンにプロビジョニングされる同時実行の量に応じて、この値は変動します。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。

必須: いいえ

AvailableProvisionedConcurrentExecutions

使用可能なプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。

必須: いいえ

FunctionArn

エイリアスまたはバージョンの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: いいえ

LastModified

ユーザーが最後に設定を更新した日時 ([ISO 8601 形式](#))。

型: 文字列

必須: いいえ

RequestedProvisionedConcurrentExecutions

リクエストされたプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

有効な範囲: 最小値は 1 です。

必須: いいえ

Status

割り当てプロセスのステータス

型: 文字列

有効な値: IN_PROGRESS | READY | FAILED

必須: いいえ

StatusReason

失敗した割り当ての、プロビジョニング済み同時実行を割り当てられなかつた理由。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラーです。

内容

Error

Lambda が関数のランタイムバージョンを取得できないときのエラーレスポンスです。

型: [RuntimeVersionError](#) オブジェクト

必須: いいえ

RuntimeVersionArn

関数に使用させるランタイムバージョンの ARN です。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 26 です。最大長は 2,048 です。

パターン: ^arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-+[a-z]+-\d{1}::runtime:..+\$

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

RuntimeVersionError

関数のランタイムバージョン情報を取得できなかったときに返されるエラーです。

目次

ErrorCode

エラーコードです。

型: 文字列

必須: いいえ

Message

エラーメッセージです。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。設定を削除するには、空の値を渡します。

目次

MaximumConcurrency

Amazon SQS イベントソースが呼び出せる同時インスタンスの数を制限します。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 2 です。最大値は 1000 です。

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

SelfManagedEventSource

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

目次

Endpoints

Kafka ブローカー用のポートストラップサーバーのリストは、次の形式で示されます:

"KAFKA_BOOTSTRAP_SERVERS": ["abc.xyz.com:xxxx", "abc2.xyz.com:xxxx"]。

タイプ: 文字列マップの配列への文字列

マップエントリ: 2 つの項目の最大数。

有効なキー: KAFKA_BOOTSTRAP_SERVERS

配列メンバー: 最小数は 1 項目です。最大数は 10 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 300 です。

パターン: ^(([a-zA-Z0-9] | [a-zA-Z0-9][a-zA-Z0-9\-\-]*[a-zA-Z0-9])\.)*([A-Za-z0-9] | [A-Za-z0-9][A-Za-z0-9\-\-]*[A-Za-z0-9]):[0-9]{1,5}

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- [「AWS SDK for Go」](#)
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

SelfManagedKafkaEventSourceConfig

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

目次

ConsumerGroupId

参加する Kafka コンシューマーグループの識別子。コンシューマーグループ ID は、すべての Kafka イベントソースの中で一意でなければなりません。コンシューマーグループ ID を指定して Kafka イベントソースマッピングを作成した後は、この値を更新することはできません。詳細については、[カスタマイズ可能なコンシューマーグループ ID](#)を参照してください。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 200 です。

パターン: [a-zA-Z0-9-\\/*:_+=.\\@-]*

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

SnapStart

関数の [Lambda SnapStart](#) 設定です。ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。

目次

ApplyOn

PublishedVersions に設定して、関数バージョンを発行するときに初期化された実行環境のスナップショットを作成します。

型: 文字列

有効な値: PublishedVersions | None

必須 : いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

SnapStartResponse

関数の [SnapStart](#) 設定です。

目次

ApplyOn

`PublishedVersions` に設定すると、関数バージョンを発行するときに、Lambda が実行環境のスナップショットを作成します。

型: 文字列

有効な値: `PublishedVersions` | `None`

必須 : いいえ

OptimizationStatus

[修飾 Amazon リソースネーム \(ARN\)](#) を指定すると、このレスポンス要素は、指定された機能バージョンに対して `SnapStart` がアクティブ化されているかどうかを示します。

型: 文字列

有効な値: `On` | `Off`

必須 : いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

SourceAccessConfiguration

イベントソースへのアクセスを保護して定義するために、認証プロトコル、VPC コンポーネント、仮想ホストを指定できます。

目次

Type

イベントソースの認証プロトコル、VPC コンポーネント、仮想ホストのタイプです。例:

"Type": "SASL_SCRAM_512_AUTH"。

- BASIC_AUTH – (Amazon MQ) ブローカー認証情報を保存する AWS Secrets Manager シークレット。
- BASIC_AUTH – (セルフマネージド Apache Kafka) Apache Kafka ブローカーの SASL/PLAIN 認証に使用されるシークレットキーの Secrets Manager ARN。
- VPC_SUBNET – (セルフマネージド Apache Kafka) VPC に関連付けられたサブネット。Lambda はこれらのサブネットに接続して、セルフマネージド Apache Kafka クラスターからデータをフェッチします。
- VPC_SECURITY_GROUP – (セルフマネージド Apache Kafka) セルフマネージド Apache Kafka ブローカーへのアクセスを管理するために使用される VPC セキュリティグループ。
- SASL_SCRAM_256_AUTH – (セルフマネージド Apache Kafka) セルフマネージド Apache Kafka ブローカーの SASL SCRAM-256 認証に使用されるシークレットキーの Secrets Manager ARN。
- SASL_SCRAM_512_AUTH – (Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka) セルフマネージド Apache Kafka ブローカーの SASL SCRAM-512 認証に使用されるシークレットキーの Secrets Manager ARN。
- VIRTUAL_HOST – (RabbitMQ) RabbitMQ ブローカー内の仮想ホストの名前。Lambda は、この RabbitMQ ホストをイベントソースとして使用します。このプロパティは、UpdateEventSourceMapping API コールでは指定できません。
- CLIENT_CERTIFICATE_TLS_AUTH – (Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka) MSK/Apache Kafka ブローカーの相互 TLS 認証に使用される証明書チェーン (X.509 PEM)、プライベートキー (PKCS #8 PEM)、およびプライベートキーパスワード (オプション) が含まれるシークレットキーの Secrets Manager ARN。

- SERVER_ROOT_CA_CERTIFICATE – (セルフマネージド Apache Kafka) Apache Kafka プロトコルの TLS 暗号化に使用されるルート CA 証明書 (X.509 PEM) が含まれるシークレットキーの Secrets Manager ARN。

型: 文字列

有効な値: BASIC_AUTH | VPC_SUBNET | VPC_SECURITY_GROUP | SASL_SCRAM_512_AUTH | SASL_SCRAM_256_AUTH | VIRTUAL_HOST | CLIENT_CERTIFICATE_TLS_AUTH | SERVER_ROOT_CA_CERTIFICATE

必須: いいえ

URI

Type で選択した構成の値。例: "URI": "arn:aws:secretsmanager:us-east-1:01234567890:secret:MyBrokerSecretName"。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 200 です。

パターン: [a-zA-Z0-9-\\/*:_+=.@-]*

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- [「AWS SDK for Go」](#)
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

TracingConfig

関数の [AWS X-Ray](#) トレース設定。受信リクエストのサンプリングと記録には、Mode を Active に設定します。

目次

Mode

トレースモード。

型: 文字列

有効な値: Active | PassThrough

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- [「AWS SDK for Go」](#)
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

TracingConfigResponse

関数の AWS X-Ray トレース設定。

目次

Mode

トレースモード。

型: 文字列

有効な値: Active | PassThrough

必須 : いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- [「AWS SDK for Go」](#)
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

VpcConfig

Lambda 関数に関連付けられている VPC セキュリティグループとサブネット。詳細については、「[VPC 内のリソースにアクセスするように Lambda 関数を設定する](#)」を参照してください。

目次

Ipv6AllowedForDualStack

デュアルスタックサブネットに接続されている VPC 機能でアウトバウンド IPv6 トラフィックを許可します。

型: ブール

必須: いいえ

SecurityGroupIds

VPC セキュリティグループ ID のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 5 つの項目の最大数。

必須: いいえ

SubnetIds

VPC サブネット ID のリスト。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 16 項目です。

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)

- ・ [「AWS SDK for Go」](#)
- ・ [AWS SDK for Java V2](#)
- ・ [AWS SDK for Ruby V3](#)

VpcConfigResponse

Lambda 関数に関連付けられている VPC セキュリティグループとサブネット。

目次

Ipv6AllowedForDualStack

デュアルスタックサブネットに接続されている VPC 機能でアウトバウンド IPv6 トライフィックを許可します。

型: ブール

必須: いいえ

SecurityGroupIds

VPC セキュリティグループ ID のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 5 つの項目の最大数。

必須: いいえ

SubnetIds

VPC サブネット ID のリスト。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 16 項目です。

必須: いいえ

VpcId

VPC の ID。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- [AWS SDK for C++](#)
- 「[AWS SDK for Go](#)」
- [AWS SDK for Java V2](#)
- [AWS SDK for Ruby V3](#)

共通パラメータ

次のリストには、すべてのアクションが署名バージョン 4 リクエストにクエリ文字列で署名するために使用するパラメータを示します。アクション固有のパラメータは、アクションのトピックに示されています。Signature Version 4 の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[AWS API リクエストの署名](#)」を参照してください。

Action

実行するアクション。

型: 文字列

必須: はい

Version

リクエストが想定している API バージョンである、YYYY-MM-DD 形式で表示されます。

型: 文字列

必須: はい

X-Amz-Algorithm

リクエストの署名を作成するのに使用したハッシュアルゴリズム。

条件: HTTP 認証ヘッダーではなくクエリ文字列に認証情報を含める場合は、このパラメータを指定します。

型: 文字列

有効な値: AWS4-HMAC-SHA256

必須: 条件による

X-Amz-Credential

認証情報スコープの値で、アクセスキー、日付、対象とするリージョン、リクエストしているサービス、および終了文字列 ("aws4_request") を含む文字列です。値は次の形式で表現されます。[access_key/YYYYYYYYYYYYMMDD/リージョン/サービス/aws4_request]

詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[署名付き AWS API リクエストの作成](#)」を参照してください。

条件: HTTP 認証ヘッダーではなくクエリ文字列に認証情報を含める場合は、このパラメータを指定します。

型: 文字列

必須: 条件による

X-Amz-Date

署名を作成するときに使用する日付です。形式は ISO 8601 基本形式の YYYYMMDD'T'HHMMSS'Z' でなければなりません。例えば、日付 20120325T120000Z は、有効な X-Amz-Date の値です。

条件: X-Amz-Date はすべてのリクエストに対してオプションです。署名リクエストで使用する日付よりも優先される日付として使用できます。ISO 8601 ベーシック形式で日付ヘッダーが指定されている場合、X-Amz-Date は必要ありません。X-Amz-Date を使用すると、常に Date ヘッダーの値よりも優先されます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[AWS API リクエスト署名の要素](#)」を参照してください。

タイプ[†]: 文字列

必須: 条件による

X-Amz-Security-Token

AWS Security Token Service (AWS STS) への呼び出しで取得された一時的なセキュリティトークン。AWS STS の一時的なセキュリティ認証情報をサポートするサービスのリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM と連携するAWS のサービス](#)」を参照してください。

条件: AWS STS の一時的なセキュリティ認証情報を使用する場合、セキュリティトークンを含める必要があります。

タイプ[†]: 文字列

必須: 条件による

X-Amz-Signature

署名する文字列と派生署名キーから計算された 16 進符号化署名を指定します。

条件: HTTP 認証ヘッダーではなくクエリ文字列に認証情報を含める場合は、このパラメータを指定します。

型: 文字列

必須: 条件による

X-Amz-SignedHeaders

正規リクエストの一部として含まれていたすべての HTTP ヘッダーを指定します。署名付きヘッダーの指定に関する詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[署名付き AWS API リクエストの作成](#)」を参照してください。

条件: HTTP 認証ヘッダーではなくクエリ文字列に認証情報を含める場合は、このパラメータを指定します。

型: 文字列

必須: 条件による

共通エラー

このセクションでは、AWS のすべてのサービスの API アクションに共通のエラーを一覧表示しています。このサービスの API アクションに固有のエラーについては、その API アクションのトピックを参照してください。

AccessDeniedException

このアクションを実行する十分なアクセス権限がありません。

HTTP ステータスコード: 403

ExpiredTokenException

リクエストに含まれているセキュリティトークンが有効期限切れです

HTTP ステータスコード: 403

IncompleteSignature

リクエストの署名が AWS 標準に従っていません。

HTTP ステータスコード: 403

InternalFailure

リクエストの処理が、不明なエラー、例外、または障害により実行できませんでした。

HTTP ステータスコード: 500

MalformedHttpRequestException

HTTP レベルでのリクエストの問題 (例えば、コンテンツエンコードで指定された解凍アルゴリズムに従って本文を解凍することはできません)。

HTTP ステータスコード: 400

NotAuthorized

このアクションを実行するにはアクセス許可が必要です。

HTTP ステータスコード: 401

OptInRequired

サービスを利用するためには、AWS アクセスキー ID を取得する必要があります。

HTTP ステータスコード: 403

RequestAbortedException

返信の送信前にリクエストが中止されたときに使用できる例外 (クライアントが閉じた接続など)。

HTTP ステータスコード : 400

RequestEntityTooLargeException

HTTP レベルでのリクエストに関する問題。リクエストエンティティが大きすぎます。

HTTP ステータスコード: 413

RequestExpired

リクエストの日付スタンプの 15 分以上後またはリクエストの有効期限 (署名付き URL の場合など) の 15 分以上後に、リクエストが到着しました。または、リクエストの日付スタンプが現在より 15 分以上先です。

HTTP ステータスコード : 400

RequestTimeoutException

HTTP レベルでのリクエストに関する問題。リクエストの読み取りがタイムアウトしました。

HTTP ステータスコード: 408

ServiceUnavailable

サーバーの一時的な障害により、リクエストは失敗しました。

HTTP ステータスコード: 503

ThrottlingException

リクエストのスロットリングにより、リクエストが拒否されました。

HTTP ステータスコード : 400

UnrecognizedClientException

指定された X.509 証明書または AWS アクセスキー ID がレコード内に見つかりません。

HTTP ステータスコード: 403

UnknownOperationException

リクエストされたアクション、またはオペレーションは無効です。アクションが正しく入力されていることを確認してください。

HTTP ステータスコード: 404

ValidationError

入力が、AWS サービスで指定された制約を満たしていません。

HTTP ステータスコード : 400